

## 県立高校入試制度の沿革

参考資料 1

入試年度	推 薦	一 般	その他
S24 (1949)		・総合テストで開始（検査は1日）。	・「岩手県立高等学校学則」により21学区設置。
S30 (1955)			・学区の新設により25学区に変更。
S32 (1957)		・学力検査9教科120点に変更。	
S33 (1958)			・「岩手公立高等学校の通学区域に関する規則」により20学区に変更。 （盛岡、沼宮内、平舘、紫波、花巻・土沢、大迫、北上、水沢・前沢、岩谷堂、一関・花泉、摺沢、千厩・藤沢、気仙、釜石・大槌、遠野、山田、宮古・岩泉、久慈、軽米・福岡、一戸） ・学区外許容率を20%に設定。
S38 (1963)		・学力検査を9教科400点、検査日を2日間に変更。	
S39 (1964)		・面接について、一部の学校で開始（県教委の事前承認が必要）。	
S42 (1967)		・学力検査を国語、社会、数学、理科、英語の5教科各100点に変更。 ・学力検査と報告書（現調査書）の成績を同等扱い。	
S44 (1969)			・報告書（中学校からの提出書類で、志願者の成績等が記載されたもの）について、調査書と名称変更。
S47 (1972)		・英語でヒアリングテスト（現リスニングテスト）導入。	
S50 (1975)		・学力検査を5教科各60点、検査日を1日に変更。	
S53 (1978)	・農業、工業、商業、水産、家庭学科で開始（定員の10%）。		・学区外許容率を15%に変更。
S55 (1980)			・工業学科での一括募集開始。

S57 (1982)	・定員の20%に割合拡大。		・定時制と文部省指定技能教育施設との技能連携開始。
S58 (1983)			
S59 (1984)	・体育科で開始。 (体育科は定員の30%)	・適性検査について、体育科で開始。	
S60 (1985)		・面接について全校での実施開始。 (選抜資料としない。)	
S61 (1986)	・理数科、英語科で開始。 (理数、体育、英語科は定員の30%)		
S62 (1987)	・普通科の職業に準ずるコースで開始。 ・全学科について、割合を定員の20又は30%に変更。	・面接を選抜の総合判定の資料に追加。 (得点化せず、総合判定の資料として扱う。)	
S63 (1988)	・普通科の芸術、外国語、体育学系で開始。		・杜陵高校定時制課程への単位制導入に伴って、他の選抜日程とは別日程(再募集に準ずる日程)での募集開始。
H1 (1989)	・普通科のうち希望校で開始。 (定員の5%程度)		
H2 (1990)			・調査書に中学1年の成績を記載。 (得点化しない)
H3 (1991)			・工業学科での一括募集廃止。 ・農業学科での家庭調書廃止。
H4 (1992)	・普通科の全校で開始。 (普通科は定員の5%程度、普通科の芸術・外国語・体育・情報系学系・コースは定員の20又は30%、専門学科は定員の20又は30%)。		
H6 (1994)	・割合の拡大。 (普通科は定員の10%以内、普通科の芸術・体育学系・コース、体育科		・調査書に観点別学習状況(3年)や参考となること(ボランティア活動等)の記載を追加。 ・杜陵高校定時制において、一般入試日程とあわせた募集も開始(第1回、第2回)。

	は定員の50%以内、専門学科は20又は30%、総合学科は定員の20%以内)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩谷堂高校への総合学科設置に伴い、岩谷堂学区の廃止。 (盛岡・雫石、沼宮内・葛巻、平舘、紫波、花巻・東和、大迫、黒沢尻、水沢・前沢・金ケ崎、一関・花泉、大東、藤沢・千厩、高田・大船渡・住田、釜石・大槌、遠野、山田、宮古・岩泉、久慈・種市、軽米・福岡、一戸の19学区)</li> </ul>
H7 (1995)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・再募集を行わない基準について、全日制では欠員が30%未満と明確化。</li> <li>・杜陵高校定時制を、前期日程、後期日程として実施開始。</li> </ul>
H8 (1996)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科で定員の10%、体育科で定員の50%に割合の固定化。</li> <li>・総合学科で、定員の30%に割合拡大。</li> </ul>		
H9 (1996)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格者の受検番号での発表を開始。 (氏名の非公表化)</li> </ul>
H10 (1998)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数科、国際関連学科で学力検査点の傾斜配点を導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県公立高等学校入学者選抜の在り方に関する調査研究委員会 (H10.11～H12.3)</li> </ul>
H11 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科で、定員の20又は30%に割合の弾力化。</li> </ul>		
H12 (2000)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県立高等学校入学者選抜方策検討委員会 (H12.6～H13.7)</li> </ul>
H14 (2002)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力検査等得点の口頭による開示請求開始。</li> </ul>
H15 (2003)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携型入試(中高一貫)の開始(葛巻、軽米)。</li> </ul>
H16 (2004)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力検査を5教科各100点、検査日を2日間に変更。 (検査日を1週間程度前倒し) 1日目：学力検査(5教科)、自己アピールカードの記入 2日目：面接、英語応答試験</li> <li>・英語による応答試験の導入。</li> <li>・面接を得点化(自己アピールカードの導入)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査書の様式見直し。 (観点別学習状況(3年)、健康の記録、行動の記録、総合所見の欄削除)</li> <li>・再募集を欠員がある学科は必ず実施。</li> <li>・学区の見直し。</li> </ul>

		<p>・配点</p> <table border="1" data-bbox="757 193 1527 395"> <tr> <td>学力検査</td> <td>500</td> <td rowspan="2">500</td> <td rowspan="5">1000</td> </tr> <tr> <td>調査書（9教科の中学2、3年生の評定）</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td rowspan="3">170</td> </tr> <tr> <td>小論文・作文 ※一部</td> </tr> <tr> <td>適性検査（実技等） ※一部</td> </tr> </table> <p>・異なる評価尺度での選抜を行うために、ABC選考を導入。  A選考は、学力検査：調査書、面接等 = 5：5。  ※ A選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。  B選考は、学力検査：調査書、面接等 = 3：7、2：8又は1：9。  C選考は、学力検査：調査書、面接等 = 7：3、8：2又は9：1。  ※ B、C選考の配点比は各校で決定。</p> <p>・選抜は、次の①～④から各学校が選択した方法により実施。</p> <table border="1" data-bbox="757 671 1435 831"> <tr> <td>①</td> <td>A選考50% → B選考40% → C選考10%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>A選考60% → B選考30% → C選考10%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>A選考70% → B選考20% → C選考10%</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>A選考80% → B選考10% → C選考10%</td> </tr> </table>	学力検査	500	500	1000	調査書（9教科の中学2、3年生の評定）	330	面接	170	小論文・作文 ※一部	適性検査（実技等） ※一部	①	A選考50% → B選考40% → C選考10%	②	A選考60% → B選考30% → C選考10%	③	A選考70% → B選考20% → C選考10%	④	A選考80% → B選考10% → C選考10%	<p>（盛岡、岩手中部、胆江、両磐、気仙・釜石、宮古、久慈、二戸の8学区）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学区外許容率を10%に変更。</li> <li>・入試事務運用管理システムの導入。</li> </ul>
学力検査	500	500	1000																		
調査書（9教科の中学2、3年生の評定）	330																				
面接	170																				
小論文・作文 ※一部																					
適性検査（実技等） ※一部																					
①	A選考50% → B選考40% → C選考10%																				
②	A選考60% → B選考30% → C選考10%																				
③	A選考70% → B選考20% → C選考10%																				
④	A選考80% → B選考10% → C選考10%																				
<p>H17 (2005)</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高校入試改善検討委員会 (H17.9～H18.5)</li> </ul>																		
<p>H19 (2007)</p>	<p>・再開。  <b>【応募資格】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内中学校等を卒業見込みの者又は前年度卒業者</li> <li>・スポーツ、文化・芸術等において顕著な成績を収める者</li> <li>・各高校の推薦基準を満たす者</li> </ul> <p><b>【募集定員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員の10%以内。ただし、普通科の体育・芸術学系・コース、体育科は20%以内。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査日を1日に変更。</li> <li>・英語による応答試験の廃止。</li> <li>・自己アピールカードの事前提出。</li> <li>・配点を見直し、面接、小論文・作文、適性検査を170点から70点に変更。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="757 1054 1527 1257"> <tr> <td>学力検査</td> <td>500</td> <td rowspan="2">400</td> <td rowspan="5">900</td> </tr> <tr> <td>調査書（9教科の中学2、3年生の評定）</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td rowspan="3">70</td> </tr> <tr> <td>小論文・作文 ※一部</td> </tr> <tr> <td>適性検査（実技等） ※一部</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ABC選考の見直し。  A選考は、学力検査：調査書、面接等 = 5：4。  ※ A選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。  B選考は、学力検査：調査書、面接等 = 3：7、2：8又は1：9。</li> </ul>	学力検査	500	400	900	調査書（9教科の中学2、3年生の評定）	330	面接	70	小論文・作文 ※一部	適性検査（実技等） ※一部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再募集を実施する基準について、欠員が概ね10%超で可能と変更。</li> <li>・理数科について、普通科とのくくり募集開始。</li> </ul>								
学力検査	500	400	900																		
調査書（9教科の中学2、3年生の評定）	330																				
面接	70																				
小論文・作文 ※一部																					
適性検査（実技等） ※一部																					

		<p>C選考は、学力検査：調査書、面接等 = 7：3、8：2又は9：1。          ※ B、C選考の配点比は各校で決定。          ・選抜は、次の①～⑦から各学校が選択した方法により実施。</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>A選考50% → B選考40% → C選考10%</td></tr> <tr><td>②</td><td>A選考50% → B選考30% → C選考20%</td></tr> <tr><td>③</td><td>A選考60% → B選考30% → C選考10%</td></tr> <tr><td>④</td><td>A選考60% → B選考20% → C選考20%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>A選考70% → B選考20% → C選考10%</td></tr> <tr><td>⑥</td><td>A選考70% → B選考10% → C選考20%</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>A選考80% → B選考10% → C選考10%</td></tr> </table>	①	A選考50% → B選考40% → C選考10%	②	A選考50% → B選考30% → C選考20%	③	A選考60% → B選考30% → C選考10%	④	A選考60% → B選考20% → C選考20%	⑤	A選考70% → B選考20% → C選考10%	⑥	A選考70% → B選考10% → C選考20%	⑦	A選考80% → B選考10% → C選考10%	
①	A選考50% → B選考40% → C選考10%																
②	A選考50% → B選考30% → C選考20%																
③	A選考60% → B選考30% → C選考10%																
④	A選考60% → B選考20% → C選考20%																
⑤	A選考70% → B選考20% → C選考10%																
⑥	A選考70% → B選考10% → C選考20%																
⑦	A選考80% → B選考10% → C選考10%																
H20 (2008)	・志願先に2つ以上の学科がある場合、第2・第3志望も可能に変更。																
H21 (2009)	・体育・芸術系・コース、体育科で、定員の50%以内に割合拡大。																
H22 (2010)		・新型インフルエンザ対策として、追検査を臨時的に実施。	・県立高校入試改善検討委員会 (H22. 6～H23. 8)														
H24 (2012)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携型入試実施日を、推薦入試検査日から一般入試検査日に変更。</li> <li>・併設型中高一貫での入学開始（一関第一）。</li> <li>・東日本大震災津波の被災者を対象として、入学選考料の免除等の配慮開始。</li> </ul>														
H27 (2015)			・くずまき山村留学開始（学区内扱い）。														
H28 (2016)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募資格Bとして、「将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者」を追加（従来の応募資格は、応募資格A）。</li> <li>応募資格A：スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ者</li> <li>応募資格B：将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者</li> <li>・推薦入試合格者を対象とした学力調査を一般入試検査日に実施開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査書の中学1年の成績を得点化。</li> <li>・配点の見直し。</li> </ul> <table border="1"> <tr><td>学力検査</td><td>500</td><td rowspan="4">500</td><td rowspan="4">1000</td></tr> <tr><td>調査書（9教科の中学1～3年生の評定）</td><td>440</td></tr> <tr><td>面接</td><td rowspan="2">60</td></tr> <tr><td>小論文・作文 ※一部</td></tr> <tr><td>適性検査（実技等） ※一部</td><td></td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ABC選考の見直し。</li> <li>A選考は、学力検査：調査書、面接等 = 5：5。</li> <li>※ A選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。</li> </ul>	学力検査	500	500	1000	調査書（9教科の中学1～3年生の評定）	440	面接	60	小論文・作文 ※一部	適性検査（実技等） ※一部		<ul style="list-style-type: none"> <li>・再募集の名称を「二次募集」に変更。</li> <li>・二次募集を実施する基準について、欠員が10%以上（10%未満でも可）と変更。</li> </ul>			
学力検査	500	500	1000														
調査書（9教科の中学1～3年生の評定）	440																
面接	60																
小論文・作文 ※一部																	
適性検査（実技等） ※一部																	

		<p>B選考は、学力検査：調査書、面接等 = 3：7に統一。  C選考は、学力検査：調査書、面接等 = 7：3に統一。  ・選抜は、次の①～⑦から各学校が選択した方法により実施。</p> <table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>A選考100%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>A選考70% → B選考30%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>A選考70% → B選考20% → C選考10%</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>A選考70% → B選考10% → C選考20%</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>A選考70% → C選考30%</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>A選考70% → C選考20% → B選考10%</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>A選考70% → C選考10% → B選考20%</td> </tr> </table> <p>・定時制成人枠を導入。</p>	①	A選考100%	②	A選考70% → B選考30%	③	A選考70% → B選考20% → C選考10%	④	A選考70% → B選考10% → C選考20%	⑤	A選考70% → C選考30%	⑥	A選考70% → C選考20% → B選考10%	⑦	A選考70% → C選考10% → B選考20%	
①	A選考100%																
②	A選考70% → B選考30%																
③	A選考70% → B選考20% → C選考10%																
④	A選考70% → B選考10% → C選考20%																
⑤	A選考70% → C選考30%																
⑥	A選考70% → C選考20% → B選考10%																
⑦	A選考70% → C選考10% → B選考20%																
H29 (2017)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議（H29.6～H30.7）</li> </ul>														
H31 (R1) (2019)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザ等により検査を受検できない志願者を対象として、追検査を開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能連携の廃止。</li> <li>・高校生おおはさま留学開始（学区内扱い）。</li> </ul>														
R2 (2020)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科・総合学科で応募資格A及びBの両方で募集する場合、農業学科は定員の20%以内、農業学科以外は15%以内に割合拡大。</li> <li>・種市高校海洋開発科について、推薦入試でも県外からの志願者の受入れを開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外からの志願者受入れ（学区外扱い）を開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般、連携で、学力検査等成績の通知を開始。</li> </ul>														
R3 (2021)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、時差集合、面接の不実施、教科の検査の間の休憩時間の10分延長。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特設ウェブサイトで全県立高校の合格者番号を発表（新型コロナウイルス感染症対策）。</li> <li>・県立高校入試改善検討委員会（R3.7～R4.8（予定））</li> </ul>														
R4 (2022)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、時差集合、面接の不実施、教科の検査の間の休憩時間の10分延長。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力検査等の得点の口頭による開示請求を廃止。</li> <li>・学力検査等成績の通知を推薦合格者の学力調査、杜陵定時制（前期・後期）、二次募集でも開始。</li> <li>・西和賀ふるさと留学開始（学区内扱い）。</li> </ul>														

# 令和4年度岩手県立高等学校入学者選抜

## 推薦入学者選抜実施概要

- 1 推薦入学者選抜については、令和4年度岩手県立高等学校入学者選抜実施要項に従い、手続きをすること。
- 2 志願先高等学校に二つ以上の学科（学系・コース）がある場合には、第2、第3志望まで出願することができる。  
ただし、異なる適性検査を実施する学科（学系・コース）への出願は二つまでとする。  
学科（学系・コース）により推薦基準が異なる場合には、志望するすべての学科（学系・コース）の推薦基準を満たさなければならないものとする。
- 3 小論文又は作文、適性検査の実施の有無、内容等が異なる学科（学系・コース）を第2、第3志望とする場合には、当該学科の検査も実施する。  
ただし、学科（学系・コース）の募集定員を第1志望の志願者で満たしている場合には、第2、第3志望の志願者に対し適性検査を実施せず、選抜の対象としない。
- 4 高等学校によっては、志願者が多い場合、志願理由書及び調査書により、一次選考を行うことがある。
- 5 岩手県スポーツ特別強化指定校について、現在の特別強化指定校は、競技実績等により令和3年度で指定が終了する場合がある。
- 6 ある活動の実績等によって応募資格を満たす志願者が推薦入学者選抜に合格した場合、高等学校において、その活動を義務づけるものではない。

岩手県教育委員会

## 令和4年度岩手県立高等学校入学者選抜推薦入学者選抜実施概要一覧

No.	学校名	学科・学系・コース	定員	推薦入学者選抜			
				有無	資格	%	人
1	盛岡第一	普通・理数	280	有	A	10	28
2	盛岡第二	普通	200	有	A	10	20
3	盛岡第三	普通	280	有	A	10	28
4	盛岡第四	普通	240	有	A	10	24
5	盛岡北	普通	200	有	A	10	20
6	盛岡南	普通	160	有	A	10	16
		体育コース	40	有	A	50	20
		体育	40	有	A	50	20
7	不来方	普通	160	有	A	10	16
		人文・理数	40	有	A	40	16
		芸術	40	有	A	10	4
		外国語	40	有	A	50	20
	体育	40	有	A	50	20	
9	盛岡農業	動物科学	40	有	AB	20	8
		植物科学	40	有	AB	20	8
		食品科学	40	有	AB	20	8
		人間科学	40	有	AB	20	8
		環境科学	40	有	AB	20	8
10	盛岡工業	機械	40	有	AB	15	6
		電気	40	有	AB	15	6
		電子情報	40	有	AB	15	6
		電子機械	40	有	AB	15	6
		工業化学	40	有	AB	15	6
		土木	40	有	AB	15	6
		建築・デザイン	40	有	AB	15	6
		流通ビジネス	80	有	AB	15	12
	会計ビジネス	80	有	AB	15	12	
	情報ビジネス	80	有	AB	15	12	
12	沼宮内	普通	80	有	A	10	8
13	葛巻	普通	80	有	AB	10	8
14	平舘	普通	40	有	A	10	4
		家政科学	40	有	AB	10	4
15	雫石	普通	40	有	A	10	4
16	紫波総合	総合	160	有	AB	15	24
17	花巻北	普通	240	有	A	10	24

No.	学校名	学科・学系・コース	定員	推薦入学者選抜			
				有無	資格	%	人
18	花巻南	普通	120	有	A	10	12
		人文・自然科学	40	有	A	50	20
		スポーツ健康科学	40	有	A	10	4
	国際科学	40	有	A	10	4	
19	花巻農業	生物科学	40	有	AB	20	8
		環境科学	40	有	AB	20	8
		食農科学	40	有	AB	20	8
20	花北青雲	情報工学	40	有	A	10	4
		ビジネス情報	80	有	A	10	8
		総合生活	40	有	A	10	4
21	大迫	普通	40	有	A	10	4
22	遠野	普通	160	有	A	10	16
23	遠野緑峰	生産技術	40	有	AB	20	8
		情報処理	40	有	AB	15	6
24	黒沢尻北	普通	240	有	A	10	24
25	北上翔南	総合	200	有	A	10	20
26	黒沢尻工業	機械	40	有	AB	15	6
		電気	40	有	AB	15	6
		電子	40	有	AB	15	6
		電子機械	40	有	AB	15	6
		土木	40	有	AB	15	6
		材料技術	40	有	AB	15	6
27	西和賀	普通	40	有	A	10	4
28	水沢	普通・理数	240	有	A	10	24
29	水沢農業	農業科学	40	有	AB	20	8
	食品科学	40	有	AB	20	8	
30	水沢工業	機械	40	有	A	10	4
		電気	40	有	A	10	4
		設備システム	40	有	A	10	4
	インテリア	40	有	A	10	4	
31	水沢商業	商業	40	有	AB	15	6
		会計ビジネス	40	有	AB	15	6
		情報システム	40	有	AB	15	6
32	前沢	普通	80	有	A	10	8
33	金ヶ崎	普通	80	有	A	10	8

No.	学校名	学科・学系・コース	定員	推薦入学者選抜			
				有無	資格	%	人
34	岩谷堂	総合	120	有	AB	15	18
35	一関第一	普通・理数	200	有	A	10	20
36	一関第二	総合	200	有	A	10	20
37	一関工業	電気電子	40	有	AB	15	6
		電子機械	40	有	AB	15	6
		土木	40	有	AB	15	6
38	花泉	普通	40	有	A	10	4
39	大東	普通	80	有	A	10	8
		情報ビジネス	40	有	A	10	4
40	千厩	普通	120	有	A	10	12
		生産技術	40	有	A	10	4
		産業技術	40	有	A	10	4
41	高田	普通	120	有	A	10	12
		海洋システム	40	有	A	10	4
42	大船渡	普通	160	有	A	10	16
43	大船渡農	農芸科学	40	有	A	10	4
		機械電気	40	有	A	10	4
		情報処理	40	有	A	10	4
		食物文化	40	有	A	10	4
44	住田	普通	40	有	A	10	4
45	釜石	普通・理数	160	有	A	10	16
46	釜石商工	機械	40	有	A	10	4
		電気電子	40	有	A	10	4
		総合情報	40	有	A	10	4
47	大槌	普通	80	有	A	10	8
48	山田	普通	40	有	A	10	4
49	宮古	普通	200	有	A	10	20
50	宮古北	普通	40	有	A	10	4
51	宮古商工	機械システム	40	有	AB	15	6
		電気システム	40	有	AB	15	6
		総合ビジネス	40	有	A	10	4
		流通ビジネス	40	有	A	10	4
	情報ビジネス	40	有	A	10	4	

No.	学校名	学科・学系・コース	定員	推薦入学者選抜			
				有無	資格	%	人
52	宮古水産	海洋生産	40	有	AB	15	6
		食物	40	有	AB	15	6
53	岩泉	普通	80	有	AB	10	8
54	久慈	普通	160	有	A	10	16
55	久慈東	総合	200	有	A	10	20
56	久慈工業	電子機械	40	有	A	10	4
		建設環境	40	有	A	10	4
57	種市	普通	40	有	A	10	4
		海洋開発	40	有	B	10	4
58	大野	普通	40	有	A	10	4
59	軽米	普通	80	有	A	10	8
60	伊保内	普通	40	有	A	10	4
61	福岡	普通	160	有	A	10	16
62	福岡工業	機械システム	40	有	A	10	4
		電気情報システム	40	有	A	10	4
63	一戸	総合	120	有	AB	15	18

No.	学校名	学科・学系・コース	定員	有無	資格	推薦入学者選抜			
						%	人		
定1	杜陵	普通	1・2部	80	無				
						3部	20	無	
						屋間部	30	無	
定2	盛岡工業	工業		40	無				
						夜間部	30	無	
定3	一関第一	普通		40	無				
定4	大船渡	普通		40	無				
定5	釜石	普通		40	無				
定6	宮古	普通		40	無				
定7	久慈長内	普通	屋間部	40	無				
						夜間部	40	無	
定8	福岡	普通		40	無				

学校番号	学 校 名	課 程
1	盛岡第一高等学校	全日制

学科名	普通・理数科（くくり募集）	定員	280名
募集定員	10%（28名）		
推薦基準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 学習成績・人物ともに優れ、基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 スポーツ、文化・芸術の活動において次のいずれかに該当し、入学後も下に示す本校の当該の部で引き続き活動し、活躍が期待できる者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)、(2)は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>(1) 中学校体育連盟等が主催する体育活動で次の項目に該当する者</p> <p>ア 常時試合に出場し、チームの主力として活躍した者であり、団体または個人で県大会ベスト4以上の成績を収めた者 なお、野球に関しては、次のいずれかに該当する者も含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全日本少年軟式野球大会岩手県予選」または各「Kボール大会」において、常時試合に出場し、チームの主力として活躍した者であり、ベスト4以上の成績を収めた者</li> <li>・リトルシニア及びボーイズリーグの各種大会において常時試合に出場し、チームの主力として活躍した者</li> </ul> <p>イ 各競技における県優秀選手・選抜選手・強化選手またはそれに準ずる者</p> <p>ウ 「いわてスーパーキッズ」に選ばれ、そのプログラムの修了見込みの者</p> <p>(2) 文化・芸術活動において団体または個人での東北大会出場、またはそれに相当する成績を収めた者 ただし、大会名と主催団体名、参加校数・出展作品数、予選の有無等を明記し、その成績を具体的に説明できること。</p> <p>&lt;運動部&gt;</p> <p>弓道（男女）、剣道（男女）、硬式野球（男）、サッカー（男）、柔道（男女）、水泳（男女）、ソフトテニス（男女）、卓球（男女）、テニス（男女）、登山（男女）、バスケットボール（男女）、バドミントン（男女）、バレーボール（男女）、ハンドボール（男）、ラグビー（男）、陸上競技（男女）</p> <p>&lt;文化部&gt;</p> <p>音楽、美術、書道、吹奏楽、物理、化学、生物、天文、英語、囲碁将棋、文学研究</p> <p>※ 本校は陸上競技女子、登山女子が県スポーツ特別強化指定を受けています</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（5分）</li> <li>2 適性検査 口頭試問（20分）中学校における学習成果を問う内容（国語・数学・英語）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（80点） 「各教科の学習の記録」1・2・3年の国語・社会・数学・理科・英語の評定合計の2倍（150点）と、1・2・3年の音楽・美術・保体・技家の評定合計（60点）の合計210点を80点に圧縮</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（30点）</li> <li>4 適性検査（90点） 国語・数学・英語、各30点</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	志願者が定員の3倍以上の場合には、一次選考を実施することがある		

学校番号	学 校 名	課 程
2	盛岡第二高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	200名
募集定員	10% (20名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4又は5の条件のいずれかに該当する者 なお、4、5は応募資格Aに該当する。</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持ち、大学進学等を目指し意欲的に勉学に取り組む者</p> <p>2 学習成績及び人物ともに優れ、基本的な生活習慣が身につけている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 スポーツ、文化・芸術の活動において次のいずれかに該当し、入学後も下に示す本校の当該の部で引き続き活動し、活躍が期待される者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、大会等の実績は、中学校1・2年次のものを含む。</p> <p>(1) 中学校体育連盟等が主催する体育活動において、県大会出場以上の成績を収めた者（ただし、団体競技は選手として出場した者）</p> <p>(2) 中学校体育連盟等が主催する体育活動において、県選抜選手（候補を含む）等の実績を持つ者</p> <p>(3) 体操、なぎなたにおいて、特に優れた実績（国体強化選手等）を持つ者</p> <p>(4) 中学校文化連盟等が主催する文化・芸術活動において、次のいずれかの成績を収めた者（ただし、大会名と主催団体名、参加校数・出展作品数、予選の有無等を明記し、その成績を具体的に説明できること）</p> <p>ア 音楽、吹奏楽において、東北大会規模以上の発表会・コンクール等に出場した者、又は、出場資格を得た者</p> <p>イ 書道、美術において、県最優秀賞と同等又はそれ以上の成績を収めた者</p> <p>5 「いわてスーパーキッズ」のプログラム修了見込みの者で、入学後に下に示す本校の運動部で活動し、活躍が期待される者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</p> <p>&lt;運動部&gt; 陸上競技、体操、バスケットボール、バレーボール、卓球、ソフトテニス、 ハンドボール、バドミントン、なぎなた</p> <p>&lt;文化部&gt; 書道、美術、音楽、吹奏楽</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接（2回）とする（あわせて15分程度）		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」1年の5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の評定合計（25点）と2・3年の5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の評定合計の2倍（100点）の合計125点を100点に圧縮</p> <p>2 実績（150点） 調査書及び志望理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接（50点）</p> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
3	盛岡第三高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	280名
募集定員	10% (28名)		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たしている者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習成績・人物ともに優れ、本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学2～3年次の体育活動において(1)～(6)のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(6)は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>(1) 中体連主催大会(県中総体または県新人戦等)において、先発メンバーとして試合に出場し、主力として活躍した者で、団体競技でベスト8以上の実績を収めた者、または、個人競技で8位以上の実績を収めた者</p> <p>(2) 「国体」に出場した者、または、※1の競技において「JOCジュニアオリンピックカップ県予選大会」に主力として出場し、ベスト8以上の実績を収めた者</p> <p>※1 陸上競技、バレーボール、卓球、バドミントン、水泳、スキー</p> <p>(3) ア～キのいずれかの大会に主力として出場し、ベスト8以上の実績を収めた者</p> <p>ア 陸上競技 : 「全日本中学校通信陸上競技大会岩手県大会」  イ 新体操(女子) : 「岩手県ジュニア新体操選手権大会」(団体または個人)  ウ バスケットボール : 「Jr. ウインターカップ全国 U-15 バスケットボール選手権大会岩手県予選会」  エ 剣道 : 「岩手県道場少年剣道大会」  オ サッカー : 「全日本クラブユースサッカー選手権(U-15)岩手県大会」  カ ラグビー : 「全国中学生ラグビー大会岩手県予選」  キ 野球 : 「岩手県中学生KB野球選手権大会」</p> <p>(4) アまたはイの実績を持つ者</p> <p>ア 野球 : 「春季東北大会(リトルシニア)」または「日本リトルシニア野球選手権東北大会」に先発メンバーとして出場し、チームの主力として活躍した者  イ 新体操 : 「全日本ジュニア新体操選手権東北ブロック予選会」に出場した者</p> <p>(5) ※2の競技において、東北大会以上の大会出場を目的として、各競技団体が認定する県の選抜選手に指名された者、または、その選抜候補選手(最終選考会に参加した者に限る)に指名された者</p> <p>※2 陸上競技、バスケットボール、バレーボール、野球(KB)、サッカー、ラグビー、ハンドボール、ソフトテニス</p> <p>(6) 「いわてスーパーキッズ」に認定され、プログラム終了見込みの者</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接(12分)</li> <li>2 小論文 600字(50分)</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書(100点) 「各教科の学習の記録」1・2年の5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の評定合計(各25点)+3年の5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の評定合計の2倍(50点)</li> <li>2 実績(100点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接(60点)</li> <li>4 小論文(40点)</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
4	盛岡第四高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	240名
募集定員	10% (24名)		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持っている者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切であり、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以内の者</p> <p>5 下記に示した部活動で、次のいずれかの実績を持ち、本校入学後も本校でその部活動へ所属し活動する意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(5)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 中学校体育連盟が主催する体育活動で次のいずれかの成績を収めた者 ア 団体で県大会出場以上(ただし、レギュラーであること) イ 個人で県大会ベスト16以上 ウ 各競技で県優秀選手・強化選手</p> <p>(2) 野球に関しては「Kボール大会」において、レギュラーとして活躍し、県大会ベスト8以上の成績を収めた者も含む</p> <p>(3) 硬式テニスに関しては、岩手県テニス協会が主催するジュニアカテゴリーの県大会で、中学2・3年で個人戦ベスト4以上の成績を収めた者</p> <p>(4) 岩手県が主催する「いわてスーパーキッズ」に選ばれ、専門的なトレーニングを積んだ者で、本校入学後は下記に示した部活動に所属する意志のある者</p> <p>(5) 学校内外での下記の部に該当する体育活動、文化・芸術活動において(1)と同等、または、それ以上の成績を収めた者</p> <p>&lt;運動部&gt; 野球(男)、ハンドボール(男)、陸上競技、サッカー(男)、剣道、硬式テニス</p> <p>&lt;文化部&gt; 文芸、美術、書道、音楽(合唱)</p>		
検査内容	<p>○ 面接 個人面接(15分)</p>		
選抜方法	<p>1 調査書(100点) 「各教科の学習の記録」(1・2・3年の9教科の評定の合計135点を100点に圧縮)</p> <p>2 実績(100点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接(100点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	<p>志願者が定員の2倍を超える場合には、一次選考を実施することがある</p>		

学校番号	学 校 名	課 程
5	盛岡北高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	200名
募集定員	10 % (20名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件に該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身につけている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 スポーツ、文化・芸術等で次の(1)～(3)のいずれかの実績を持ち、本校入学後も当該部活動に所属し活動する意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、本条件は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 以下の部に所属し、中学校体育連盟が主催する体育活動において県大会出場以上の成績を収めた者 陸上競技部(男女)、硬式野球部(男)、バスケットボール部(女)、サッカー部(男)、バレーボール部(男女)、ソフトテニス部(男女)、ラグビー部(男)、テニス部(女)、ソフトボール部(女)、剣道部(男)、バドミントン部(女)、体操部(女)、新体操部(女)、水泳部(男女)</p> <p>(2) 書道部、吹奏楽部に所属し、中学校文化連盟が主催する文化活動において団体で東北大会出場以上、個人で全国大会出場以上の成績を収めた者</p> <p>(3) 学校内外で上記の部に該当する体育活動、文化・芸術活動において(1)、(2)と同等またはそれ以上の成績を収めた者</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接(15分)		
選 抜 方 法	<p>1 調査書(150点) 「各教科の学習の記録」1・2・3年の5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の評定の合計の2倍</p> <p>2 実績(75点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接(75点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
6 - 1	盛岡南高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	160名
募集定員	10% (16名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5のいずれかの条件に該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 本校入学後、以下の運動部のいずれかに所属し、意欲的に活動する意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</p> <p>【本校の重点競技とする部】 陸上競技部 (男★■・女)、バスケットボール部 (男■・女)、水泳部 (男■・女■)、 スキー部 (男★■・女★■)、バレーボール部 (男■)、剣道部 (男■・女■)、 体操部 (男■)、柔道部 (男・女■)、ハンドボール部 (男・女)</p> <p>【その他の運動部】 登山部 (男★■・女■)、ボクシング部 (男★■・女)、硬式テニス部 (男■・女■)、 バドミントン部 (男・女)、ラグビー部 (男)、硬式野球部 (男)、 サッカー部 (男)、バレーボール部 (女)、体操部 (女)</p> <p>(注) ★印の部は、岩手県スポーツ特別強化指定校に指定されています (注) ■印の部は、岩手県高等学校体育連盟強化拠点校に指定されています</p> <p>5 次のいずれかに該当し、入学後もその実績や資質能力を生かし活躍が期待される者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(6)は応募資格Aに該当する。</p> <p>(1) 東北大会又は全国大会に、選手として出場した者</p> <p>(2) 岩手県の各競技団体において、県の優秀選手又は強化選手に選ばれた者</p> <p>(3) 中学校体育連盟等が主催する県大会に選手として出場し、団体又は個人ベスト8以上の者</p> <p>(4) (1)～(3)のいずれかと同等の能力を有すると中学校長が認める者 (同等の能力を有すると認める具体的な説明を調査書の「その他参考となる記録」の欄に記載すること)</p> <p>(5) 文部科学省「新体力テスト」でA段階の能力を有し、本校登山部 (男・女)、ボクシング部 (男)、硬式テニス部 (男・女) で活動する意志のある者</p> <p>(6) 「いわてスーパーキッズ」に現在認定されている者 (志願者の実績については、3年次に加えて1・2年次の内容も調査書の「その他参考となる記録」の欄にもれなく記載すること)</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接 (10分)		
選 抜 方 法	<p>1 調査書 (100点) 「各教科の学習の記録」 [1・2年の9教科の評定合計 (各45点) + 3年の9教科の評定合計の2倍 (90点)] 180点を100点に圧縮</p> <p>2 実績 (100点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接 (100点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
6 - 2	盛岡南高等学校	全日制

学科名	普通科体育コース・体育科	定員	各40名
募集定員	各50% (各20名)		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5のいずれかの条件に該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 本校入学後、以下の重点競技とする部のいずれかに所属し、意欲的に活動する意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</p> <p><b>【本校の重点競技とする部】</b> 陸上競技部 (男★■・女)、バスケットボール部 (男■・女)、水泳部 (男■・女■)、スキー部 (男★■・女★■)、バレーボール部 (男■)、剣道部 (男■・女■)、体操部 (男■)、柔道部 (男・女■)、ハンドボール部 (男・女)</p> <p>(注) ★印の部は、岩手県スポーツ特別強化指定校に指定されています (注) ■印の部は、岩手県高等学校体育連盟強化拠点校に指定されています</p> <p>5 次のいずれかに該当し、入学後もその実績や資質能力を生かし活躍が期待される者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(5)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 東北大会又は全国大会に、選手として出場した者</p> <p>(2) 岩手県の各競技団体において、県の優秀選手又は強化選手に選ばれた者</p> <p>(3) 中学校体育連盟等が主催する県大会に選手として出場し、団体又は個人ベスト8以上の者</p> <p>(4) (1)～(3)のいずれかと同等の能力を有すると中学校長が認める者 (同等の能力を有すると認める具体的な説明を調査書の「その他参考となる記録」の欄に記載すること)</p> <p>(5) 「いわてスーパーキッズ」に現在認定されている者 (志願者の実績については、3年次に加えて1・2年次の内容も調査書の「その他参考となる記録」の欄にもれなく記載すること)</p>		
検査内容	<p>1 面接 個人面接 (10分)</p> <p>2 適性検査 30m走、立ち幅跳び、メディシンボール投げ (男子3kg・女子2kg)</p>		
選抜方法	<p>1 調査書 (70点) 「各教科の学習の記録」 [1・2・3年の9教科の評定合計 (ただし保健体育のみ2倍)] 150点を70点に圧縮</p> <p>2 実績 (100点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 適性検査 (30点)</p> <p>4 面接 (100点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
7-1	不来方高等学校	全日制

学科名	普通科（人文・理数学系）	定 員	160名
募集定員	10%（16名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件をすべて満たした上で、4の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 スポーツ、文化・芸術の活動において、次の（1）～（3）のいずれかに該当し、入学後も本校の部活動のうち、下に示す部で活動し、活躍が期待される者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、（1）～（3）は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>（1）岩手県教育委員会、岩手県中学校体育連盟・文化連盟が主催、共催する大会、または、スポーツ庁が主催、共催、後援する大会に選手として出場した者</p> <p>（2）岩手県選抜選手または強化指定選手に選ばれた者</p> <p>（3）部活動や団体（クラブチーム等）で活躍し、顕著な成績を収めた者</p> <p>&lt;運動部&gt; 陸上競技、硬式野球（男）、バスケットボール、弓道、ソフトテニス、空手道、硬式テニス（女）、水泳、柔道、カヌー、バレーボール、卓球、サッカー、ハンドボール、バドミントン、ラグビー（男）、ホッケー</p> <p>&lt;文化部&gt; 音楽（合唱）、吹奏楽</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接（15分）		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の9教科の評定の合計135点を100点に圧縮）</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容を踏まえた面接</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	志願者が定員の2倍を超える場合には、一次選考を実施することがある		

学校番号	学 校 名	課 程
7-2	不来方高等学校	全日制

学科名	普通科（芸術学系）	定 員	40名
募集定員	40%（16名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件をすべて満たす者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 芸術系（音楽、美術・工芸）への進路意欲が明確であり、音楽または美術の分野で活動経験を有する者</p> <p>ただし、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、本条件は応募資格Aに該当する。</u></p>		
検 査 内 容	<p>1 面接 個人面接（10分）</p> <p>2 適性検査 【音楽コース】  (1) 全員が受検 平易な旋律聴音  (2) 選択して受検  ア 声楽  (ア)、(イ) を暗譜で演奏する。(イ) は1曲選択しいずれかの調性で歌う。  (ア) コンコーネ50番中声用第2番(母音で歌う)  (イ) 浜辺の歌(2番まで:へ長調または変イ長調、日本語でもイタリア語でも可)、  早春賦(2番まで:変ホ長調またはへ長調)、サンタルチア(変ロ長調またはハ長調)、帰れソレントへ(ハ長調またはニ長調、日本語でもイタリア語でも可)  イ 器楽ピアノ  (ア)、(イ) から1曲ずつ選択し、暗譜で演奏する。繰返しは除く。  (ア) ツェルニー30番練習曲第15番、ツェルニー30番練習曲第25番、ツェルニー40番練習曲第11番  (イ) ハイドンソナタハ長調Hob. X V I :35第1楽章、モーツァルトソナタト長調K. 283第1楽章、ベートーヴェンソナタト長調Op. 49-2 第1楽章  ウ 器楽ヴァイオリン  (ア)、(イ) を暗譜で演奏する。  (ア) カールフレッシュのスケールシステムより第5番(30調から2つの調を選んで演奏する。長調、短調を問わない)  (イ) 任意の練習曲1曲  【美術・工芸コース】  鉛筆による静物デッサン（90分）</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書 【音楽コース】(60点)  「各教科の学習の記録」(1・2・3年の国語・社会・数学・理科・音楽・英語の評定の合計90点を60点に圧縮)  【美術・工芸コース】(60点)  「各教科の学習の記録」(1・2・3年の国語・社会・数学・理科・美術・英語の評定の合計90点を60点に圧縮)</p> <p>2 実績(10点)  調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接(20点)  調査書及び志願理由書に記載されている内容を踏まえた面接</p> <p>4 適性検査  【音楽コース】(210点) 聴音50点、演奏160点  【美術・工芸コース】(210点) 静物デッサン210点</p> <p>&lt;合計 300点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
7-3	不来方高等学校	全日制

学科名	普通科（外国語学系）	定 員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件をすべて満たした上で、4の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 外国語および国際的な事柄に強い関心を持つ者で、次のいずれかの条件を満たしている者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 文部科学省後援実用英語技能検定準2級以上取得者。中国語・フランス語については、それに準ずる語学力を有する者</p> <p>(2) 各種英語スピーチ・暗唱コンテストにおいて、県大会以上の出場経験を有する者</p> <p>(3) 各種海外派遣研修プログラム及びその代替となる国際交流活動への参加経験を有する者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（10分）</li> <li>2 適性検査 (1) ディクテーション（一斉10分） 中学校の既習事項を使った英文を聴き、書き取る</li> <li>(2) 英語応答検査（個人15分） 与えられた資料や英文について英語による質疑応答</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の9教科の評定の合計135点を90点に圧縮）</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（50点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容を踏まえた日本語面接</li> <li>4 適性検査（160点） (1) ディクテーション 40点 (2) 英語応答検査 120点</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
7-4	不来方高等学校	全日制

学科名	普通科（体育学系）	定 員	40名
募集定員	50%（20名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件をすべて満たした上で、4の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 次のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>(1) 次の種目の部活動や団体（クラブチーム）で活躍し、顕著な成績を収めた者 ハンドボール（男女）、サッカー（男）、ホッケー（男女）、ラグビー（男）、バレーボール（男）、水泳（男女） ※ 顕著な成績とは全国大会または全国に繋がる大会で、団体または個人種目において次のいずれかの実績を持つ者 ア 県大会団体8位以上（同個人8位以上） イ 県選抜選手または東北地区以上の強化指定選手に選ばれた者</p> <p>(2) 中学校時代に運動部等に所属した者で、(1)の種目に強い興味・関心があり、新体力テストの成績がA段階の者</p> <p>(3) 中学校時代に運動部等に所属した者で、カヌーに強い興味・関心があり、本校入学後カヌー部への入部を希望し、新体力テストの成績がA段階の者</p> <p>(4) 「いわてスーパーキッズ」に現在認定され育成プログラム修了見込みの者で、本校入学後は(1)の部活動またはカヌー部に所属したい者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（10分）</li> <li>2 適性検査 立ち幅跳び、30m走、メディシンボール投げ（男子3kg、女子2kg）、器械運動（マット運動）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（60点） 「各教科の学習の記録」 （1・2・3年の国語・社会・数学・理科・保健体育・英語の評定の合計90点を60点に圧縮）</li> <li>2 実績（100点） 新体力テストの成績、調査書及び志願理由書に記載されている実績等</li> <li>3 面接（60点）</li> <li>4 適性検査（80点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
9	盛岡農業高等学校	全日制

学科名	全学科（動物科学科、植物科学科、食品科学科、人間科学科、環境科学科）	定員	各科40名
募集定員	各科20%（各科8名）		
推薦基準	<p>次の1～5の条件を満たした上で、6の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身につけている者</li> <li>3 志望理由が明確かつ適切である者</li> <li>4 入学後も学業や学校生活を意欲的に取り組む者</li> <li>5 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>6 次のいずれかに該当する者</li> </ol> <p><u>なお、(1)は応募資格A、(2)は応募資格Bに該当する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 以下のいずれかの条件に該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 中学校体育連盟等が主催する県大会に選手として出場した者、もしくは地区大会の上位（団体ベスト4、個人ベスト8以上）の成績を収めた者</li> <li>イ 岩手県大会以上において優秀選手・選抜選手に選ばれた者、またはそれに準ずる者</li> <li>ウ 中学校文化連盟等が主催する県大会以上に出場した者</li> <li>エ 岩手県スポーツ特別強化指定、または、高体連強化拠点校指定を受けている運動部〔スケート（男女）、相撲（男）、自転車競技（男）〕を希望する者</li> <li>オ 「いわてスーパーキッズ」に認定されている者</li> </ol> </li> <li>(2) 以下のいずれかの条件に該当し、志望学科に対する目的意識が極めて明確な者 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 将来、農業の後継者となる強い意志がある者</li> <li>イ 将来、学科関連分野の進学または就職をしようとする強い意志がある者</li> <li>ウ 各学科の学習内容に興味関心が高く、探究しようとする強い意志がある者</li> </ol> </li> </ol>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、600字以内で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（1・2年の9教科の評定各45点と、2倍した3年の9教科の評定90点の合計180点を100点に換算）</li> <li>2 実績（120点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（120点）</li> <li>4 作文（60点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
10	盛岡工業高等学校	全日制

学科名	全学科（機械科、電気科、電子情報科、電子機械科、工業化学科、土木科、建築・デザイン科）	定員	各科40名
募集定員	各科15%（各科6名）		
推薦基準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4または5の条件のいずれかに該当する者  <u>なお、4は応募資格A、5は応募資格Bに該当する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 当該学科に対する興味・関心が強く、明確な目的意識とともに学習意欲に富む者</li> <li>4 次のいずれかに該当し、本校での活躍が期待できる者  ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中学校の運動部に所属して3年間活動を続け、岩手県スポーツ特別強化指定を受けている本校のウエイトリフティング（男）、レスリング（男）、スケート（男・女）への入部を希望し、3年間活動する意志のある者</li> <li>(2) 中学校の運動部に所属して3年間活動を続け、岩手県高体連強化拠点校の指定を受けている本校のラグビー（男）、ソフトテニス（男）、アーチェリー（男）または、近年、全国大会で活躍する陸上競技、ウエイトリフティング（女）への入部を希望し、3年間活動する意志のある者</li> <li>(3) 以下の種目の部活動で、中学校体育連盟が主催する体育活動において主力選手として大会に出場し、入学後も当該部活動に入部し活動する意志のある者  野球、バレーボール（男）、バスケットボール（男）、卓球、水泳、柔道</li> <li>(4) 各競技団体が主催する体育活動において主力選手として大会に出場し、本校運動部の以下の競技種目への入部を希望し、3年間活動する意志のある者  野球、テニス、登山、アーチェリー（女）</li> </ol> </li> <li>5 工業を通じて地域や岩手の未来を担っていこうとする意欲にあふれ、志望する学科に対する目的意識が極めて明確で、自己の進路に高い志を持つ者</li> </ol>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 作文 与えられたテーマについて、自分の考えを600字以内でまとめる（40分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（一般入試の換算方法による1・2・3年の評定合計660点を100点に圧縮）</li> <li>2 実績（100点） 調査書および志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
11	盛岡商業高等学校	全日制

学科名	全学科（流通ビジネス科、会計ビジネス科、情報ビジネス科）	定員	各科80名
募集定員	各科15%（各科12名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 志望する学科に対する興味・関心が高く、入学後も意欲的に高校生活を送ることで、本校活性化に寄与することが期待できる者</li> <li>3 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>4 中学校3年間で欠席日数が、特別の理由がある場合を除き10日以内である者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、(1)～(3)について、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(3)は応募資格A、(4)は応募資格Bに該当する。</li> </ol> <p>(1) サッカー競技において、中学校体育連盟・クラブユース連盟等が主催する大会等に主力として出場し、顕著な成績を収めた者またはそれと同等の実力がある者で、高校入学後、3年間続ける意志がある者 なお、本校サッカー部は岩手県高体連強化拠点校の指定を受けている</p> <p>(2) 野球競技において、中学校体育連盟・日本リトルシニア中学硬式野球協会等が主催する大会等に主力として出場し、顕著な成績を収めた者またはそれと同等の実力がある者で、高校入学後、3年間続ける意志がある者</p> <p>(3) (1)～(2)以外の競技においては、中学校体育連盟等が主催する大会等に主力として出場し、顕著な成績を収めた者またはそれと同等の実力がある者で、高校入学後、本校にある運動部で3年間続ける意志がある者</p> <p>(4) 志望する学科に対する目的意識が極めて明確で、将来商業系の大学や学部への進学または商業関係の職業に就職しようとする強い意志がある者</p> <p>【本校にある運動部】 サッカー部（男）、硬式野球部（男）、バスケットボール部（男女） ハンドボール部（男女）、軟式野球部（男）、バレーボール部（男女） 陸上競技部（男女）、ソフトテニス部（男女）、弓道部（男女） バドミントン部（男女）、柔道部（男女）、剣道部（男女）、卓球部（男女） 水泳部（男女）</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 作文 （応募資格Bのみ） 提示されたテーマについて、600字以内で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（75点） 「各教科の学習の記録」 【応募資格A】1・2・3年の9教科の評定の合計（ただし、保健体育のみ2倍とする）150点を75点に圧縮 【応募資格B】1・2・3年の9教科の評定の合計135点を75点に圧縮</li> <li>2 実績及び作文（180点） 【応募資格A】調査書及び志望理由書に記載されている実績（180点） 【応募資格B】調査書及び志望理由書に記載されている取組等（90点）と作文（90点）</li> <li>3 面接（45点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
12	沼宮内高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	80名
募集定員	10%（8名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～5の条件を満たした上で、6の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則として10日以下の者</li> <li>5 高校入学後は、下記の指定する部に所属し、活動する意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</li> <li>6 スポーツ、文化・芸術等で次のいずれかに該当する者 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 中学校体育連盟・中学校文化連盟等が主催する大会に参加した者 (2) 学校外での体育活動、文化・芸術活動において、顕著な実績が認められる者 (3) 中学校において、新体力テストの総合評価がA段階で、きわめて優秀な運動資質・能力を有すると判断される者</p> <p>&lt;指定する部活動&gt; 運動部：ホッケー（県スポーツ特別強化指定）、ソフトテニス（女）、卓球、サッカー（男） 文化部：吹奏楽、美術、将棋、茶道</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接とする（20分）		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（50点） 「各教科の学習の記録」2・3年の5教科（国語・社会・数学・理科・英語）の評定の合計</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 250点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
13	葛巻高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	80名
募集定員	10%（8名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志望理由が明確かつ入学後も意欲的な生活を送ることが期待される者</p> <p>4 次のいずれかに該当する者</p> <p>ただし、当該の活動を義務付けるものではない。</p> <p><u>なお、（1）、（2）は応募資格A、（3）は応募資格Bに該当する。</u></p> <p>（1）スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ者</p> <p>（2）本校にある部活動に所属し、活動する意志のある者</p> <p>（3）地域課題解決に向けて主体的に取り組み、将来の地域振興を担う人材となることが期待される者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt;</p> <p>硬式野球(男)、サッカー(男)、バスケットボール(男女)、バレーボール(女)、ソフトテニス(女)、剣道(男女)、卓球(男女)、陸上競技(男女)、ビジネス研究、郷土芸能</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接 個人面接（15分）</p> <p>2 作文 提示された課題に対して自分の意見を600字以上800字以内でまとめる（50分）</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（180点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）</p> <p>2 面接（120点）</p> <p>3 作文（100点）</p> <p>&lt;合計 400点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
14-1	平館高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切であり、入学後も意欲的に学校生活に臨む意志がある者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則として10日以下の者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 岩手県スポーツ特別強化指定を受けている本校の競技（相撲、スキー）を意欲的に継続しており、本校入学後も当該部に所属して3年間その競技を継続する意志があり、活躍が期待される者</p> <p>(2) (1)以外のスポーツ活動を意欲的に継続し、中学校体育連盟主催等の大会に主力として出場した活動歴があり、本校入学後も当該部に所属して3年間その競技を継続する意志があり、活躍が期待される者 (野球競技においては、日本リトルシニア中学硬式野球協会、日本KWB野球連盟等が主催する大会を含む。サッカー競技においては、クラブユース連盟等が主催する大会を含む。陸上競技においては、特設陸上部等での活動や通信陸上競技大会を含む。)</p> <p>(3) 美術や吹奏楽等の文化・芸術活動において、各種大会や発表会、コンクールで活躍し、本校入学後も当該部に所属して3年間その活動を継続する意志があり、活躍が期待される者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt;</p> <p>運動部：相撲部、スキー部、硬式野球部、サッカー部、山岳部、ソフトテニス部、卓球部、バスケットボール部、バレーボール部（女子）、陸上競技部</p> <p>文化部：家庭研究部（華道、茶道）、囲碁・将棋部、吹奏楽部、美術部</p>		
検 査 内 容	<p>○ 面接</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1次（個人面接10分）</li> <li>(2) 2次（個人面接10分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の9教科の評定の合計135点を100点に圧縮）</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
14-2	平館高等学校	全日制

学科名	家政科学科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切であり、入学後も意欲的に学校生活に臨む意志がある者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則として10日以下の者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、（1）～（3）について、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、（1）～（3）は応募資格A、（4）は応募資格Bに該当する。</li> </ol> <p>（1）岩手県スポーツ特別強化指定を受けている本校の競技（相撲、スキー）を意欲的に継続しており、本校入学後も当該の部に所属して3年間その競技を継続する意志があり、活躍が期待される者</p> <p>（2）（1）以外のスポーツ活動を意欲的に継続し、中学校体育連盟主催等の大会に主力として出場した活動歴があり、本校入学後も当該の部に所属して3年間その競技を継続する意志があり、活躍が期待される者 （野球競技においては、日本リトルシニア中学硬式野球協会、日本KWB野球連盟等が主催する大会を含む。サッカー競技においては、クラブユース連盟等が主催する大会を含む。陸上競技においては、特設陸上部等での活動や通信陸上競技大会を含む。）</p> <p>（3）美術や吹奏楽等の文化・芸術活動において、各種大会や発表会、コンクールで活躍し、本校入学後も当該の部に所属して3年間その活動を継続する意志があり、活躍が期待される者</p> <p>（4）食物・被服・保育など家庭の分野に興味・関心が高く、将来学習した内容を生かして進学または就職をしようとする強い意志のある者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt;</p> <p>運動部：相撲部、スキー部、硬式野球部、サッカー部、山岳部、ソフトテニス部、卓球部、バスケットボール部、バレーボール部（女子）、陸上競技部</p> <p>文化部：家庭研究部（華道、茶道）、囲碁・将棋部、吹奏楽部、美術部</p>		
検 査 内 容	<p>○ 面接</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）1次（個人面接10分）</li> <li>（2）2次（個人面接10分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の9教科の評定の合計（ただし、技術・家庭のみ2倍とする）150点を100点に圧縮）</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
15	雫石高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10 % (4名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 人物に優れ、基本的な生活習慣が身に付いており、他の生徒の模範となる生活を送っている者</li> <li>3 志望理由が明確かつ適切で、学習活動に意欲的に取り組み、入学後も意欲的に高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 生徒会活動、校内外でのスポーツ、文化・芸術、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に取り組んだ実績を持つ者</li> </ol> <p>ただし、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、本条件は応募資格Aに該当する。</u></p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接（志願理由書・調査書を踏まえて実施） 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 与えられたテーマについて600字程度で自分の考えを述べる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（一般入試における調査書換算点440点を100点に圧縮） ※ 具体的な換算方法は「岩手県立高等学校入学者選抜実施要項」に記載</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
16	紫波総合高等学校	全日制

学科名	総合学科	定員	160名
募集定員	15% (24名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が、特別の理由がある場合を除き10日未満の者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、(1)～(5)について、当該の活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(5)は応募資格A、(6)は応募資格Bに該当する。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中学校体育連盟・中学校文化連盟等が主催する体育活動及び文化活動において、大会に選手(メンバー)としての出場経験を持ち、その活動の継続を希望する者</li> <li>(2) 「いわてスーパーキッズ」に選ばれ、そのプログラム修了見込みの者</li> <li>(3) 文部科学省「新体力テスト」でA段階もしくはそれと同等の能力を有し、本校自転車競技部(岩手県スポーツ特別強化指定)での活動を希望する者</li> <li>(4) 学校外での体育活動、文化・芸術活動において、各種大会の発表会・コンクールでの顕著な活動が認められる者、または本校郷土芸能部での活動を希望する者</li> <li>(5) 生徒会活動や継続的なボランティア活動を行い、その活動を継続する意志のある者</li> <li>(6) 本校の系列等で学習した内容を生かして将来の進路目標を定め、進学または就職をしようとする強い意志がある者</li> </ol> <p>【推薦基準対象の部活動(委員会)】</p> <p>&lt;文化部&gt; 美術、書道、音楽、郷土芸能(委員会)</p> <p>&lt;運動部&gt; 陸上競技(男女)、自転車競技(男女)、硬式野球(男)、卓球(男)、ソフトボール(女)、弓道(男女)、バスケットボール(男女)、バレーボール(男女)、ハンドボール(男)</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接(15分)</li> <li>2 作文 指定されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる(50分)</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書(100点) 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計(各45点)+3年の9教科の評定合計の2倍(90点)を100点に圧縮</li> <li>2 実績(100点) 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接(100点)</li> <li>4 作文(100点)</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
17	花巻北高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	240名
募集定員	10% (24名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件に該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>3 基本的な生活習慣が身に付き、品行方正で向上心にあふれる者</p> <p>4 次のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(2)は応募資格Aに該当する。</p> <p>(1) 以下の部活動・競技で活躍し、中学2・3年次に顕著な成績を収めた者で、入学後も当該部活動に所属し活動する意志のある者 陸上競技(男女)、剣道(男女)、野球(軟式・硬式、男)、ハンドボール(男女)、柔道(男女)、硬式テニス(男女)、ソフトテニス(男女)、サッカー(男)、弓道(男女)、バレーボール(男女)、バスケットボール(男女)、卓球(男女)、バドミントン(男女)、水泳(男女)、吹奏楽</p> <p>※ 顕著な成績を収めた者とは次のア～クのいずれかの実績を持つ者</p> <p>ア 中学校体育連盟が主催する県大会で団体あるいは個人競技に正選手として出場した者</p> <p>イ 野球においては、Kボールやシニア野球で正選手として試合に出場し、県大会ベスト8以上の成績を残した者</p> <p>ウ 硬式テニスにおいては、岩手県テニス協会が主催する県大会で個人戦ベスト8以上の成績を残した者</p> <p>エ サッカーにおいては、全日本クラブユースサッカー選手権(U-15)岩手県大会に正選手として出場し、ベスト8以上の成績を残した者</p> <p>オ バスケットボールにおいては、岩手県U15バスケットボール選手権大会に正選手として出場し、ベスト8以上の成績を残した者</p> <p>カ 吹奏楽部においては、以下の①～②のいずれかに該当する者</p> <p>① 出場した吹奏楽コンクール県大会またはアンサンブルコンテスト県大会で金賞を受賞した者</p> <p>② 管打楽器ソロコンテストで東北大会に推薦された者</p> <p>キ 岩手県選抜やジュニアオリンピック等選抜選手に選出された者(大会での成績・記録等を明記して、その実力を具体的に説明できること)</p> <p>ク 現在、「いわてスーパーキッズ」として認定されている者</p> <p>(2) 中学校時代に運動部に所属し、上記(1)の実績を持ち、入学後は弓道部(男女)に入部して活動する意思のある者(この場合、中学校で所属していた部活動は限定しないものとする)</p> <p>※ 本校の陸上競技部男子は県スポーツ特別強化指定と県高体連強化拠点校の指定、ハンドボール部男子・弓道部女子は県高体連強化拠点校の指定を受けています。</p>		
検査内容	○ 面接 個人面接(10分)		
選 抜 方 法	<p>1 調査書(150点) 「各教科の学習記録」 1年の5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の評定合計(25点) + 2年の5教科の評定合計の2倍(50点) + 3年の5教科の評定合計の3倍(75点)</p> <p>2 実績(200点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接(100点)</p> <p>&lt;合計 450点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	志願者が定員の2倍以上の場合には、一次選考を実施することがある		

学校番号	学 校 名	課 程
18-1	花巻南高等学校	全日制

学科名	普通科（人文・自然科学学系）	定員	120名
募集定員	10%（12名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基礎学力と基本的生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席が原則として10日以内の者</li> <li>5 スポーツ、文化・芸術活動で、次のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 部活動等において主力として活躍し、中学校体育連盟・中学校文化連盟等が主催する大会において県大会出場以上の実績を収めた者、もしくは代替大会において、県大会出場相当の実績を収めた者</p> <p>(2) 部活動等において主力として活躍し、在学中に中学校体育連盟等が主催する大会や中学校文化連盟等が主催する大会が開催されなかった場合、仮に大会が開催されていれば県大会出場相当の実績を収めることができたとして中学校長が認めた者</p> <p>(3) 「いわてスーパーキッズ」に認定されている者</p> <p>(4) 上記(1)～(3)以外の活動において、上記(1)～(3)同等以上の実績を収めたとして中学校長が認めた者</p> <p>〈参考：本校にある部活動〉 硬式野球（男）、ソフトボール（女）、サッカー（男）、ハンドボール（男女）、卓球（男女）、ソフトテニス（男女）、バスケットボール（男女）、体操（女）、バレーボール（女）、陸上競技（男女）、剣道（男女）、水泳（男女）、弓道（男女）、吹奏楽、囲碁将棋、文芸、演劇、家庭、茶華道、日本音楽、美術、書道、英語、JRC、ダンス同好会</p>		
検内査容	○ 面接 個人面接（15分程度）		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の9教科の評定合計135点を90点に圧縮）</li> <li>2 実績（90点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（60点）</li> </ol> <p>&lt;合計 240点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
18-2	花巻南高等学校	全日制

学科名	普通科（スポーツ健康科学学系）	定員	40名
募集定員	50%（20名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基礎学力と基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席が原則として10日以内の者</li> <li>5 スポーツ活動で、次のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 部活動等において主力として活躍し、中学校体育連盟等が主催する大会において県大会出場以上の実績を収めた者、もしくは代替大会において、県大会出場相当の実績を収めた者</p> <p>(2) 部活動等において主力として活躍し、在学中に中学校体育連盟等が主催する大会が開催されなかった場合、仮に大会が開催されていれば県大会出場相当の実績を収めることができた中学校長が認めた者</p> <p>(3) 中学校において、新体力テスト総合評価がA段階で、きわめて優秀な運動資質・能力を有すると判断される者</p> <p>(4) 「いわてスーパーキッズ」に認定されている者</p> <p>〈参考：本校にある運動部に係る部活動〉 硬式野球（男）、ソフトボール（女）、サッカー（男）、ハンドボール（男女）、卓球（男女）、ソフトテニス（男女）、バスケットボール（男女）、体操（女）、バレーボール（女）、陸上競技（男女）、剣道（男女）、水泳（男女）、弓道（男女）</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 適性検査 (1) メディシン・ボール投げ (2) 立ち三段跳び (3) 反復走</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の9教科の評定合計135点を90点に圧縮）</li> <li>2 実績（90点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（60点）</li> <li>4 適性検査（30点）</li> </ol> <p>&lt;合計 270点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
18-3	花巻南高等学校	全日制

学科名	普通科（国際科学学系）	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推薦基準	<p>次の1～5の条件を満たした上で、6の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基礎学力と基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 外国語や国際関係に興味・関心を持ち、将来の進路に向けて主体的に取り組むことができる者</li> <li>4 入学後も本校での国際交流・言語学習に積極的に参加する意志が明確である者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。</li> <li>5 中学校3年間の欠席が原則として10日以内の者</li> <li>6 学習・言語・文化活動で、次のいずれかに該当する者 <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)「実用英語技能検定」3級以上を有する者</li> <li>(2)英語スピーチコンテスト等への出場実績を有する者、もしくはコンテスト等が開催されなかった場合、校内選考を通じて代表としてコンテスト出場相当の実績を収めるに足る実力を持っていると中学校長が認めた者</li> <li>(3)市町村等主催の海外留学や海外派遣事業への参加実績を有する者</li> <li>(4)上記(1)～(3)と同等の資格または実績を有すると中学校長が認めた者</li> </ol>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 適性検査 口頭試問（10分） （英語と日本語による質疑応答）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の9教科の評定合計135点を90点に圧縮）</li> <li>2 実績（20点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（60点）</li> <li>4 適性検査（70点）</li> </ol> <p>&lt;合計 240点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
19	花巻農業高等学校	全日制

学科名	全学科（生物科学科、環境科学科、食農科学科）	定員	各科40名
募集定員	各科20%（各科8名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 当該学科に志望する動機・理由が明瞭で、基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則として10日以内の者</li> <li>5 スポーツ活動、文化・芸術活動（芸能活動を含む）、生徒会活動等で次のいずれかに該当する者 ただし、（1）～（3）について、当該の活動を義務づけるものではない。 なお、（1）～（3）は応募資格A、（4）～（5）は応募資格Bに該当する。</li> </ol> <p>（1）スポーツ活動</p> <p>ア 「いわてスーパーキッズ」に認定され、育成プログラム修了見込みの者</p> <p>イ 原則として本校が設置する部と同一の部活動において、中学校体育連盟等が主催する大会に正選手として出場し、県大会出場または地区大会ベスト4以上の成績を収め、本校の同一の部活動への入部を希望し継続する意志のある者</p> <p>ウ 各種ボクシング大会への出場経験があり、岩手県スポーツ特別強化指定を受けている本校ボクシング部への入部を希望し継続する意志のある者</p> <p>（2）文化・芸術活動</p> <p>ア 原則として本校が設置する部と同一の部活動において、中学校文化連盟等が主催する大会に出場し、県大会出場または地区大会金賞以上の成績を収め、本校の同一の部活動への入部を希望し継続する意志のある者</p> <p>イ 郷土芸能活動等において、学校外での活動が認められ、入学後、本校の鹿踊部への入部を希望し継続する意志のある者</p> <p>（3）生徒会活動</p> <p>中学校で生徒会役員を務め、本校でも生徒会または農業クラブの役員として活動を希望する者</p> <p>（4）将来、農業又は農業関連分野の後継者となる強い意志がある者</p> <p>（5）将来希望する職業が明確で、学科で学習した内容を生かして進学又は就職をしようとする強い意志がある者</p> <p>【本校にある部活動】（ ）表示は男女の一方のみの部活動である</p> <p>運動部：硬式野球、卓球、バドミントン、ハンドボール（男）、ソフトテニス、弓道、バレーボール（女）、陸上競技、柔道、ソフトボール（女）、ボクシング</p> <p>文化部：鹿踊、吹奏楽、茶道、芸術</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 作文 与えられたテーマについて、600字以上800字以内で自分の考えを述べる（50分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（180点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（150点）</li> <li>4 作文（70点）</li> </ol> <p>&lt;合計 500点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
20	花北青雲高等学校	全日制

学科名	全学科（情報工学科、 ビジネス情報科、 総合生活科）	定員	情報工学科 40名 ビジネス情報科 80名 総合生活科 40名
募集定員	各科10%（情報工学科4名、ビジネス情報科8名、総合生活科4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学時代の部活動等において、次のいずれかに該当する者で、本校入学後は当該競技の部活動を3年間続ける意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)、(2)は応募資格Aに該当する。</p> <p>(1) 下記の部活動において、中学校体育連盟等が主催する県大会に出場した者 (団体競技ではレギュラーとして出場し、チームの主力として活躍した者)</p> <p>(2) 下記の部活動において、県レベルで優秀選手・強化選手・選抜選手に選ばれた者</p> <p>&lt;部活動&gt;バドミントン、野球（男）、ソフトボール（女）、卓球、バレーボール、柔道、陸上競技、ソフトテニス、サッカー</p>		
検 査 内 容	<p>○ 面接</p> <p>(1) 一次（個人面接5分）</p> <p>(2) 二次（個人面接15分）</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計の90点を45点に圧縮＋3年の9教科の評定合計（45点）</p> <p>2 実績（110点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接（50点）</p> <p>&lt;合計 250点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
21	大迫高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10 % (4名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学校3年間の出席が良好な者</p> <p>5 スポーツ、文化・芸術、その他校内外の活動において、次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 中学校体育連盟等が主催する体育活動において、各種大会に出場し、顕著な成績を収めた者</p> <p>(2) 文化・芸術活動・郷土芸能活動において、各種大会、コンクール等に出場し、顕著な成績を収めた者</p> <p>(3) 生徒会活動やボランティア活動など、校内外での活動を積極的に行っている者</p> <p><b>【本校の部】</b> 運動部：山岳、自転車競技、弓道、バドミントン 文化部：学芸（神楽・書道・美術）、JRC、吹奏楽</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接25分		
選 抜 方 法	<p>1 調査書 (180点) 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計 (各45点) + 3年の9教科の評定合計の2倍 (90点)</p> <p>2 実績 (100点) 調査書及び志願理由書に記載されている内容</p> <p>3 面接 (120点)</p> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する。</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
22	遠野高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	160名
募集定員	10% (16名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 人物に優れ、基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の出席日数が良好な者</li> <li>5 野球（男）、サッカー（男）、剣道（男女）の競技において顕著な成績を収めた者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、5は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>※ 顕著な成績とは、団体及び個人種目において、次の（1）、（2）のいずれかの実績を持つ者（ただし、野球、サッカーについては、いずれも中学2年または3年の実績であること。また、団体種目においては登録メンバーであること。）</p> <p>（1）県大会団体16位以上の者 サッカー：iリーグDivision2はブロック4位以上 野球：Kボール、リトルシニア大会含む 剣道：個人の場合は県大会出場以上</p> <p>（2）県の選抜選手、強化選手または県トレーニングセンター（トレセン）に選ばれた者 サッカー：クラブユーストレセンは含まない サッカー部（男）は、県高体連強化拠点校に指定されています</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 （1）一次（個人面接 5分程度） （2）二次（個人面接 5分程度）</li> <li>2 作文 指示されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる（40分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」1・2・3年の評定の合計（135点）を100点に圧縮</li> <li>2 実績（100点） 調査書および志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（50点）</li> <li>4 作文（50点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
23-1	遠野緑峰高等学校	全日制

学科名	生産技術科	定員	40名
募集定員	20% (8名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 本校の当該学科に志望する動機・理由が明確で、専門教育の各分野に興味・関心があり、自己の目標達成のため入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以内の者 ただし、やむを得ない理由があるときはこの限りではない。</p> <p>5 次のいずれかに該当する者 ただし、(3)～(7)について、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(2)は応募資格B、(3)～(7)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 将来、農業又は農業関連分野の後継者となる強い意志がある者</p> <p>(2) 将来の職業が明確で、学習した内容を生かして進学又は就職をしようとする強い意志がある者</p> <p>(3) スポーツ活動：中学校体育連盟等の県大会出場、地区大会3位以上の者、またはそれと同等の実力のある者</p> <p>(4) 文化・芸術活動：中学校文化連盟等の県大会出場、同等の各種コンクール入賞の者、またはそれと同等の実力のある者</p> <p>(5) 生徒会活動：生徒会役員、各種委員長、部長・主将を務めた者</p> <p>(6) ボランティア・地域伝統活動等：継続的に行った実績を有する者</p> <p>(7) 資格取得等：漢字検定3級以上、英語検定3級以上、数学検定3級以上またはそれと同等の資格を有する者</p>		
検 査 内 容	<p>○ 面接</p> <p>(1) 一次 (個人面接 10分)</p> <p>(2) 二次 (個人面接 10分)</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書 (180点) 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計 (各45点) + 3年の9教科の評定合計の2倍 (90点)</p> <p>2 実績 (60点) 調査書及び志願理由書に記載されている内容</p> <p>3 面接 (60点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
23-2	遠野緑峰高等学校	全日制

学科名	情報処理科	定員	40名
募集定員	15% (6名)		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 本校の当該学科に志望する動機・理由が明確で、専門教育の各分野に興味・関心があり、自己の目標達成のため入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以内の者 ただし、やむを得ない理由があるときはこの限りではない。</p> <p>5 次のいずれかに該当する者 ただし、(3)～(7)について、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(2)は応募資格B、(3)～(7)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 将来、商業又は商業関連分野の後継者となる強い意志がある者</p> <p>(2) 将来の職業が明確で、学習した内容を生かして進学又は就職をしようとする強い意志がある者</p> <p>(3) スポーツ活動：中学校体育連盟等の県大会出場、地区大会3位以上の者、またはそれと同等の実力のある者</p> <p>(4) 文化・芸術活動：中学校文化連盟等の県大会出場、同等の各種コンクール入賞の者、またはそれと同等の実力のある者</p> <p>(5) 生徒会活動：生徒会役員、各種委員長、部長・主将を務めた者</p> <p>(6) ボランティア・地域伝統活動等：継続的に行った実績を有する者</p> <p>(7) 資格取得等：漢字検定3級以上、英語検定3級以上、数学検定3級、珠算検定3級以上またはそれと同等の資格を有する者</p>		
検査内容	<p>○ 面接</p> <p>(1) 一次 (個人面接 10分)</p> <p>(2) 二次 (個人面接 10分)</p>		
選抜方法	<p>1 調査書 (180点) 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計 (各45点) + 3年の9教科の評定合計の2倍 (90点)</p> <p>2 実績 (60点) 調査書及び志願理由書に記載されている内容</p> <p>3 面接 (60点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
24	黒沢尻北高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	240名
募集定員	10% (24名)		
推薦基準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 人物に優れ、基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的に高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 スポーツ、文化・芸術の活動において次のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、(1)、(2)は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>(1) 中学校体育連盟等が主催する体育活動で次の成績を収めた者（校内の特設部または校外のクラブチーム等で活動し、顕著な成績を収めた者も含む） 団体種目では中心選手として活躍し県大会出場以上の者、個人種目では県大会出場以上の者、または県の優秀選手または強化選手に選ばれた者</p> <p>(2) 文化・芸術活動において団体または個人での東北大会出場以上、またはそれに該当する成績を収めた者 ただし、大会名と主催者団体名、参加校数・出展作品数、予選の有無等を明記し、その成績を具体的に説明できること。</p> <p>※1 実績は、いずれも中学2年または中学3年の実績であること。 ※2 本校は、ラグビー部（男）、ソフトテニス部（男）、陸上競技部（男）が県スポーツ特別強化指定校、並びに県高体連強化拠点校、ソフトテニス部（女）が県高体連強化拠点校の指定を受けています。</p> <p>【本校にある部活動】※今後、部の統廃合により募集を停止する場合があります。</p> <p>〈運動部〉 陸上競技部（男・女）、硬式野球部（男）、ソフトテニス部（男・女）、ラグビー部（男）、サッカー部（男）、バスケットボール部（男・女）、バレーボール部（男・女）、バドミントン部（男・女）、卓球部（男・女）、柔剣道部（男・女）、弓道部（男・女）、自然科学部フィールド（山岳）班（男・女）、水泳部（男・女）</p> <p>〈文化部〉 書道部、美術部、音楽部、吹奏楽部、放送部、演劇部、囲碁・将棋部、写真部、GMC（ギターミュージッククラブ）、茶道部、自然科学部探究班</p>		
検査内容	○ 面接 個人面接（15分）		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」1・2・3年の9教科の評定の合計135点を100点に圧縮</li> <li>2 実績（150点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（50点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
25	北上翔南高等学校	全日制

学科名	総合学科	定員	200名
募集定員	10% (20名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 次のいずれかに該当する者</li> </ol> <p>ただし、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国民体育大会強化選手又は中学校体育連盟の各種目の県選抜選手・県強化選手に指定されている者</li> <li>(2) 「いわてスーパーキッズ」に認定され修了見込みの者</li> <li>(3) 中学校体育連盟が主催する体育活動または中学校体育連盟以外が主催する体育活動において、正選手として常時試合に出場し、チームの主力として活躍した者</li> <li>(4) 文化・芸術活動、郷土芸能活動において、各種発表会・コンクール等で顕著な活動が認められる者</li> </ol> <p>※【県高等学校体育連盟強化拠点校】  陸上競技(女)、フェンシング(男・女)、新体操(女)</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接とする。(15分)</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる。(50分)</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書(100点) 「各教科の学習の記録」(1・2年の9教科の評定合計(各45点)と3年の9教科の評定合計の2倍(90点)の合計点(180点)を100点に圧縮)</li> <li>2 実績(75点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接(75点)</li> <li>4 作文(100点)</li> </ol> <p>&lt;合計点 350点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
26	黒沢尻工業高等学校	全日制

学科名	全学科（機械科、電気科、電子科、 電子機械科、土木科、材料技術科）	定員	各科40名
募集定員	各科15%（各科6名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 当該学科に対する志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 運動能力に優れ、入学後も本校の指定する部活動（※）への入部を希望する者ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</li> <li>5 次のいずれかに該当する者</li> </ol> <p><u>なお、（1）～（4）は応募資格A、（5）は応募資格Bに該当する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）県選抜選手、県選抜候補選手に選ばれた者</li> <li>（2）中学校体育連盟主催の大会で、県大会以上に出場した者</li> <li>（3）上記（1）～（2）に該当しないが、同等の力量を有している者</li> <li>（4）「いわてスーパーキッズ」のプログラム修了見込みの者</li> <li>（5）工業を通じて地域や岩手の未来を担っていこうとする意欲にあふれ、志望する学科に対する目的意識が極めて明確で、自己の進路に高い志を持つ者</li> </ol> <p>※ 指定する部活動 ボクシング、弓道、水泳（ただし水球）、バスケットボール、ラグビーフットボール、ボート、陸上競技、バレーボール、ソフトテニス、硬式野球</p>		
検査内容	○ 面接 個人面接（15分）		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（135点） 「各教科の学習の記録」 1・2・3年の9教科の評定合計</li> <li>2 実績（150点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接（115点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
27	西和賀高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4～6の条件のいずれかに該当する者 ただし、4～6について、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、4～6は応募資格Aに該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>3 中学校3年間の欠席日数が、原則10日以下の者</li> <li>4 陸上競技（男・女）、バドミントン（男・女）、野球（男）の各部（特設も可）に所属して活動した者で、次のいずれかに該当し、入学後も当該部活動を継続する意志を持つ者 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）中学校体育連盟等主催の体育活動において、正選手として県大会へ出場した者</li> <li>（2）中学校体育連盟等主催の体育活動において、県の優秀選手・選抜選手・強化選手となった者、またはそれらに準ずる者</li> <li>（3）令和2・3年度の中学校体育連盟等主催の体育活動については、所属する部の顧問および中学校長が、（1）または（2）に相当する選手として認めたもの。</li> </ul> </li> <li>5 ボート部（男・女）に入部し、意欲的に活動する意志を持つ者で、上記4に示した（1）～（3）のいずれかに該当する者</li> <li>6 現在「いわてスーパーキッズ」に選ばれて育成プログラムを来春修了見込みの者で、上記4または5のいずれかの部に入部し、意欲的に活動する意志を持つ者</li> </ol>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、800字以内で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（120点） 「各教科の学習の記録」 [1・2年の9教科の評定合計（各45点）+3年の9教科の評定合計の2倍（90点）] 180点を120点に圧縮</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（80点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
28	水沢高等学校	全日制

学科名	普通・理数科（くくり募集）	定員	240名
募集定員	10%（24名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たしている者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送り、本校活性化に寄与することが期待される者</p> <p>3 中学時代の部活動等において、下記のいずれかの実績を持つ者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、（1）～（3）は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>（1）中学校体育連盟等が主催する大会において、個人または団体にレギュラーとして、県大会以上の大会に出場した者、または県の選抜チームまたは県の強化指定選手（野球競技においては地区選抜選手も含む）に選出された者</p> <p>（2）「いわてスーパーキッズ」に認定された者でそのプログラムが修了見込みの者</p> <p>（3）文化・芸術活動において、団体では県大会等の予選を経て東北大会以上のコンクール等に出場した者、個人では全国大会等での入賞等、顕著な活動が認められる者</p> <p><b>【本校にある部活動】</b></p> <p>《運動部》硬式野球、陸上競技（男女）、ラグビー、サッカー（男女）、バレーボール（男女）、バスケットボール（男女）、卓球（男女）、ソフトテニス（男女）、ハンドボール（男女）、弓道（男女）、剣道（男女）、山岳（男）、バドミントン（男女）、ウエイトリフティング（男女）、水泳</p> <p>《文化部》ESS、音楽、美術、書道、自然科学、写真、吹奏楽、文芸・短詩、囲碁将棋、演劇、茶華道、フォークロック</p> <p>※ 本校はウエイトリフティング男子が岩手県スポーツ特別強化指定を受けています。</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接 個人面接（10分程度）</p> <p>2 小論文 資料を50字程度に要約し、設問に対する自分の考えや意見を400字程度でまとめる（50分）</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年の5教科（国語・社会・数学・理科・英語）の評定の合計、ただし2年の評定は2倍、3年の評定は3倍し、合計150点を100点に圧縮する）</p> <p>2 実績（150点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接（75点）</p> <p>4 小論文（75点）</p> <p>&lt;合計 400点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	志願者が定員の2倍を超える場合は一次選考を実施することがある		

学校番号	学 校 名	課 程
29	水沢農業高等学校	全日制

学科名	全学科（農業科学科、食品科学科）	定員	各科40名
募集定員	各科20%（各科8名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願する動機・理由が明確で、入学後も意欲的に学業と部活動等を両立する意志がある者</p> <p>4 次のいずれかに該当する者</p> <p>ただし、（1）～（4）について、当該部活動での活動を義務づけるものではない。  <u>なお、（1）～（4）は応募資格A、（5）、（6）は応募資格Bに該当する。</u></p> <p>（1）各競技における県優秀選手・選抜選手・強化選手またはそれに準ずる者</p> <p>（2）「いわてスーパーキッズ」に選ばれ、そのプログラムの修了見込みの者</p> <p>（3）スポーツ活動において、選手として県大会出場または地区大会3位以上の成績を収めた者、もしくはそれと同等の実績があると認められる者で、本校の部活動で活躍するという確固たる意志のある者</p> <p>（4）文化・芸術ならびに郷土芸能活動において、各種大会の発表会・コンクールで顕著な活動が認められ、本校の部活動で活躍するという確固たる意志のある者</p> <p>（5）将来の職業が明確で、学科で学習した内容を生かして進学又は就職しようという強い意志がある者</p> <p>（6）本校の専門的な学習内容に強い興味関心があり、入学後も熱心に学習に取り組む意志がある者</p> <p>【本校にある部活動】</p> <p>&lt;運動部&gt;</p> <p>自転車競技（男女）、硬式野球（男）、バレーボール（女）、ソフトテニス（女）、乗馬（男女）、卓球（男女）、バドミントン（男女）、陸上競技（男女）、バスケットボール（男）、ボクシング（男女）、サッカー（男）</p> <p>&lt;文化部&gt;</p> <p>吹奏楽（男女）、民族舞踊（男女）、芸術文化（男女）、あぐりカルチャー（男女）</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接</p> <p>（1）一次 個人面接（15分程度）</p> <p>（2）二次 個人面接（5分程度）</p> <p>2 作文</p> <p>提示されたテーマについて、800字以内で自分の考えをまとめる（50分）</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（120点）</p> <p>「各教科の学習の記録」（1・2年の9教科の評定合計（各45点）と3年の9教科の評定合計の2倍（90点）を120点に圧縮）</p> <p>2 実績（取組等）及び作文（160点）</p> <p>実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</p> <p>3 面接（120点）</p> <p>&lt;合計 400点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
30	水沢工業高等学校	全日制

学科名	全学科（機械科、電気科、設備システム科、インテリア科）	定員	各科40名
募集定員	各科10%（各科4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 ものづくりに興味・関心が強く、工業に関する製作や実習に意欲がある者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者</li> </ol> <p>ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。  <u>なお、（1）、（2）は応募資格Aに該当する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) スポーツ活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 中学校体育連盟が主催する各種大会で活躍した者</li> <li>イ 中学校体育連盟以外の団体が主催する大会で活躍した者</li> </ol> </li> <li>(2) 文化・芸術活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 中学校文化連盟が主催する各種大会、各種発表会、各種コンクールやコンテストに出場または出品した者</li> <li>イ 中学校文化連盟以外の団体が主催する文化・芸術活動において、アと同等の実力があると認められる者</li> </ol> </li> </ol> <p>&lt;本校にある部活動&gt;  運動部：ボクシング[男子は県スポーツ特別強化指定]、硬式野球（男）、陸上競技、バレーボール、卓球、バスケットボール（男）、サッカー（男）、ハンドボール（男）、ソフトテニス、剣道、柔道、山岳  文化部：無線・情報、美術、新聞、吹奏楽、機械工作</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接（15分）		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」（1・2・3年生の9教科の評定の合計135点を100点に圧縮）</li> <li>2 実績（150点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 350点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断し選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
31	水沢商業高等学校	全日制

学科名	全学科（商業科、会計ビジネス科、情報システム科）	定員	各科40名
募集定員	各科15%（各科6名）		
推薦基準	<p>次の1～3の条件をすべて満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的生活習慣が身についている者</li> <li>3 志望する学科に対する興味関心が高く、入学後も意欲的に高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 次のいずれかに該当する者 ただし（1）～（3）について、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、（1）～（3）は応募資格A、（4）、（5）は応募資格Bに該当する。</u></li> </ol> <p>（1）中学校体育連盟等の主催する大会、クラブチーム（硬式野球、バスケットボール、ソフトボール等）・選抜チーム等の大会に出場し主力選手として活躍した者又は、それと同等の能力を有すると認められる者で、入学後も当該部活動を継続する意志のある者 硬式野球（男）、ソフトテニス（男女）、バレーボール（女）、ソフトボール（女）、バドミントン（男女）、バスケットボール（男女）、陸上競技（男女）、卓球（男女）</p> <p>（2）文化・芸術活動において、発表会やコンクール等に出場した者、又は、各種コンクールに入賞した者で、入学後も当該部活動を継続する意志のある者 吹奏楽、美術</p> <p>（3）珠算1級以上を取得した者で、入学後も当該部活動を継続する意志のある者 珠算・電卓</p> <p>（4）将来の職業、及び志望学科に対する目的意識が極めて明確であり、卒業後は本校で学んだことを生かし、進学又は就職しようとする強い意志のある者</p> <p>（5）志望学科で学んだことを生かし、将来、起業又は家業を継ぐ意志のある者</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 作文 600～800字（50分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習記録」 1・2・3年の9教科の評定合計（135点）を90点に圧縮</li> <li>2 実績（110点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
32	前沢高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	80名
募集定員	10%（8名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身につけている者</li> <li>3 中学校3年間の欠席日数が原則10日以内の者 ただし、やむを得ない事情による欠席は除く。</li> <li>4 本校への志願理由が明確かつ適切で、入学後も引き続き意欲的な高校生活を送ることができる者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)・(2)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 中学校の部活動に意欲的に取り組み、本校入学後も以下の部活動に所属し活動する意欲のある者 ＜対象となる部活動＞ バドミントン（男女）、硬式野球（男）、ソフトテニス（男女）、 バレーボール（女）、バスケットボール（男女）、卓球（男女）、吹奏楽</p> <p>(2) 中学校の生徒会活動やボランティア活動に意欲的に取り組み、本校入学後もそれらの活動に積極的に取り組む意志がある者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（10分程度）</li> <li>2 作文 400字以内（30分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の記録」（1・2・3年の9教科の評定の合計135点を100点に圧縮）</li> <li>2 活動記録（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（50点）</li> <li>4 作文（50点）</li> </ol> <p>＜合計 300点＞ ※合計点をもとに、総合的に判断して選抜する。</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
33	金ヶ崎高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	80名
募集定員	10%（8名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者（病気による入院等は考慮する）</li> <li>5 高校入学後も部活動や生徒会活動等において活躍が期待できる者で、次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 中学校体育連盟が主催する体育活動において、地区大会ベスト4以上で主力選手として活躍した者。または、それと同等の実績のある者</p> <p>(2) 中学校文化連盟が主催する文化活動において、県大会へ出場（出展）し顕著な成績を収めた者。または、それと同等の実績のある者</p> <p>(3) 生徒会活動において生徒会役員を務めた者</p> <p>(4) ボランティア活動等の校外活動を継続的に行い、顕著な活動実績のある者</p> <p><b>【本校にある部活動】</b>  運動部：硬式野球（男）、陸上競技（男女）、サッカー（男）、  バスケットボール（男女）、バレーボール（女）、ソフトテニス（男女）、  ソフトボール（女）、卓球（男）、剣道（男）、弓道（男女）  文化部：美術、吹奏楽</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて550～600字でまとめる（40分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」（1・2年の9教科の評定の合計（90点）を45点に圧縮し、3年の9教科の評定の合計（45点）を加算する）</li> <li>2 実績（120点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（50点）</li> <li>4 作文（40点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
34	岩谷堂高等学校	全日制

学科名	総合学科	定員	120名
募集定員	15% (18名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 中学校3年間の欠席日数の合計が10日以下の者。ただし、やむを得ない理由があるときはこの限りではないため、その理由を明記すること</p> <p>4 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な学校生活を送ることが期待され、次のいずれかに該当する者</p> <p>ただし、(1)～(4)について、当該の活動を義務づけるものではない。 なお、(1)～(4)は応募資格A、(5)は応募資格Bに該当する。</p> <p>(1) ウェイトリフティング部(岩手県スポーツ特別強化指定)への入部を希望し、新体力テストの成績がA段階の者</p> <p>(2) 鹿踊部への入部を希望し、現在、継続的に郷土芸能の活動をしている者</p> <p>(3) 中学校体育連盟等が主催する体育活動において、地区大会で3位以上の成績を収めた者 又はそれと同等の実力があると認められる者</p> <p>(4) 文化・芸術活動において、発表会・コンクール等で顕著な活動が認められる者</p> <p>(5) 将来の職業が明確で、本校の各系列で学習した内容を生かして、進学又は就職をしようとする強い意志がある者</p> <p>&lt;本校の系列&gt; 人文科学、自然科学、生物生産、産業工学、流通情報、生活・福祉</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接</p> <p>(1) 一次(個人面接 10分)</p> <p>(2) 二次(個人面接 10分)</p> <p>2 作文</p> <p>提示されたテーマについて、600字以上800字以内で自分の考えをまとめる(50分)</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書(100点)</p> <p>「各教科の学習の記録」 [1・2年の9教科の評定合計(各45点) + 3年の9教科の評定合計の2倍(90点)] 180点を100点に圧縮</p> <p>2 実績(200点)</p> <p>調査書・志願理由書に記載されている内容</p> <p>3 面接(100点)</p> <p>4 作文(100点)</p> <p>&lt;合計 500点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
35	一関第一高等学校	全日制

学科名	普通・理数科（くくり募集）	定員	200名
募集定員	10%（20名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>3 人物に優れ基本的な生活習慣が確立されている者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者 ただし、やむを得ない事情による欠席は除く。</li> <li>5 部活動等において主力として活躍し、顕著な成績を収めた者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 なお、本条件は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>※ 「主力として活躍し、顕著な成績を収めた者」とは、次のア、イのいずれかの実績を持つ者</p> <p>ア 中学校体育連盟等が主催する大会において、個人もしくは団体にレギュラーとして出場し、県大会ベスト16以上の成績を収めた者、または、県の選抜チームもしくは強化指定選手に選出された者 ただし、選考過程で候補選手に止まった者は除く。（全ての出願書類において、大会名と主催団体名、出場校数または人数、予選の有無等を明記し、その成績を具体的に説明すること）</p> <p>イ 文化・芸術活動において、東北大会以上のコンクール等に、個人または団体のメンバーとして出場し、優秀な成績を収めた者（全ての出願書類において、大会名と主催団体名、参加校数、出展作品数、予選の有無等を明記し、その成績を具体的に説明すること）</p> <p>【参考】本校にある部活動の紹介        [運動部] 陸上競技、水泳、卓球、柔道（男）、剣道、弓道、サッカー（男）        ソフトテニス、ソフトボール（女）、バレーボール、軟式野球（男）        硬式野球（男）、バドミントン、バスケットボール        [学芸部] 書道、美術、音楽、吹奏楽研究、文学、カメラ、科学探究、英語研究        競技歌留多、軽音楽、茶道、囲碁将棋</p>		
検査内容	○ 面接 個人面接（15分）		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」（1年の9教科の評定合計（45点）と2・3年の9教科の評定合計の2倍（180点）の合計225点を90点に圧縮）</li> <li>2 実績（150点） 志願理由書及び調査書に記載されている実績</li> <li>3 面接（60点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
36	一関第二高等学校	全日制

学科名	総合学科	定員	200名
募集定員	10% (20名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件いずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、本校入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者（特別な事情がある場合を除く）</li> <li>5 スポーツ、文化・芸術等で次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務付けるものではない。 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 運動部に所属して中学校3年間活動を続け、岩手県スポーツ特別強化指定校及び岩手県高等学校体育連盟強化拠点校として指定されている本校フェンシング部（男・女）への入部を希望する者</p> <p>(2) 中学校体育連盟・中学校文化連盟等が主催する各種大会において、地区予選を経て県大会以上の大会に出場した者 ただし、団体の場合はエントリーメンバーであり、地区予選のない大会等では、県大会ベスト8以上の成績を収めた者</p> <p>(3) 生徒会活動や校外活動（体育分野、文化・芸術分野、各種発表会・コンクール等）で顕著な活動が認められる者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 小論文 設問に対する自分の意見を600字程度でまとめる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（110点） 「各教科の学習の記録」 [1年の9教科の評定合計（45点）＋2・3年の9教科の評定合計の2倍（180点）] 225点を110点に圧縮</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（50点）</li> <li>4 小論文（40点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
37	一関工業高等学校	全日制

学科名	全学科（電気電子科、電子機械科、土木科）	定員	各科40名
募集定員	各科15%（各科6名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4又は5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校体育連盟等主催の大会において、選手として競技・試合に出場し、入学後も選手として当該運動部で活動する意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</li> <li>5 工業を通じて地域や岩手の未来を担っていこうとする意欲にあふれ、志望する学科に対する目的意識が極めて明確で、自己の進路に高い志を持つ者</li> </ol> <p>なお、4は応募資格A、5は応募資格Bに該当する。</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接（15分）		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（150点） 「各教科の学習の記録」 数学を2倍にした1・2・3年の9教科の評定の合計</li> <li>2 実績等（150点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
38	花泉高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～5の条件をすべて満たした者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身についている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 スポーツ、文化・芸術活動、生徒会活動、ボランティア活動等に継続的に取り組んだ実績をもつ者</li> </ol> <p>ただし、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、本条件は応募資格Aに該当する。</u></p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて自分の意見を800字以内でまとめる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」 [1・2年の9教科の評定合計（各45点）+3年の9教科の評定合計の2倍（90点）] 180点を100点に圧縮</li> <li>2 実績及び面接（100点） 実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
39	大東高等学校	全日制

学科名	全学科（普通科、情報ビジネス科）	定員	普通科80名、情報ビジネス科40名
募集定員	各科10%（普通科8名、情報ビジネス科4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者  2 基本的生活習慣が身に付いている者  3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者  4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者  5 次のいずれかに該当する者  ただし、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、（1）～（3）は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>（1）スポーツ活動  中学校3年間のうち、県大会出場または地区大会ベスト4以上の成績を収め、中心メンバーとして活躍した者、もしくは県選抜メンバーまたは地区選抜メンバーとして活躍した者</p> <p>（2）文化・芸術的活動  中学校3年間のうち、予選を経て県大会以上に出場または出品した者、もしくは予選を経ないで県大会以上に出場または出品した場合は入賞した者</p> <p>（3）生徒会活動、ボランティア活動、地域貢献活動  生徒会役員として、各種生徒会活動において中心的な役割を務めた者、もしくは継続的なボランティア活動等を行った者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt;  運動部：陸上競技（男女）、バスケットボール（男）、バレーボール（男）、卓球（男女）、ソフトテニス（女）、弓道（男女）、バドミントン（男女）、ソフトボール（女）、硬式野球（男）  文化部：美術、音楽、吹奏楽、茶華道、ワープロ、鹿踊</p>		
検 査 内 容	○ 面接 （1）一次（個人面接 10分） （2）二次（個人面接 10分）		
選 抜 方 法	1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」 1・2・3年の9教科の評定の合計（135点）を100点に圧縮 2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容 3 面接（50点）  <合計 250点> ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
40	千厩高等学校	全日制

学科名	全学科（普通科、生産技術科、産業技術科）	定員	普通科120名、生産技術科40名、 産業技術科40名
募集定員	各科10%（普通科12名、生産技術科4名、産業技術科4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) スポーツに関する実績について ア ソフトボール（女子）において、各種大会に出場した者で、入学後もその活動を続ける意志のある者 イ 中学校体育連盟等が主催する体育活動において、選手として競技・試合に出場し県大会出場以上の成績を収めた者。又はこれと同等の能力を有すると認められる者</p> <p>(2) 文化・芸術活動等に関する実績について 中学校文化連盟等が主催する文化・芸術、郷土芸能活動において、上記スポーツに関する実績と同等の成績と認められる者</p> <p>(3) 生徒会活動について 生徒会役員、各種委員長の役職経験を有し、顕著な活動をした者</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接（15分）		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計の0.5倍（45点）＋3年の9教科の評定合計（45点）</li> <li>2 実績及び面接（160点） 実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> </ol> <p>&lt;合計 250点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
41	高田高等学校	全日制

学科名	全学科（普通科、海洋システム科）	定員	普通科120名、海洋システム科40名
募集定員	各科10%（普通科12名、海洋システム科4名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志望理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的に活動する意志のある者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者</li> </ol> <p>ただし、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) スポーツ活動で次のいずれかの実績を持つ者 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 中学校体育連盟が主催・共催する活動において、団体戦又は個人戦のいずれかで県大会出場以上の成績を収めた者</li> <li>イ 県レベルで優秀選手又は強化選手、選抜選手のいずれかに選ばれた者、又はそれと同等の実力がある者</li> </ol> </li> <li>(2) 文化・芸術活動において、各種大会の発表会・コンクールで県上位レベルの顕著な活動が認められる者</li> <li>(3) 生徒会活動において生徒会役員を務めた者</li> </ol>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（135点） 「各教科の学習の記録」 1・2・3年の9教科の評定の合計</li> <li>2 実績（135点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（40点）</li> <li>4 作文（40点）</li> </ol> <p>&lt;合計 350点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
42	大船渡高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	160名
募集定員	10% (16名)		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学校の3年間の欠席日数が原則として10日以下の者</p> <p>5 次のいずれかに該当する者</p> <p>ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。  <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 体育活動において、県大会出場以上に相当する成績を収めた者、または、県レベルで優秀選手や強化選手、選抜選手に選ばれた者。ただし、2年生または3年生で主力として活躍した者</p> <p>(2) 文化・芸術活動において、県大会レベル以上の発表会やコンクール等で入選または入賞した者。ただし、2年生または3年生で主力として活躍した者</p> <p>(3) 「いわてスーパーキッズ」に認定され、修了見込みの者</p>		
検査内容	<p>1 面接 個人面接 (20分)</p> <p>2 作文 (800字程度、50分)</p>		
選抜方法	<p>1 調査書 (100点) 「各教科の学習の記録」 1・2・3年の9教科の評定合計を100点に圧縮</p> <p>2 実績 (100点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接 (30点)</p> <p>4 作文 (70点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する。</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
43	大船渡東高等学校	全日制

学科名	全学科（農芸科学科、機械電気科、情報処理科、食物文化科）	定員	各科40名
募集定員	各科10%（各科4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 本校の教育内容や専門教育の各分野に興味・関心がある者</li> <li>4 入学後も学習や部活動に全力で取り組み、意欲的な学校生活ができる者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) スポーツ活動で県大会出場・地区大会3位以上の成績で主力選手として活躍した者、またはそれと同等の実力がある者で入学後も本校で運動部を継続する者</p> <p>(2) 郷土芸能活動において継続的な活動を行い、各種発表会等で顕著な活動が認められ、本校の太鼓部の活動に興味がある者</p> <p>(3) 文化・芸術活動で県大会出場または各種コンクール等に入賞した者</p> <p>(4) 生徒会活動で生徒会役員を務めた者、または部活動で部長・主将を務めた者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、800字以内で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」 1・2・3年生の9教科の評定の合計(135点)を100点に圧縮</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
44	住田高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10% (4名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 生徒会活動、スポーツ、文化、芸術、ボランティア等で次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) 中学校体育連盟・中学校文化連盟等が主催する体育活動及び文化活動において、地区大会団体4位以上(レギュラーメンバー)、または、同個人8位以上の者</p> <p>(2) 学校外での体育活動、文化・芸術活動において、(1)と同等の顕著な活動が認められる者</p> <p>(3) 郷土芸能活動、ボランティア活動において、継続的に活動している者</p> <p>(4) 生徒会執行部、クラス委員長、各種行事のリーダーとして、その任をよく果たした者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接(15分)</li> <li>2 作文 600～800字(50分)</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書(180点) 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計(各45点) + 3年の9教科の評定合計の2倍(90点)</li> <li>2 実績(180点) 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接(140点)</li> <li>4 作文(100点)</li> </ol> <p>&lt;合計 600点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
45	釜石高等学校	全日制

学科名	普通・理数科（くくり募集）	定員	160名
募集定員	10%（16名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志望理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、（1）～（3）は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>（1）体育活動 ア 中学校体育連盟等が主催する体育活動において、県大会団体16位以上（同個人16位以上）、または、これと同等の力量を有し主力選手として活躍した者 イ 「いわてスーパーキッズ」に選ばれ、そのプログラムを修了見込みの者</p> <p>（2）文化・芸術活動 中学校文化連盟等が主催する文化活動において、県大会団体8位相当以上（同個人8位相当以上）、または、これと同等の力量を有し中心となって活躍した者</p> <p>（3）生徒会活動・ボランティア活動 生徒会活動や継続的なボランティア活動を行っている者（海外研修等でボランティア活動を行った者も含む）</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、600字以内で自分の考えを述べる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（180点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）</li> <li>2 実績（120点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（75点）</li> <li>4 作文（75点）</li> </ol> <p>&lt;合計 450点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
46	釜石商工高等学校	全日制

学科名	全学科（機械科、電気電子科、総合情報科）	定員	各科40名
募集定員	各科10%（各科4名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 当該学科への志望動機・志望理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される優れた者</p> <p>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日未満の者</p> <p>5 スポーツ、文化・芸術、生徒会、ボランティア等において顕著な成績を収め、入学後も意欲的に活動する意志のある者で、次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(4)は応募資格Aに該当する</u></p> <p>(1) スポーツ活動：県大会出場以上で選手として活躍した者、又は、それと同等の実力のある者、もしくは、入学後に硬式野球部、ラグビー部、なぎなた部、空手道部で3年間やり遂げる意志を持つ者</p> <p>(2) 文化・芸術活動：県大会に出場した者、又は、県レベルでの各種コンクールに入賞した者</p> <p>(3) 生徒会活動：生徒会役員、又は、各種委員長を務めた者</p> <p>(4) ボランティア活動：継続的に行った実績のある者</p>		
検査内容	<p>1 面接</p> <p>(1) 一次（個人面接 10分）</p> <p>(2) 二次（個人面接 10分）</p> <p>2 作文</p> <p>提示されたテーマについて600～800字で自分の考えをまとめる（50分）</p>		
選抜方法	<p>1 調査書（100点）</p> <p>「各教科の学習の記録」</p> <p>1・2・3年の9教科の評定合計（各45点）の135点を100点に圧縮</p> <p>2 実績（100点）</p> <p>調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接（150点）</p> <p>4 作文（100点）</p> <p>&lt;合計 450点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
47	大槌高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	80名
募集定員	10%（8名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身につけている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、中学生生活を意欲的に送り、入学後も引き続き意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</p> <p>5 スポーツ、文化・芸術、生徒会活動等で次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、（1）～（4）は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>（1）中学校の部活動または学校外での体育活動及び文化・芸術活動において、主体的で熱心な活動が認められる者</p> <p>（2）生徒会活動で執行部に所属し、リーダーとして資質のある者</p> <p>（3）校内外のボランティア活動、地域貢献活動等において、主体的で熱心な活動が認められる者</p> <p>（4）「いわてスーパーキッズ」に認定された者</p>		
検査内容	<p>○ 面接 個人面接(15分)</p> <p>○ 作文 与えられたテーマについて自分の考えを600字以内にまとめる（40分）</p>		
選抜方法	<p>1 調査書（150点） 「各教科の学習の記録」 1・2・3年の9教科の評定の合計（135点）を150点に換算</p> <p>2 実績（50点） 調査書及び志望理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接（50点）</p> <p>4 作文（50点）</p> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
48	山田高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推薦基準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 スポーツ、文化・芸術活動、生徒会活動等で次のいずれかに該当する者ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、（1）～（2）は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>（1）スポーツ活動、文化・芸術活動 部活動等において継続的に取り組んだ実績を持つ者で、下記部活動で活動する意志のある者 陸上競技、ボート、空手道、バレーボール（女）、 バスケットボール（女）、ソフトテニス（女）、硬式野球、 書道、吹奏楽、パソコン、茶華道 ※ ボート部（男）は、岩手県スポーツ特別強化指定校及び岩手県高等学校体育連盟強化拠点校として指定を受けている。</p> <p>（2）生徒会活動等 生徒会活動を実践しリーダーとしての資質を有する者や、学校として行う以外のボランティア活動に主体的・継続的に取り組んできた者</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 （1）一次（個人面接 10分） （2）二次（個人面接 10分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、600字程度で自分の考えを述べる（40分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」 [1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）] 180点を100点に圧縮</li> <li>2 実績（50点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 350点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
49	宮古高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	200名
募集定員	10% (20名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件に該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持ち、基本的な生活習慣が身につけている者</p> <p>2 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>3 入学後、本校に設置されている部活動に入部を希望し、3年間続ける意志のある者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</p> <p>4 <u>スポーツ、文化・芸術活動で次のいずれかに該当する者</u> <u>なお、(1)～(2)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) スポーツにおいて、各種大会で主力選手として活躍した者</p> <p>(2) 文化・芸術活動において、各種大会の発表会・コンクールで顕著な活動が認められる者</p> <p>&lt;本校に設置されている部活動&gt;</p> <p>運動部：陸上競技、空手道、剣道、硬式野球、サッカー（男）、柔道、卓球、ソフトテニス、バスケットボール、バレーボール、ボート、ヨット、ラグビー（男）、ソフトボール（女）</p> <p>文化部：音楽、書道、吹奏楽、生物、美術、放送、茶華道</p>		
検 査 内 容	○ 面接 個人面接（10分）		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（150点） 「各教科の学習の記録」 1・2・3年の国語・社会・数学・理科・英語の評定の合計の2倍</p> <p>2 実績（300点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接（50点）</p> <p>&lt;合計 500点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
50	宮古北高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～5の条件をすべて満たした者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 スポーツ・文化・芸術・生徒会・ボランティア・郷土芸能等の活動に意欲的に取り組んだ者</li> </ol> <p>ただし、当該の活動を義務づけるものではない。</p> <p><u>なお、5は応募資格Aに該当する。</u></p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 一次（個人面接 10分）</li> <li>(2) 二次（個人面接 10分）</li> </ul> </li> <li>2 作文 <p>提示されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる（50分）</p> </li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（180点） <ul style="list-style-type: none"> <li>「各教科の学習の記録」</li> <li>1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）</li> </ul> </li> <li>2 面接（120点）</li> <li>3 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学校名	課程
51-1	宮古商工高等学校	全日制

学科名	機械システム科、電気システム科	定員	各科40名
募集定員	各科15% (各科6名)		
推薦基準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者  2 基本的な生活習慣が身に付いている者  3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者  4 次のいずれかに該当する者  ただし、(1)～(3)について、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、(1)～(3)は応募資格A、(4)は応募資格Bに該当する。</u></p> <p>(1) スポーツ活動：中学校体育連盟等が主催する体育活動において、地区大会で団体4位以上、あるいは個人で県大会出場以上の成績を収めた者、又は地区選抜や県選抜の候補に選ばれるなど顕著な成績を収めた者  (2) 文化・芸術活動：県大会に出場した者、又は、各種コンクールに入賞した者  (3) 生徒会活動：生徒会役員を務めた者で、入学後も生徒会活動に意欲のある者  (4) ものづくり意欲：ものづくりに興味・関心が強く、志望する学科に対する目的意識が極めて具体的で、将来工業系大学への進学又は工業関係の職業に就職しようとする強い意志がある者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt;  運動部：硬式野球(男)、陸上競技(男女)、バスケットボール(男女)、バレーボール(男女)、卓球(男女)、ソフトテニス(男女)、サッカー(男女)、ラグビー(男)、柔道(男女)、ソフトボール(女)、剣道(男女)、弓道(男女)、ヨット(男女)、レスリング(男女)  ※ レスリング(男)、ヨット(男女)は岩手県スポーツ特別強化指定  文化部：書道、美術、吹奏楽、写真、茶道、家政、ワープロ、芸術、工作</p>		
検査内容	<input type="radio"/> 個人面接 応募資格A (10分) 応募資格B (一次10分、二次10分)		
選抜方法	<p>1 調査書 (100点)  「各教科の学習の記録」  [1・2年の9教科の評定合計(各45点)+3年の9教科の評定合計の2倍(90点)]を100点に圧縮</p> <p>2 実績等  応募資格A 調査書及び志願理由書に記載されている実績 (140点)  応募資格B 調査書及び志願理由書に記載されている内容 (80点)</p> <p>3 面接  応募資格A (60点)  応募資格B (120点)</p> <p>&lt;合計 300点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
51-2	宮古商工高等学校	全日制

学科名	総合ビジネス科、流通ビジネス科、情報ビジネス科	定員	各科40名
募集定員	各科10% (各科4名)		
推薦基準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者  2 基本的な生活習慣が身に付いている者  3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者  4 次のいずれかに該当する者  ただし、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) スポーツ活動：中学校体育連盟等が主催する体育活動において、地区大会で団体4位以上、あるいは個人で県大会出場以上の成績を収めた者、又は地区選抜や県選抜の候補に選ばれるなど顕著な成績を収めた者  (2) 文化・芸術活動：県大会に出場した者、又は、各種コンクールに入賞した者  (3) 生徒会活動：生徒会役員を務めた者で、入学後も生徒会活動に意欲のある者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt;  運動部：硬式野球（男）、陸上競技（男女）、バスケットボール（男女）、バレーボール（男女）、卓球（男女）、ソフトテニス（男女）、サッカー（男女）、ラグビー（男）、柔道（男女）、ソフトボール（女）、剣道（男女）、弓道（男女）、ヨット（男女）、レスリング（男女）  ※ レスリング（男）、ヨット（男女）は岩手県スポーツ特別強化指定  文化部：書道、美術、吹奏楽、写真、茶道、家政、ワープロ、芸術、工作</p>		
検査内容	○ 面接 個人面接（10分）		
選抜方法	<p>1 調査書（100点）  「各教科の学習の記録」  [1・2年の9教科の評定合計(各45点)+3年の9教科の評定合計の2倍(90点)]を100点に圧縮  2 実績（140点）  調査書及び志願理由書に記載されている実績  3 面接（60点）</p> <p>&lt;合計 300点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
52	宮古水産高等学校	全日制

学科名	全学科（海洋生産科、食物科）	定員	各科40名
募集定員	各科15%（各科6名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</p> <p>5 次のいずれかに該当する者</p> <p>ただし、（1）～（4）について、当該の活動を義務づけるものではない。  <u>なお、（1）～（4）は応募資格A、（5）は応募資格Bに該当する。</u></p> <p>（1）生徒会役員として、生徒会活動に率先して取り組んだ者</p> <p>（2）学校行事以外で、継続的にボランティア活動を行った実績のある者</p> <p>（3）スポーツ活動：県大会出場又は地区大会3位以上で主力選手として活躍した者、 又は、それと同等の実力のある者</p> <p>（4）文化・芸術活動：県大会出場した者、又は、各種コンクールに入賞した者</p> <p>（5）将来の職業が明確で、各科で学習した内容を生かして進学又は就職をしようとする強い意志がある者</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接</p> <p>（1）一次（個人面接 15分）</p> <p>（2）二次（個人面接 15分）</p> <p>2 作文</p> <p>（1）時間（50分）</p> <p>（2）字数（600字以上800字以内）</p> <p>（3）内容 提示されたテーマについて、自分の考えをまとめる</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（180点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）</p> <p>2 実績及び作文（220点） 実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</p> <p>3 面接（100点）</p> <p>&lt;合計 500点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する。</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
53	岩泉高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	80名
募集定員	10%（8名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後の意欲的な高校生活が期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 なお、（1）～（5）は応募資格A、（6）、（7）は応募資格Bに該当する。</li> </ol> <p>（1）中学校体育連盟・中学校文化連盟が主催する諸活動等において、3年間を通じて熱心な活動が認められる者</p> <p>（2）生徒会活動：生徒会役員等として、生徒会活動に取り組んだ実績のある者</p> <p>（3）ボランティア活動：継続的に行った実績のある者</p> <p>（4）郷土芸能活動：継続的に行った実績のある者</p> <p>（5）異文化交流：国際交流活動等に取り組んだ実績のある者</p> <p>（6）入学後に郷土芸能活動や国際交流活動等に取り組み、卒業後はこれらを生かして地域社会に貢献しようとする強い意志がある者</p> <p>（7）将来の進路について明確かつ具体的な希望があり、卒業後は本校で学んだことを生かして社会に貢献しようとする強い意志がある者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、800字以内で自分の考えをまとめる（60分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」1・2・3年の9教科の評定の合計（135点）を90点に圧縮する</li> <li>2 実績及び面接（160点） 実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 作文（50点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
54	久慈高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	160名
募集定員	10%（16名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たす者  <u>なお、4は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者  2 基本的な生活習慣が身に付いている者  3 中学校3年間の欠席日数が原則として10日以下の者  4 スポーツ、文化及び芸術において、県レベル以上の公的大会・コンクール及び審査会等において顕著な成績を収めた者で、入学後も当該部活動に所属し活動する意志のある者</p> <p>ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</p>		
検 査 内 容	<p>○ 面接  個人面接（20分程度）</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書（90点）  「各教科の学習の記録」  1・2年の評定合計（90点）を45点に圧縮し、3年の評定合計（45点）と合わせて90点とする</p> <p>2 実績（100点）  調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接（60点）</p> <p>&lt;合計 250点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
55	久慈東高等学校	全日制

学科名	総合学科	定員	200名
募集定員	10% (20名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いており、他の生徒の模範となる生活を送った者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 スポーツ、文化・芸術等及び生徒会活動で、次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(5)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 柔道または野球に意欲的に取り組んだ生徒で、入学後も該当の部に所属し活躍が期待できる者</p> <p>(2) 中学校体育連盟等が主催する体育活動において主力選手として活躍し、地区大会ベスト4以上の成績を収めた者</p> <p>(3) 中学校文化連盟等が主催する文化活動において県大会以上に出場した者</p> <p>(4) 上記(2)(3)と同等の実力があると認められ、体育活動または文化活動において中心的な役割を果たした者</p> <p>(5) 生徒会役員として生徒会活動に率先して取り組んだ者</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接 (1) 一次 (個人面接10分) (2) 二次 (個人面接10分)</p> <p>2 作文 あるテーマに対する自分の意見を600字以内でまとめる。(50分)</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書 (135点) 「各教科の学習の記録」(1・2・3年の9教科の評定の合計)</p> <p>2 実績 (125点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接 (140点)</p> <p>4 作文 (100点)</p> <p>&lt;合計 500点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
56	久慈工業高等学校	全日制

学科名	全学科（電子機械科、建設環境科）	定員	各科40名
募集定員	各科10%（各科4名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性をもつ者</li> <li>2 基本的な生活習慣を身に付けている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切であり、入学後の意欲的な高校生活が期待される者</li> <li>4 ものづくりへの興味・関心が強く、工業に関する機械操作や製作実習に意欲がある者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(6)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) スポーツ活動 県大会出場または地区大会3位以上の成績で主力選手として活躍した者、または、それと同等の実力が認められる者</p> <p>(2) 文化・芸術活動 県大会出場、各種コンクール入賞等の実績がある者</p> <p>(3) 生徒会活動 生徒会役員、各種委員長等を務めた者</p> <p>(4) ボランティア活動 継続的に活動した実績がある者</p> <p>(5) 資格 資格等を取得している者</p> <p>(6) その他 岩手県スポーツ特別強化指定校の指定を受けている本校ウエイトリフティング部に入部を希望し、3年間活動する強い意志をもち、次のいずれかに該当する者</p> <p>(ア) 運動部に所属し、県大会で主力選手として活躍した者、またはそれと同等の実力が認められる者</p> <p>(イ) 新体力テストの成績がA段階である者</p> <p>(ウ) 現在「いわてスーパーキッズ」に認定されている者</p> <p>【本校にある部活動】</p> <p>&lt;運動部&gt; 硬式野球、ウエイトリフティング、ソフトテニス、ラグビー、バスケットボール、卓球、柔道</p> <p>&lt;文化部&gt; 吹奏楽、美術、料理、工学研究</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（10分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、600字以内で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（180点） 「各教科の学習の記録」 1・2年9教科の評定合計（各45点）＋3年9教科の評定合計の2倍（90点）</li> <li>2 実績（170点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（50点）</li> </ol> <p>&lt;合計 500点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
57-1	種市高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10% (4名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 本校普通科への志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 スポーツ、文化・芸術、生徒会活動等で次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) スポーツ活動：県大会出場又は地区大会3位以上で主力選手として活躍した者、又は、それと同等の実力のある者 (本校は、男子レスリング部が岩手県スポーツ特別強化指定を受けている)</p> <p>(2) 文化・芸術活動：県大会に出場した者、又は、各種コンクールに入賞した者、又は、それと同等の実力のある者</p> <p>(3) 生徒会活動：生徒会役員を務めた者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接 (10分程度)</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて400字以内で自分の考えを述べる (50分)</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書 (135点) 「各教科の学習の記録」 (1・2・3年の9教科の評定の合計)</li> <li>2 実績及び面接 (105点) 実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 作文 (60点)</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
57-2	種市高等学校	全日制

学科名	海洋開発科	定員	40名
募集定員	10% (4名)		
推薦基準	<p>次の1～5の条件を満たす者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 本校海洋開発科への志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 本校海洋開発科に対する目的意識が明確で、高校卒業又は大学卒業後に海洋関係の職業に就職しようとする強い意志がある者</li> </ol> <p><u>なお、本条件は応募資格Bに該当する。</u></p>		
検査内容	<p>○ 面接 個人面接 (15分程度)</p>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書 (135点) 「各教科の学習の記録」 (1・2・3年の9教科の評定の合計)</li> <li>2 実績及び面接 (165点) 実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
58	大野高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待できる者</li> <li>4 次のいずれかに該当し、入学後もその経験を生かして活動していく意志のある者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)～(3)は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>(1) スポーツ活動</p> <p>ア 卓球競技において、入学後卓球部で活動する意欲のある者 ※ 卓球（女子）は岩手県スポーツ特別強化指定校の指定を受けている。</p> <p>イ 上記ア以外のスポーツ競技において、県大会出場・地区大会3位以上相当で主力選手として活躍した者</p> <p>(2) 文化・芸術活動</p> <p>県大会出場など各種コンクールに入賞し、主力メンバーとして活躍した者</p> <p>(3) 生徒会活動</p> <p>生徒会役員、または各種委員長等を務めた者</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（20分）</li> <li>2 作文 提示された題について、600字以内で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（90点） 「各教科の学習の記録」1・2・3年の9教科の評定合計（135点）を90点に圧縮</li> <li>2 実績（110点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（50点）</li> <li>4 作文（50点）</li> </ol> <p>&lt;合計 300点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
59	軽米高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	80名
募集定員	10% (8名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者（特別な事情がある場合を除く）</li> <li>5 下の（1）～（4）のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務づけるものではない。 <u>なお、（1）～（4）は応募資格Aに該当する。</u></li> </ol> <p>（1）スポーツ活動：県大会等に出場し主力選手として活躍した者または、それと同等の実力があると判断できる者</p> <p>（2）文化・芸術活動：県大会出場や各種コンクール等で入賞した者または、それと同等の実力があると判断できる者</p> <p>（3）生徒会活動等：生徒会役員等を務めた者</p> <p>（4）校外の地域貢献活動：総合型地域スポーツクラブ等で意欲的に活躍した者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt; 運動部：硬式野球、陸上競技、ソフトテニス、剣道、卓球、バレーボール（女）、バスケットボール、サッカー（男） 文化部：音楽、吹奏楽、美術・書道</p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分）</li> <li>2 作文 設問に対して、560～600字で自分の考えをまとめる（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」 [1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）] を100点に圧縮</li> <li>2 実績（200点） 調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 500点&gt; ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
60	伊保内高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	40名
募集定員	10%（4名）		
推 薦 基 準	<p>次の1～5の条件を全て満たす者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確で、入学後も意欲的に高校生活を送ることが期待できる者</li> <li>4 中学校3年間の欠席日数が原則10日以下の者</li> <li>5 スポーツ、文化・芸術、特別活動（生徒会活動等）、その他校内外の活動（ボランティア活動、地域貢献活動、郷土芸能伝承活動等）に継続的に取り組んだ実績を持つ者</li> </ol> <p>ただし、当該の活動を義務づけるものではない。</p> <p><u>なお、5は応募資格Aに該当する。</u></p>		
検 査 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（20分）</li> <li>2 作文 提示されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる。（50分）</li> </ol>		
選 抜 方 法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（100点） 「各教科の学習の記録」 [1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年の9教科の評定合計の2倍（90点）]を100点に圧縮</li> <li>2 実績（100点） 調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接（100点）</li> <li>4 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 400点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
61	福岡高等学校	全日制

学科名	普通科	定員	160名
募集定員	10% (16名)		
推 薦 基 準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件のいずれかに該当する者</p> <p>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</p> <p>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</p> <p>3 志願理由が明確かつ適切で入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</p> <p>4 次のいずれかに該当する者 ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。 <u>なお、(1)、(2)は応募資格Aに該当する。</u></p> <p>(1) 体育活動で次のア～エのいずれかに該当する者 ア 令和2年度・3年度各種大会に選手として出場した者 イ 新体力テストの成績がA段階の者 ウ 各競技における県優秀選手、選抜選手、強化選手又はそれに準ずる者 エ 「いわてスーパーキッズ」に選ばれ、その育成プログラム修了見込みの者</p> <p>(2) 文化・芸術活動等において顕著な活動が認められる者</p>		
検 査 内 容	<p>1 面接 個人面接 (20分)</p> <p>2 作文 (50分) 指定されたテーマについて、600字以上800字以内で書く</p>		
選 抜 方 法	<p>1 調査書 (90点) 「各教科の学習の記録」1・2・3年の9教科の評定合計 (135点) を90点に圧縮</p> <p>2 実績 (100点) 調査書及び志願理由書に記載されている実績</p> <p>3 面接 (80点)</p> <p>4 作文 (80点)</p> <p>&lt;合計 350点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
62	福岡工業高等学校	全日制

学科名	全学科（機械システム科、電気情報システム科）	定員	各科40名
募集定員	10%（各科4名）		
推薦基準	<p>次の1～4の条件を満たした上で、5の条件のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志願理由が明確かつ適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることが期待される者</li> <li>4 ものづくりに興味・関心が強く、工業に関する実験や実習等に意欲を持って取り組むことが期待される者</li> <li>5 次のいずれかに該当する者 ただし、当該の活動を義務付けるものではない。 なお、<u>(1)～(4)</u>は応募資格Aに該当する。</li> </ol> <p>(1) スポーツ活動：県大会出場または地区大会3位以上で主力選手として活躍した者、または、それと同等の実力のある者</p> <p>(2) 文化・芸術活動：県大会出場または各種コンクールに入賞した者、または、それと同等の実力のある者</p> <p>(3) 生徒会活動：生徒会役員、または、各種委員長を務めた者</p> <p>(4) ボランティア活動：継続的に行った実績がある者</p> <p>&lt;本校にある部活動&gt;</p> <p>運動部：硬式野球部、バスケットボール部、卓球部、サッカー部、柔道部、弓道部、テニス部</p> <p>文化部：総合文化部</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接 個人面接（15分程度）</li> <li>2 作文 (1) 時間（50分） (2) 字数（600字～800字）</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書（180点） 「各教科の学習の記録」 1・2年の9教科の評定合計（各45点）＋3年生の9教科の評定合計の2倍（90点）</li> <li>2 実績及び面接（150点） 実績は、調査書及び志願理由書に記載されている内容</li> <li>3 作文（100点）</li> </ol> <p>&lt;合計 430点&gt;</p> <p>※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

学校番号	学 校 名	課 程
63	一戸高等学校	全日制

学科名	総合学科	定員	120名
募集定員	15% (18名)		
推薦基準	<p>次の1～3の条件を満たした上で、4の条件に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者</li> <li>2 人物に優れ、基本的な生活習慣が身に付いている者</li> <li>3 志望理由が明確・適切で、入学後も意欲的な高校生活を送ることができる者</li> <li>4 次のいずれかに該当する者  <u>なお、(1)は応募資格A、(2)は応募資格Bに該当する。</u> </li> </ol> <p>(1) 中学校在学中、運動部活動、文化部活動等に熱心に取り組み、各種大会、各種コンクールおよび発表会などに出場・出品した実績を持つ者  ただし、当該部活動での活動を義務づけるものではない。</p> <p>(2) 地域課題解決に関心があり、積極的に地域と連携・協働する活動を通して、将来、地域の活性化を目指す意志のある者</p> <p>【系列】 人文・自然系列、介護・福祉系列、生活・文化系列、情報ビジネス系列</p>		
検査内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接  (1) 一次 (個人面接 10分)  (2) 二次 (個人面接 10分)</li> <li>2 作文  提示されたテーマについて、600字程度で自分の考えをまとめる (50分)</li> </ol>		
選抜方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査書 (110点)  「各教科の学習の記録」  [1年の9教科の評定合計 (45点) + 2年の9教科の評定合計の2倍 (90点) + 3年の9教科の評定合計の3倍 (135点)] 270点を110点に圧縮</li> <li>2 実績 (100点)  調査書及び志願理由書に記載されている実績</li> <li>3 面接 (70点)</li> <li>4 作文 (70点)</li> </ol> <p>&lt;合計 350点&gt;  ※ 合計点をもとに、総合的に判断して選抜する</p>		
一次選考の有無	無		

令和3年度岩手県スポーツ特別強化指定校及び指導者【学校別一覧】

R3.4.1

No.	学校名	区分	No.	男女別	競技種目名	指導者
1	盛岡第一高等学校	個人	1	女子	陸上競技	藤井 雅史
		個人	2	女子	登山	佐藤 幸久
2	盛岡第四高等学校	個人	3	男子	陸上競技	佐々木 優次
3	盛岡南高等学校	個人	4	男子	陸上競技	八重樫 淳
		個人	5	男子	スキー	立花 武良
		個人	6	女子	スキー	立花 武良
		個人	7	男子	登山	(岩澤 健二)
4	不来方高等学校	個人	8	男子	ボクシング	長内 亮
		団体	9	男子	ハンドボール	安倍 千夏
		団体	10	女子		大沢 勝
		個人	11	男子	カヌー	尻引 正光
		個人	12	女子		
		団体	13	男子	ホッケー	(山本 一志)
団体	14	女子	岩館 直也			
個人	15	女子	弓道	佐藤 慶志		
5	盛岡農業高等学校	個人	16	女子	スケート	武田 敏之
6	盛岡工業高等学校	個人	17	男子	ウエイトリフティング	小野寺 優介
		個人	18	男子	レスリング	阿部 孝行
		個人	19	男子	スケート	植津 悦典
		個人	20	女子	スケート	
7	盛岡市立高等学校	個人	21	男子	新体操	藤原 大貴
		個人	22	男子	陸上競技	相馬 陽子
8	沼宮内高等学校	団体	23	男子	ホッケー	田村 保
		団体	24	女子		福土 紘平
9	平舘高等学校	個人	25	男子	相撲	鈴木 裕介
		個人	26	男子	スキー	佐々木 明子
10	紫波総合高等学校	個人	27	男子	自転車競技	鎌田 大樹
		個人	28	女子	自転車競技	
11	花巻北高等学校	個人	29	男子	陸上競技	平野 恭弘
12	花巻農業高等学校	個人	30	男子	ボクシング	八重樫 剛
13	黒沢尻北高等学校	団体	31	男子	ラグビー	菊池 崇
		個人	32	男子	ソフトテニス	秋田 浩介
		個人	33	男子	陸上競技	菊地 敬太
14	黒沢尻工業高等学校	個人	34	男子	ボクシング	辰柳 祐司
		個人	35	男子	弓道	日向 大志
		個人	36	男子	ボート	五十嵐 誠
15	水沢高等学校	個人	37	男子	ウエイトリフティング	吉田 新一
16	水沢工業高等学校	個人	38	男子	ボクシング	佐々木 貴弘
17	水沢農業高等学校	個人	39	男子	馬術	(千葉 忠)
		個人	40	女子		
18	岩谷堂高等学校	個人	41	男子	ウエイトリフティング	齊藤 雄司
19	一関第二高等学校	個人	42	男子	フェンシング	田村 明
		個人	43	女子	フェンシング	峯井 直子
20	一関工業高等学校	個人	44	男子	弓道	加藤 正
21	釜石商工高等学校	個人	45	女子	なぎなた	太田 友美
22	宮古高等学校	個人	46	男子	ヨット	(駒井 博)
		個人	47	女子		
23	宮古商工高等学校	個人	48	男子	レスリング	上野 堅太郎
		個人	49	男子	ヨット	(越田 幸樹)
		個人	50	女子		
24	山田高等学校	個人	51	男子	ボート	鎌野 貴広
25	久慈工業高等学校	個人	52	男子	ウエイトリフティング	芦渡 翔
26	種市高等学校	個人	53	男子	レスリング	大向 光
27	大野高等学校	個人	54	女子	卓球	坂本 貴大
28	福岡高等学校	個人	55	男子	弓道	大地 友紀
29	一戸高等学校	個人	56	女子	なぎなた	細川 都也子

\*指導者欄の( )は外部指導者

(H18年度：14校16競技種目21部)  
 (H19年度：17校20競技種目26部)  
 (H20年度：19校20競技種目29部)  
 (H21年度：20校21競技種目33部)  
 (H22年度：20校21競技種目36部)  
 (H23年度：20校21競技種目36部)  
 (H24年度：21校21競技種目39部)  
 (H25年度：23校22競技種目42部)

(H26年度：25校22競技種目46部)  
 (H27年度：28校24競技種目51部)  
 (H28年度：29校24競技種目53部)  
 (H29年度：30校24競技種目57部)  
 (H30年度：31校24競技種目55部)  
 (R元年度：30校23競技種目55部)  
 (R2年度：30校23競技種目57部)  
 (R3年度：29校22競技種目56部)

令和3年度岩手県高等学校体育連盟「強化拠点校」学校別一覧 R3. 7. 12現在

No.	学校名	特別強化指定校			高体連強化拠点校			指定期限
		No.	男女別	競技種目名	No.	男女別	競技種目名	
1	盛岡第一高等学校	1	女子	陸上競技	—			
		2	女子	登山				
2	盛岡第二高等学校	—			1	女子	体操競技	令和3年
		—			2	女子	なぎなた	令和3年
3	盛岡第三高等学校	—			3	女子	新体操	令和3年
		—			4	女子	ボート	令和3年
4	盛岡第四高等学校	3	男子	陸上競技	5	男子	テニス	令和3年
		—			6	女子		
5	盛岡南高等学校	4	男子	陸上競技	7	男子	バスケットボール	令和3年
		5	男子	スキー	8	男子	競泳	令和3年
		6	女子					
		7	男子	登山	10	男子	バレーボール	令和3年
		8	男子	ボクシング	11	男子	テニス	令和3年
		—			12	女子	体操競技	令和3年
		—			13	男子		
		—			14	女子	柔道	令和3年
—			15	男子	剣道	令和3年		
—			16	女子				
—			17	女子	登山	令和3年		
6	不来方高等学校	9	男子	ハンドボール	18	男子	バレーボール	令和3年
		10	女子					
		11	男子	カヌー	19	女子	空手	令和3年
		12	女子					
		13	男子	ホッケー	—			
		14	女子					
15	女子	弓道						
7	盛岡農業高等学校	16	女子	スケート	20	男子	相撲	令和3年
		—			21	男子	自転車競技	令和3年
		—			22	男子	スケート	令和3年
8	盛岡工業高等学校	17	男子	ウェイトリフティング	23	男子	ラグビー	令和3年
		18	男子	レスリング	24	男子	ソフトテニス	令和3年
		19	男子	スケート	25	男子	アーチェリー	令和3年
		20	女子		—			
9	盛岡商業高等学校	—			26	男子	サッカー	令和3年
10	盛岡市立高等学校	21	男子	新体操	27	男子	卓球	令和3年
		22	男子	陸上競技	28	女子	バレーボール	令和3年
		—			29	女子	バドミントン	令和3年
		—			30	男子	バスケットボール	令和3年
11	盛岡中央高等学校	—			31	男子	柔道	令和3年
		—			32	女子		
		—			33	男子	スキー	令和3年
		—			34	女子	スケート (フィギュア)	令和3年
12	盛岡大学附属高等学校	—			35	男子	柔道	令和3年
13	岩手高等学校	—			36	男子	ソフトテニス	令和3年
		—			37	男子	登山	令和3年
		—			38	男子	テニス	令和3年
14	盛岡白百合学園高等学校	—			39	女子	バスケットボール	令和3年
		—			40	女子	テニス	令和3年
		—			41	女子	アーチェリー	令和3年
15	盛岡誠桜高等学校	—			42	女子	陸上競技	令和3年
		—			43	女子	バレーボール	令和3年
16	江南義塾盛岡高等学校	—			44	男子	ボクシング	令和3年
17	沼宮内高等学校	23	男子	ホッケー	—			
		24	女子					

18	平舘高等学校	25	男子	相撲	45	女子	スキー	令和3年
		26	男子	スキー			—	
19	雫石高等学校			—	46	男子	ボート	令和3年
20	紫波総合高等学校	27	男子	自転車競技			—	
		28	女子					
21	花巻北高等学校	29	男子	陸上競技	47	男子	ハンドボール	令和3年
				—	48	女子	弓道	令和3年
22	花巻南高等学校			—	49	女子	体操競技	令和3年
					50	女子	ソフトテニス	令和3年
					51	女子	ハンドボール	令和3年
23	花巻農業高等学校	30	男子	ボクシング			—	
24	花北青雲高等学校			—	52	女子	バドミントン	令和3年
					53	男子		
25	花巻東高等学校			—	54	男子	競泳	令和3年
					55	女子	ソフトボール	令和3年
26	大迫高等学校			—	56	男子	自転車競技	令和3年
27	黒沢尻北高等学校	31	男子	ラグビー	57	女子	ソフトテニス	令和3年
		32	男子	ソフトテニス			—	
		33	男子	陸上競技				
28	北上翔南高等学校			—	58	女子	新体操	令和3年
					59	男子	フェンシング	令和3年
					60	女子		
					61	女子	陸上競技	令和3年
29	黒沢尻工業高等学校	34	男子	ボクシング	62	男子	水球	令和3年
		35	男子	弓道	63	男子	ラグビー	令和3年
		36	男子	ボート			—	
30	西和賀高等学校			—	64	女子	ボート	令和3年
31	専修大学北上高等学校			—	65	男子	体操競技	令和3年
					66	男子	卓球	令和3年
32	水沢高等学校	37	男子	ウェイトリフティング			—	
33	水沢工業高等学校	38	男子	ボクシング			—	
34	水沢農業高等学校	39	男子	馬術	67	男子	自転車競技	令和3年
		40	女子				—	
35	前沢高等学校				68	男子	バドミントン	令和3年
36	岩谷堂高等学校	41	男子	ウェイトリフティング			—	
37	一関第二高等学校	42	男子	フェンシング	69	女子	ソフトボール	令和3年
		43	女子				—	
38	一関工業高等学校	44	男子	弓道			—	
39	一関学院高等学校			—	70	男子	陸上競技	令和3年
					71	女子	バスケットボール	令和3年
40	一関修紅高等学校			—	72	男子	バレーボール	令和3年
41	千厩高等学校			—	73	女子	ソフトボール	令和3年
42	釜石高等学校			—	74	男子	空手道	令和3年
					75	女子		
43	釜石商工高等学校	45	女子	なぎなた	76	男子	空手道	令和3年
44	遠野高等学校			—	77	男子	サッカー	令和3年
45	高田高等学校			—	78	女子	バレーボール	令和3年
					79	女子	ソフトテニス	令和3年
46	宮古高等学校	46	男子	ヨット	80	男子	ラグビー	令和3年
		47	女子			81	女子	ボート
47	宮古商工高等学校	48	男子	レスリング			—	
		49	男子	ヨット				
		50	女子					
48	山田高等学校	51	男子	ボート			—	
49	久慈工業高等学校	52	男子	ウェイトリフティング			—	
50	種市高等学校	53	男子	レスリング			—	
51	大野高等学校	54	女子	卓球			—	
52	福岡高等学校	55	男子	弓道			—	
53	福岡工業高等学校			—	82	男子	弓道	令和3年
54	一戸高等学校	56	女子	なぎなた			—	

岩手県における部活動の在り方に関する方針  
(改定版)

令和元年8月

岩手県教育委員会



# 目 次

岩手県における方針策定の趣旨等	・ ・ ・	1
1 適切な運営のための体制整備	・ ・ ・	2
(1) 部活動の方針の策定等		
(2) 指導・運営に係る体制の構築		
2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組	・ ・	5
(1) 運動部活動における適切な指導の実施		
(2) 文化部活動における適切な指導の実施		
3 適切な休養日等の設定	・ ・ ・	7
(1) 部活動休養日及び活動時間の基準		
4 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・芸術文化に親しむ環境 の整備	・ ・ ・	9
(1) 生徒のニーズを踏まえた部の設置		
(2) 運動部活動における地域との連携等		
(3) 文化部活動における地域との連携等		
5 学校単位で参加する大会等の見直し	・ ・ ・	11
6 部活動中の熱中症事故の防止等	・ ・ ・	11

## 岩手県における方針策定の趣旨等

- 本方針は、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年3月 スポーツ庁。以下「運動部ガイドライン」という。）及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年12月 文化庁。以下「文化部ガイドライン」という。）に則り、中学校（義務教育学校後期課程及び特別支援学校中学部を含む。以下同じ。）段階及び高等学校（特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）段階における運動部及び文化部を対象として、「岩手県教職員 働き方改革プラン」策定と併せ、本県の実情を踏まえ策定するものである。
- スポーツ・芸術文化等の分野においては、平成28年度の希望郷いわて国体・大会のレガシーを継承し、生涯にわたるスポーツ・芸術文化等に親しむ基盤づくりなどに努めていくことが求められている。
- しかしながら、本県においても、生徒数の減少等により、学校単位での部活動運営が困難な状況が生じたり、学校外のスポーツ活動や芸術文化等の活動に取り組む生徒が見られたりするようになっている。
- また、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるような配慮や、教職員の勤務負担軽減に向けた取組が一層求められている。
- 部活動は、学校教育の一環として教育課程との関連を図り、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、スポーツや芸術文化等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものである。異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒や教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、生徒の多様な学びの場として、また、部活動の様子を観察を通じた生徒の状況理解等、その教育的意義は高い。
- 本県においては、生徒の多様な学びの場である部活動の教育的意義を認識しつつ、今後においても持続可能な部活動とするため、本方針をもって、学校、保護者、地域、関係機関及び関係団体等が一体となって、望ましい部活動の実現に向けて取り組むものである。
- なお、特に次の点を踏まえ、適切な部活動体制を推進していくものである。
  - ・ 部活動は、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、参加を義務付けたり、活動を強制したりしないよう、留意すること。

- ・ 大会で勝つことやコンクール等の上位入賞のみを重視し過重な練習を強いることがないよう、生徒の健康面やスポーツ医・科学の観点を踏まえた指導を行うとともに、体罰や生徒の人格を傷付ける言動等の根絶を図ること。
- ・ 過度の練習が生徒の心身に負担を与え、部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解すること。

○ また、県教育委員会は、本方針に基づく学校の設置者及び各学校の取組について、定期的に状況を把握し、関係者の協力を得ながら、課題解決に向けて継続的な取組を行う。

## 1 適切な運営のための体制整備

### (1) 部活動の方針の策定等

ア 岩手県教育委員会は、運動部ガイドライン及び文化部ガイドラインに則り、「岩手県における部活動の在り方に関する方針」（以下「県の方針」という。）を策定する。

県の方針は、中学校段階及び高等学校段階における運動部及び文化部を対象として、本県の実情を踏まえて策定するものとする。

イ 市町村教育委員会や学校法人等の学校の設置者は、運動部ガイドライン及び文化部ガイドラインに則り、県の方針を参考に「設置する学校に係る部活動の方針」（以下「設置者の方針」という。）を策定する。

ウ 校長（義務教育学校における学園長を含む。以下同じ。）は、設置者の方針に則り、毎年度、「学校の部活動に係る活動方針」を策定及び公表する。

各部の責任者（以下「部顧問」という。）は、年間の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会日程等）並びに毎月の活動計画及び活動実績（活動日時・場所、休養日及び大会参加日等）を作成し、校長に提出するとともに、当該部の生徒・保護者に情報提供する。

なお、練習時間を補完する等の目的で、部活動に引き続き同じメンバーにより行われる活動（父母会・スポーツ少年団等）（以下「部活動を補完する活動」という。）については、生徒の生活リズムや健康面の配慮から、設置者の方針を踏まえた活動となるよう、校長及び部顧問は主催者と連携を図る。

エ 学校の設置者は、上記「ウ」に関し、各学校において部活動の活動方針・計画の策定等が効率的に行えるよう、県教育委員会が示す様式例を参考にするな

ど、簡素で活用しやすい様式の作成等を行う。

## (2) 指導・運営に係る体制の構築

ア 校長は、生徒や教職員の数、部活動指導員<sup>注1</sup>の配置状況を踏まえ、指導内容の充実、生徒の健康や安全の確保、教職員の勤務負担軽減の観点から、複数顧問の配置や臨時特設部の在り方等について検討し、適正な数の部を設置する。

なお、設置に当たっては、今後の生徒数の推移等を踏まえ、生徒、保護者や地域の関係者等との合意形成を図りながら、将来を見据えた取組を推進する。

イ 学校の設置者は、各学校の生徒や教職員の数、部活動指導員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置する。

なお、部活動指導員の任用・配置に当たっては、学校教育について理解し、適切な指導を行うために、部活動の位置付け、教育的意義、生徒の発達段階に応じた科学的な指導、安全の確保や事故発生後の対応を適切に行うこと、生徒の人格を傷つける言動や体罰はいかなる場合も許されないこと、服務（校長の監督を受けること、生徒・保護者等の信頼を損ねるような行為の禁止等）を遵守すること等に関し、任用前及び任用後の定期において研修を行う。

ウ 校長は、部活動顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教職員の他の校務分掌や、部活動指導員の配置状況を勘案した上で行うなど、適切な校務分掌となるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導、運営及び管理に係る体制の構築を図る。

エ 校長は、毎月の活動計画及び活動実績の確認等により、各部及び部活動を補完する活動等の活動内容を把握し、生徒が健康で安全にスポーツや芸術文化等の活動を行い、教職員の負担が過度とならないよう持続可能な運営体制が整えられているか等について、適宜、指導及び是正を行う。

オ 校長は、部活動の指導方針（ねらい・指導体制・休養日や活動時間の設定等）について、教職員、部活動指導員、保護者、外部指導者等が共通理解を図る機会（部活動連絡会等）を設定する。

カ 県教育委員会及び学校の設置者は、部顧問を対象とするスポーツ指導等に係る知識及び実技の質の向上並びに学校の管理職を対象とする部活動の適切な運営に係る実効性の確保を図るための研修等の取組を行う。

キ 県教育委員会、学校の設置者及び校長は、教職員の部活動への関与について、

「学校における働き方改革に関する緊急対策（平成 29 年 12 月 26 日 文部科学大臣決定）」及び「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（平成 30 年 2 月 9 日付け 29 文科初第 1437 号）」<sup>注2</sup>を踏まえ、法令に則り、業務改善及び勤務時間管理等を行う。

---

注 1 部活動指導員

- ・ 学校教育法施行規則第 78 条の 2 に基づき、「中学校及び高等学校におけるスポーツ、文化、科学等に関する教育活動（学校の教育課程として行われるものを除く。）に係る技術的な指導に従事する」学校の職員。（部活動指導に協力する「外部指導者等」とは異なる。）
- ・ 学校の教育計画に基づき、校長の監督を受け、部活動の実技指導、大会・練習試合の引率等を行い、校長は、部活動指導員に部活動の顧問を命ずることができる。
- ・ 学校教育について理解し、適切な指導を行うために、任用前及び任用後の定期において研修を受ける。

注 2 当該通知において、「部活動や放課後から夜間などにおける見回り等、「超勤 4 項目」以外の業務については、校長は、時間外勤務を命ずることはできないことを踏まえ、早朝や夜間等、通常の勤務時間以外の時間帯にこうした業務を命ずる場合、服務監督権者は、正規の勤務時間の割り振りを適正に行うなどの措置を講ずるよう徹底すること。」等について示されている。

## 2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

### (1) 運動部活動における適切な指導の実施

ア 校長及び運動部顧問は、運動部活動の実施に当たっては、文部科学省が平成 25 年 5 月に作成した「運動部活動での指導のガイドライン」に則り、生徒の心身の健康管理（スポーツ障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む。）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。県教育委員会及び学校の設置者は、学校におけるこれらの取組が徹底されるよう、学校保健安全法等も踏まえ、適宜、支援及び指導・是正を行う。

イ 運動部顧問は、スポーツ医・科学の見地から、トレーニング効果を得るために休養を適切に取ることが必要であること、また、過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解し、競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を工夫して行う。

また、運動部顧問は、生徒とコミュニケーションを十分に図りながら、生徒が体力を向上させ生涯を通じてスポーツに親しむ基礎を培うとともに、バーンアウトすることなく技能や記録の向上等それぞれの目標を達成できるよう、スポーツ医・科学の見地を踏まえ適切な指導を行う。

その際、専門的知見を有する保健体育担当教員や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や女子の成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行う。

ウ 県教育委員会及び学校の設置者は、各学校において、上記「ア」及び「イ」に基づく指導を行うことができるようにするために、中央競技団体等が作成する指導手引の活用推進及び指導資料の作成等、必要な支援を行う。

### (2) 文化部活動における適切な指導の実施

ア 校長及び文化部顧問は、文化部活動の実施に当たっては、文化庁が平成 30 年 12 月に作成した文化部ガイドラインに則り、生徒の心身の健康管理（障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む。）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。県教育委員会及び学校の設置者は、学校におけるこれらの取組が徹底されるよう、適宜、支援及び指導・是正を行う。

イ 文化部顧問は、生徒のバランスのとれた健全な成長の確保の観点から休養を適切に取ることが必要であること等を正しく理解するとともに、生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会等での好成績、地域の行事や催し等への参加などそれぞれの目標を達成できるよう、分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的な練習・活動等の積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

また、専門的知見を有する保健体育担当の教師や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行う。

### 3 適切な休養日等の設定

#### (1) 部活動休養日及び活動時間の基準

ア 部活動における休養日及び活動時間については、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるようにすること。

運動部においては、スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究<sup>注3</sup>も踏まえ、次のとおりできるだけ短時間で、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。

文化部においても、望ましい生活リズムや多様な活動を行うことができるよう、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。

#### 岩手県の部活動休養日及び活動時間の基準

##### 【中学校】

- 週当たり2日以上（平日1日以上、週末1日以上）の休養日を設ける。
- 1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日は3時間程度とする。

##### 【高等学校】

- 週1日以上 of 休養日を徹底しながら、年間平均で週当たり2以上の休養日の設定に努める。
- 1日の活動時間は、学校の特色及び種目等を考慮し、各学校において適切に設定する。

- ・ 部活動を補完する活動（父母会・スポーツ少年団等）が行われる場合は、部活動と合わせて基準（休養日・活動時間）を超えない活動とする。
- ・ 長期休業中は、学期中に準じた扱いとする。
- ・ 生徒が多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設ける。
- ・ 部活動休養日に大会参加等で活動した場合は、他の日に振り替える。
- ・ 学校の休業日に大会参加等で、基準とする活動時間を上回った場合は、他の日の活動時間を調整する。

イ 学校の設置者は、「1（1）」に掲げる「設置者の方針」の策定に当たっては、運動部ガイドライン及び文化部ガイドラインにおいて設定された「部活動における休養日及び活動時間」の基準を踏まえるとともに、県の方針の基準を参考に、休養日及び活動時間等を設定し、明記する。また、下記「ウ」に関し、

適宜、支援及び指導・是正を行う。

ウ 校長は、「1（1）」に掲げる「学校の部活動に係る活動方針」の策定に当たっては、運動部ガイドライン及び文化部ガイドラインにおいて設定された「部活動における休養日及び活動時間」の基準を踏まえるとともに、「設置者の方針」に則り、部活動休養日及び活動時間等を設定し、公表する。また、各部の活動内容を把握し、適宜、指導・是正を行う等、その運用を徹底する。

エ また、学校の設置者や学校において、定期試験前後の一定期間（例えば、一週間）等、各部共通、学校全体、市町村共通の部活動休養日を設けることや、週間、月間、年間単位での活動頻度・時間の目安、参加する大会数の上限の目安等、地域や学校の実態を踏まえた設定について検討を行う。

---

注3 「スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間について」（平成29年12月18日 公益財団法人日本体育協会）から抜粋

- ・ ジュニアアスリートの育成に関して、保護者やコーチ等の関係者は、適切な栄養、十分な睡眠、学業、心身の健康と社会活動への参加等を含めた、バランスの良いライフサイクルで過ごすことができるようにすること、練習量を制限し、楽しく満足して活動ができるようにすること等を提言している。（国際オリンピック委員会「エリートジュニアアスリートに対する声明」2008年）
- ・ ジュニアアスリートの心身の回復という観点からは、少なくとも週に1、2日はスポーツ活動を全く行わない休養日を設けること等を提言している。（米国小児学会「ジュニアアスリートにおけるスポーツ障害、オーバートレーニングとバーンアウトについて」2007年）
- ・ 16時間／週以上のトレーニングを行うと、医療ケアを必要とするスポーツ障害のリスクが高まることに留意すべきであること等を提言している。（アメリカ臨床スポーツ医学会「ジュニア期のスポーツ障害とバーンアウトに関する声明」2014年）
- ・ 16時間／週以上のスポーツ活動をしている女子は、16時間／週未満の女子に比べて疲労骨折の罹患率が約2倍であった。（Loud KJ, et al 「Correlates of Stress Fractures Among Preadolescent and Adolescent」2005年）

## 4 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・芸術文化に親しむ環境の整備

### (1) 生徒のニーズを踏まえた部の設置

ア 校長は、運動・スポーツの苦手な生徒や障がいのある生徒等でも、友達と楽しめたり、適度な頻度で行えたりする運動部の設置や、芸術文化等に親しめたり、友人とのコミュニケーションや自己肯定感を高める居場所としての文化部の設置等、多様なニーズを踏まえ、生涯にわたるスポーツ・芸術文化等に親しむ基盤づくりに向けた取組を推進する。

イ 学校の設置者及び校長は、学校外のスポーツ活動や芸術文化等の活動に取り組む生徒に配慮した取組を推進する。

ウ 県教育委員会及び学校の設置者は、生徒数減少等の地域の実情を踏まえ、単一の学校では特定の競技の運動部を設けることができない場合には、生徒のスポーツ活動の機会が損なわれることがないように、複数校の生徒が拠点校の運動部活動に参加する等、合同部活動等の取組を推進する。

また、文化部活動についても、生徒の活動の機会が損なわれることがないように、複数校の生徒が拠点校の文化部活動に参加する等、合同部活動等の取組を推進する。

なお、複数校合同チーム及び団体の参加資格等の見直しが行われるよう、必要に応じて、関係団体等との連携を図る。

### (2) 運動部活動における地域との連携等

ア 県教育委員会、学校の設置者及び校長は、生徒のスポーツ環境の充実の観点から、学校や地域の実態に応じて、地域のスポーツ団体、総合型地域スポーツクラブ及びスポーツ少年団等との連携、保護者の理解と協力等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を推進する。

イ 県教育委員会及び学校の設置者は、部活動指導員の任用・配置や、運動部顧問等に対する研修等、スポーツ指導者の質の向上に関する取組について、関係機関及び関係団体等との協力体制の充実に努める。

ウ 県教育委員会、学校の設置者及び校長は、学校と地域・保護者が共に子供の健全な成長のための教育、スポーツ環境の充実を支援するパートナーという考え方の下で、地域と連携した取組を推進することについて、関係者や保護者の

理解と協力を促す。

### (3) 文化部活動における地域との連携等

ア 県教育委員会、学校の設置者及び校長は、家庭の経済状況にかかわらず、生徒が芸術文化等の活動に親しむ機会を充実する観点から、学校や地域の実態に応じて、地域の人々の協力や体育館や公民館、美術館・博物館などの社会教育施設、劇場、音楽堂等の文化施設の活用や芸術文化関係団体・社会教育関係団体等の各種団体との連携、保護者の理解と協力、民間事業者の活用等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域における持続可能な芸術文化等の活動のための環境整備を進める。

イ 各分野の関係団体等は、県教育委員会もしくは学校の設置者等と連携し、学校と地域が協働・融合した形での芸術文化等の活動を推進するとともに、県教育委員会や学校の設置者等が実施する部活動指導員の任用・配置や、文化部活動の指導者等に対する研修等、芸術文化等の活動の指導者の質の向上に関する取組に協力する。

ウ 県教育委員会、学校の設置者及び校長は、学校と地域・保護者が共に子供の健全な成長のための教育、芸術文化等の活動に親しむ機会の充実を支援するパートナーという考え方の下で、こうした取組を推進することについて、保護者の理解と協力を促す。

## 5 学校単位で参加する大会等の見直し

ア 県教育委員会や学校の設置者は、合同部活動等に係る参加規程や大会等の規模及び日程の在り方等について、関係団体と連携を図りながら検討し、本県の実情や生徒や部顧問の負担等を踏まえた取組を推進する。

イ 校長は、生徒の教育上の意義や、生徒や部顧問の負担が過度とならないことを考慮して、参加する大会等を精査する。

## 6 部活動中の熱中症事故の防止等

ア 校長及び部顧問は、部活動の実施に当たっては、生徒の健康状態の把握に努めるとともに気象情報等に留意し、適切に対応すること。

イ 大会や行事等の主催者は、高温や多湿時において大会の延期や見直し等、柔軟な対応を行うこと。なお、広域的な大会等で止むを得ない事情により開催する場合には、参加生徒の適切な選別、こまめな水分・塩分の補給や休憩の取得、観戦者の軽装や着帽等、生徒の健康管理を徹底すること。熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、早期の水分・塩分の補給や体温の冷却、病院への搬送等、適切な対応を徹底すること。

「岩手県における部活動の在り方に関する方針」策定会議 構成員

団体・所属名	職	氏 名
岩手県中学校長会	常任理事	佐 藤 亥 壱
岩手県高等学校長協会	副会長	菅 原 尚 志
岩手県特別支援学校連絡協議会	盛岡聴覚支援学校長	石 川 敬
一般社団法人岩手県私学協会	副会長	鷹 觜 文 昭
盛岡市教育委員会事務局	参事兼学校教育課長	小山田 秀 次
一般社団法人岩手県P T A連合会	会長	田 口 昭 隆
岩手県高等学校P T A連合会	会長	渡 辺 正 和
岩手県教職員組合	書記次長	佐 藤 工
岩手県高等学校教職員組合	副委員長	村 上 智加子
岩手県中学校体育連盟	会長	大 林 裕 明
岩手県中学校文化連盟	会長	小野寺 昭 彦
岩手県高等学校体育連盟	理事長	菊 池 勝 彦
岩手県高等学校文化連盟	理事長	路 奥 英 範
岩手県高等学校野球連盟	理事長	佐々木 明 志
公益財団法人岩手県体育協会	副会長兼理事長	平 藤 淳
国立大学法人岩手大学教育学部	学部長補佐	鎌 田 安 久
岩手県総務部法務学事課	総括課長	松 本 淳
岩手県文化スポーツ部文化振興課	総括課長	中 里 裕 美
岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課	総括課長	工 藤 啓一郎
岩手県教育委員会事務局教職員課	総括課長	永 井 榮 一
岩手県教育委員会事務局学校調整課	総括課長	佐 藤 有
岩手県教育委員会事務局学校教育課	総括課長	小久保 智 史
岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課	総括課長	佐 藤 公 一
岩手県教育委員会事務局保健体育課	総括課長	荒木田 光 孝

「岩手県における部活動の在り方に関する方針」検討会議 構成員

団体・所属名	職	氏名
岩手県中学校長会	常任理事	菊池正樹
岩手県高等学校長協会	副会長	菅原尚志
岩手県特別支援学校連絡協議会	盛岡聴覚支援学校長	石川敬
一般社団法人岩手県私学協会	副会長	鷹觜文昭
盛岡市教育委員会事務局	参事兼学校教育課長	小山田秀次
一般社団法人岩手県PTA連合会	副会長	齋藤映香
岩手県高等学校PTA連合会	会長	渡辺正和
岩手県教職員組合	書記次長	佐藤工
岩手県高等学校教職員組合	副執行委員長	村上智加子
岩手県中学校体育連盟	会長	大林裕明
岩手県中学校文化連盟	会長	小野寺昭彦
岩手県高等学校体育連盟	理事長	菊池勝彦
岩手県高等学校文化連盟	理事長	路奥英範
岩手県高等学校野球連盟	理事長	大原茂樹
公益財団法人岩手県体育協会	副会長兼理事長	平藤淳
国立大学法人岩手大学教育学部	学部長補佐	鎌田安久
一般社団法人岩手県芸術文化協会	会長	柴田和子
岩手県地域政策部学事振興課	総括課長	工藤直樹
岩手県文化スポーツ部文化振興課	総括課長	高橋久代
岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課	総括課長	藤田芳男
岩手県教育委員会事務局教職員課	総括課長	山村勉
岩手県教育委員会事務局学校調整課	総括課長	木村克則
岩手県教育委員会事務局学校教育課	総括課長	小久保智史
岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課	総括課長	佐藤公一
岩手県教育委員会事務局保健体育課	総括課長	清川義彦

# 生涯にわたるスポーツ・文化芸術に親しむ基盤づくり

希望郷いわて国体・大会のレガシーを継承し、生涯にわたるスポーツ・文化芸術に親しむ基盤づくりを目指して

## 部活動 生徒の多様な学びの場

- 部活動の教育的意義を認識
- 成長期にある生徒が、運動、食事及び休養等のバランスのとれた生活を送ることができるよう配慮
- 今後の生徒数の減少等を考慮した、持続可能な部活動の在り方を検討

### 徹底

- 適切な休養日、活動時間等の設定
- スポーツ障害、外傷の予防
- 体罰、ハラスメントの根絶

### 推進

- 生徒の自主的、自発的な活動
- 合理的でかつ効率的・効果的な活動
- コミュニケーションの充実

### 配慮

学校外のスポーツ活動や文化的活動等に取り組む生徒

部活動を補完する活動  
部活動に引き続き同じメンバーにより行われる活動  
(父母会・スポーツ少年団等)

- 部活動を支援
- 効率的・効果的な指導
- 生徒の健康面に配慮した休養日や活動時間の設定

### 任用・配置

## 学校の部活動に係る活動方針

## 学校の主な取組

- 部活動の方針の策定等
  - 設置者の方針に則り、学校の方針を作成・公表
  - 休養日及び活動時間等の基準を明記
- 指導・運営に係る体制の構築
  - 地域や学校の実情に応じた適正な数の部を設置
  - 校務全体の効率的・効果的な実施及び教職員の校務分掌等を勘案し、部活動顧問を決定
  - 各部における毎月の活動計画・活動実績等により、活動内容を把握し、教職員の負担が過度とならないよう指導及び是正
  - 部活動の活動方針等について、教職員、部活動指導員、保護者、外部指導者等が共通理解を図る機会を設定
  - 部活動を補完する活動（父母会・スポーツ少年団等）が行われる場合は、活動状況の把握及び主催者との連携
- 適切な指導の実施
  - 発達個人差、女子の成長期の状況等、スポーツ医・科学の見地を取り入れたトレーニングの導入、適切な休養日及び活動時間の設定
- 生徒のニーズを踏まえた環境の整備
  - 学校外のスポーツ活動や文化的活動等に取り組む生徒に配慮した対応を検討
  - 学校の実情を踏まえ、関係者との連携を図りながら、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を推進

## 設置する学校に係る部活動の方針

### 岩手県における部活動の在り方に関する方針 H30.6策定（R1.8改定）

- 目的・意義
  - 部活動は学校教育の一環として教育課程との関連を図り、生徒の自主的・自発的参加によりおこなわれるもの。過度の練習が生徒の心身に負担を与えることを理解すること。
- 岩手県の部活動休養日及び活動時間の基準
  - 【中学校】
    - 週当たり2日以上（平日1日以上、週末1日以上）の休養日をつける。
    - 1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日は3時間程度とする。
  - 【高等学校】
    - 週1日以上以上の休養日を徹底しながら、年間平均で週当たり2日以上以上の休養日の設定に努める。
    - 1日の活動時間は、学校の特色及び種目等を考慮し、各学校において適切に設定する。
- 部活動を補完する活動（父母会・スポーツ少年団等）が行われる場合は、部活動と合わせて基準（休養日・活動時間）を超えない活動とする。
- 長期休業中は、学期中に準じた扱いとする。
- 生徒が多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設ける。
- 部活動休養日に大会参加等で活動した場合は、他の日に振り替える。
- 学校の休業日に大会参加等で、基準とする活動時間を上回った場合は、他の日の活動時間を調整する。
- 部活動中の熱中症事故防止のために、生徒の健康管理を徹底する等適切な対応を徹底する。

## 国のガイドライン

（運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン・文化・部活動の在り方に関する総合的なガイドライン）

## 外部指導者等

協力

## 部活動指導員

学校教育法施行規則に基づき、校長の監督を受け、部活動に係る技術的な指導に従事する学校の職員。（部活動指導員に協力する外部指導者等とは異なる。）  
職務は、実技指導、大会・練習試合の引率等を行い、校長は顧問を命じることができ、学校教育について理解し、適切な指導を行うために、任用前及び任用後の定期において研修を受ける。

## 市町村教委の主な取組

- 部活動の方針の策定等
  - 国のガイドラインに則り、県の方針を参考に策定
  - 休養日及び活動時間等の基準を明記
- 指導・運営に係る体制の構築
  - 部活動指導員の積極的な任用及び学校への配置
  - 部活動指導員に対する研修機会の設定
- 生徒のニーズを踏まえた環境の整備
  - 地域の実情を踏まえた今後の部活動の在り方について検討
  - 学校と地域が協働・融合した形での環境整備を推進

## 岩手県教職員 働き方改革プラン (岩手県教育委員会)

令和元・2年度岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」  
有識者会議における審議のまとめ

# いわての中学生のスポーツ・ 文化活動のこれから

本資料ダウンロード先

[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/  
\\_page\\_/001/043/237/teigen-honbun.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/043/237/teigen-honbun.pdf)



令和3年3月

岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議



## 目 次

いわての中学生のスポーツ・文化活動のこれから	・・・	1
Ⅰ 提言の趣旨	・・・	2
Ⅱ 部活動をめぐる動向	・・・	3
Ⅲ いわての中学生のスポーツ・文化活動の課題		
1 中学校における「自主的・自発的な参加により行われる部活動」 の推進	・・・	4
2 中学生の多様なニーズに応えるための指導者及び活動場所の 確保	・・・	6
3 指導者の適切な指導の推進	・・・	8
Ⅳ 県・県教育委員会の役割・取組	・・・	10
Ⅴ 中学生の活動を支える各主体（市町村・市町村教育委員会、 学校、関係団体、指導者）に求められる役割・取組		
1 市町村・市町村教育委員会	・・・	11
2 学校	・・・	15
3 関係団体	・・・	17
4 指導者	・・・	19
Ⅵ 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革	・・・	21
Ⅶ 中学生の活動の選択肢を広げるイメージ	・・・	23

### 望ましい活動・環境の姿

- 自主的・自発的に活動し、中学生による活動の運営等、目標に向かって充実した取組を実践している。
- 学校・地域・関係団体等による環境整備や体制構築が進み、中学生が希望する活動を支えている。
- 指導者と中学生のコミュニケーションが十分に図られ、生涯を通じてスポーツ・文化活動に親しむ基礎を培うことができる。

社会では「量」から「質」へと価値の転換がなされて久しい中、現在、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」として 17 の持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の実現に向けて多くの分野で取り組みが始まっています。

日本の地域社会では、少子・高齢化が急激に進み、今まで機能してきた多くの制度が対応できなくなってきました。その一つにスポーツ・文化活動の基盤を支えてきた学校部活動があります。部活動には、教育的価値のもとに、生涯にわたってスポーツ・文化的価値をはぐくむ役割も担ってきました。しかし、社会の変化とともに、この制度を持続させていくことが困難になっています。特に、中学生の多様なニーズや教員の働き方改革など多くの課題に直面し、その解決が迫られています。

本会議では、それほど遠くない未来に向けた持続可能な中学生のスポーツ・文化活動の在り方についてここに提言としてまとめました。この提言をきっかけとして、本県中学生の活動を支える全ての関係者が連携し、「望ましい活動・環境の姿」が実現することを期待しています。

令和 3 年 3 月

岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議

浅 沼 道 成

# I 提言の趣旨

## 【経緯】

スポーツ庁及び文化庁は、部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを策定し、生徒にとって望ましい部活動の実施環境を構築するという観点に立ち、地域、学校、分野、活動目的等に応じた多様な形で最適に実施されることを目指している。その際、「知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む日本型学校教育の意義を踏まえ、豊かなスポーツライフの実現や豊かな心・創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること」と「成長期にある中学生が、生涯にわたって心身の健康を保持増進できるよう、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるようにすること」を重視する点としてあげており、中学生の多様な学びの場として部活動の教育的意義は大きい。

本県における部活動は、これまで地域の実情に合わせた形で実施されており、中学生の人格形成に大きな影響を与えている。しかし、生徒数の減少等により、学校単位での部活動運営が困難な状況にあることや、学校外のスポーツ・文化活動に取り組む中学生が見られるなど活動が多様化しており、学校の部活動だけで中学生のニーズに応えることが困難な状況にある。

## 【趣旨】

このような状況を踏まえ、「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議（以下、有識者会議という。）は、生徒の多様な学びの場である部活動の教育的意義を認識しつつ、中学生本位の有意義なスポーツ・文化活動の在り方の方向性を整理することを目的として検討を行ってきた。

有識者会議では、文部科学省の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の動きも見据えながら、「望ましい活動・環境の姿」の実現に向け、中学生のスポーツ・文化活動を支える各主体（市町村・市町村教育委員会、学校、関係団体、指導者）に求められる役割・取組を提言としてまとめたものである。

中学生の活動を支える各主体が、共に中学生の健全な成長のためのパートナーという考えに立ち、「望ましい活動・環境の姿」の実現に向けて取り組むことにより、いわての中学生それぞれの興味・関心に応じた多様な活動を保障することが期待できる。

## Ⅱ 部活動をめぐる動向

- 文部科学省は、平成 29 年 3 月に告示した学習指導要領において、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。」とし、教育課程外で行われる部活動と教育課程内の活動との関連を図る中で、その教育効果が発揮されることが重要であると示した。

- スポーツ庁は、平成 30 年 3 月に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(※1)を策定し、運動部活動の活動時間及び休養日の設定、生徒のスポーツ環境の整備等、運動部活動の在り方に関する抜本的な改革を求めている。

また、ガイドラインの中で都道府県に対し、「運動部活動の在り方に関する方針」を策定するよう求めた。

※1 [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/013\\_index/toushin/1402678.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/1402678.htm)



- 本県では、平成 30 年 6 月に運動部だけでなく、文化部も含め、「岩手県における部活動の在り方に関する方針」を策定し、活動時間及び休養日の基準を示した。また、市町村教育委員会に対し「設置する学校に係る部活動の方針」、各学校に対し「学校の部活動に係る活動方針」を策定するよう求めた。

- 文化庁は、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に定めた内容をベースに文化部活動の特性を踏まえて、平成 30 年 12 月、「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(※2)を策定し、部活動の意義やガイドラインの対象となる部活動の範囲を明記した。また、都道府県に対し、文化部も含めた方針が策定されている場合は、改めて検討し、必要に応じて改定するよう求めた。

※2 [https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/bunkakatsudo\\_guideline/h30\\_1227/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/bunkakatsudo_guideline/h30_1227/index.html)



- この動きを受け、本県では、令和元年 8 月に「岩手県における部活動の在り方に関する方針」(※3)を改定し、部活動は自主的・自発的な参加により行なわれるものであること、参加を義務付けたり、活動を強制したりしないこと、体罰・暴言等の根絶を図ることを明記した。

※3 [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/013\\_index/toushin/1402678.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/1402678.htm)



- スポーツ庁及び文化庁は、令和 3 年度から、生徒にとって望ましい部活動の環境の構築と学校の働き方改革も考慮した更なる部活動改革の推進を目指し、運動部を対象とした「地域運動部活動推進事業」と文化部を対象とした「地域部活動推進事業」を進めることとしている。具体的な方策は、休日の部活動の段階的な地域移行、合同部活動の推進、地方大会の在り方の整理である。

### Ⅲ いわての中学生のスポーツ・文化活動の課題

#### 1 中学校における「自主的・自発的な参加により行われる部活動」の推進

##### (1) 部活動における「所属」と「参加」の捉えが整理されていない

県の方針では、「部活動は、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、参加を義務付けたり、活動を強制したりしないよう、留意すること。」としている。

しかし、県内の中学校の中には、何らかの部活動に「所属」させていたり、学校外の活動に参加する場合は、学校の活動に「参加」することなく学校外の活動を優先させている現状がある。

「所属」と「参加」の捉え方が曖昧になっているため、これを整理し共通理解を図る必要がある。

##### 【資料】令和元年度各中学校における部活動の加入方法

任意加入とし、いずれの部にも所属しないことを認めている	4/157
運動部・文化部等への加入はさせるが、学校外の活動に対して配慮している	131/157
「校外活動部」「地域活動部」等を設置し、学校外の活動を認めている	16/157
運動部・文化部等へ加入させ、学校外の活動に対して特に配慮をしていない	6/157

【出典】令和元年度保健体育行政関係調査（令和2年1月 岩手県教育委員会事務局保健体育課）

##### 【資料】令和2年度各中学校における部活動の加入方法

いずれの部にも所属しないことを認めている （「校外活動部」「地域活動部」等を設置し、学校外の活動を認めている場合も含む）	60/150
運動部・文化部等への所属はさせるが、学校外の活動を優先させている	90/150
運動部・文化部等へ所属させ、学校外の活動に対して特に配慮をしていない	0/150

【出典】令和2年度保健体育行政関係調査（令和2年12月 岩手県教育委員会事務局保健体育課）

※「校外活動部」「地域活動部」等は、多くの学校で活動の実態がないことから、現状を踏まえ調査項目を変更した。

##### (2) 活動の多様化により学校の部活動だけでニーズに応えることが困難

生徒数の減少等による部活動の統廃合や学校単位での部活動運営が困難な状況にあること、学校外のスポーツ・芸術文化活動に取り組む生徒が見られるようになっていくことから、地域や学校規模によっては学校の部活動だけで中学生のニーズに応えるような活動を行うことが困難になっている。

【資料】「学校において、希望する活動ができる部活動の有無」に関する調査結果

あなたの学校では、あなたが一番取り組みたい活動（スポーツ・芸術文化活動）に取り組むことができますか。

- 1 できる
- 2 できない



□規模が小さい学校の生徒ほど、「できない」と回答する割合が高い。

□地域（内陸・沿岸）による違いは見られなかった。

【出典】「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」に向けたアンケート調査

（令和元年12月 岩手県教育委員会事務局保健体育課）

(3) 生徒が主体となって活動できる体制が整っていないこと

県の方針では、「生徒の多様なニーズを踏まえ、生涯にわたるスポーツ・芸術文化等に親しむ基盤づくりに向けた取組を推進する。」と示している。

これを実現するために、指導者からの指示を待つだけでなく、中学生自らが活動の計画を立て主体的に活動を進めるなど、それぞれの目標に向かって部活動を運営できる体制づくりが必要である。

【参考資料】「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」に向けたアンケート調査（令和元年12月 岩手県教育委員会事務局保健体育課）の回答の一部

生徒 の声	「部活動への参加を強制しないほしい」「やりがいのある部活動にしていきたい」 「部員で協力したり、楽しい活動にしたい」
教員 の声	「部活動で学ぶことは多く、大切な教育活動である」「部活動に対する意識が教員によって違う」「部活動で生徒指導や学校を立て直す時代ではない」
保護者 の声	「学校の部活動にこだわらなくてもよい」「保護者の負担が大きい」「先生が一生懸命取り組んでくれているのでありがたい」「部活動で学ぶことは多く、打ち込ませたい」

## 2 中学生の多様なニーズに応えるための指導者及び活動場所の確保

### (1) 地域の活動について周知を図る必要があること

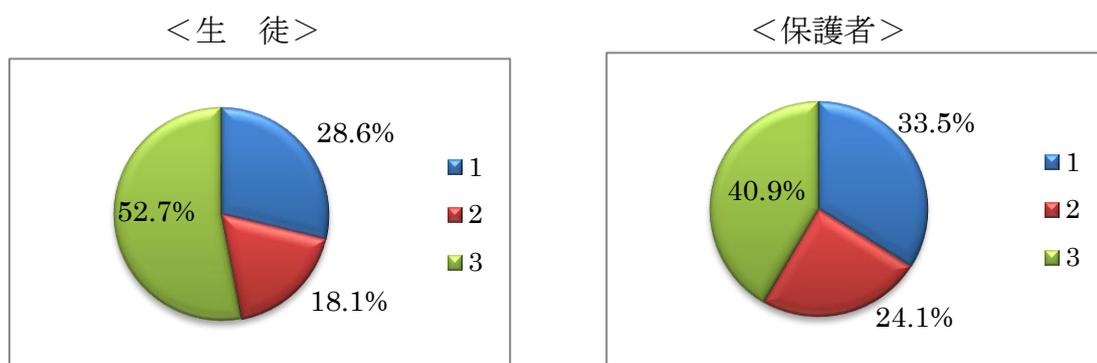
本研究に向けたアンケート調査結果によると、「地域のスポーツ・芸術文化団体があるか知らない」と回答した割合は、生徒(52.7%)、保護者(40.9%)とともに一番高い。また、大規模・中規模校と比較して、小規模校において「ない」と回答した生徒の割合(26.6%)が高い。

各種団体における中学生の受け入れ体制について確認及び周知を図る必要がある。

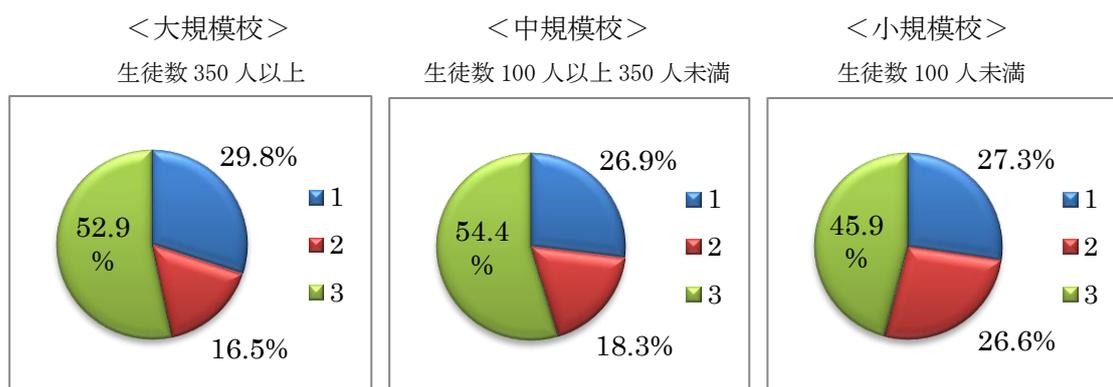
#### 【資料】「地域の活動の有無」に関する調査結果

あなたの地域には、学校の部活動以外にあなたが一番取り組みたい活動ができるスポーツ・芸術文化活動の団体がありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 知らない



□生徒・保護者ともに、「知らない」と回答した割合が最も高い。



□規模が小さい学校の生徒ほど、「ない」と回答する割合が高い。

□回答者(生徒・保護者)及び学校規模(大規模、中規模、小規模)のいずれも地域(内陸・沿岸)による違いは見られなかった。

【出典】「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」に向けたアンケート調査

(令和元年12月 岩手県教育委員会事務局保健体育課)

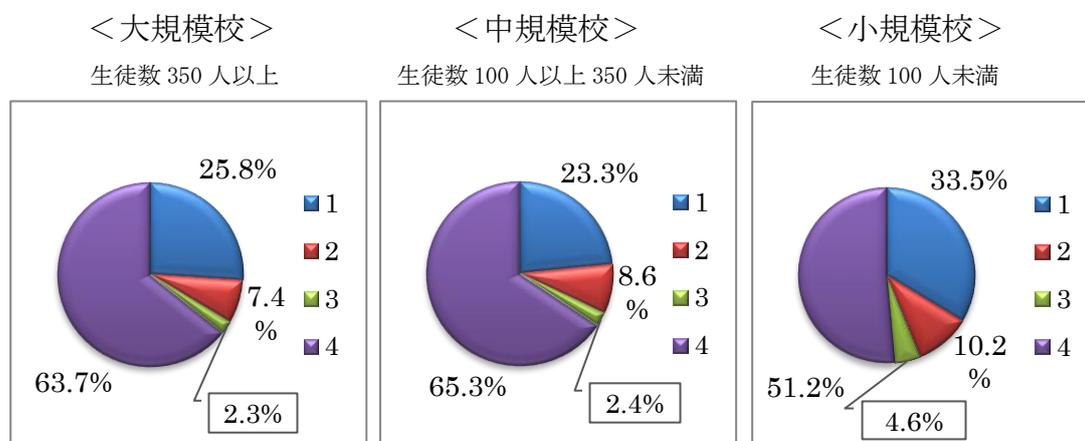
## (2) 地域単位で運営を支える体制を構築する必要があること

同じくアンケート調査結果によると、校外の活動に所属している生徒は、大規模校で約 26%、中規模校で約 23%、小規模校で約 34%であった。家庭の諸事情（立地、金銭的理由等）も踏まえると、本県中学生の活動の場は学校であることが多く、活動の場を地域社会に広げていく必要がある。

### 【資料】「校外活動の所属」に関する調査結果

あなたは、校外の活動（学習塾を除く）に参加していますか。

- 1 運動系の活動を行っている
- 2 文化系の活動を行っている
- 3 運動系・文化系両方の活動を行っている
- 4 行っていない



□規模が小さい学校の生徒ほど、校外の活動に所属している割合が高い。

□地域（内陸・沿岸）による違いは見られなかった。

【出典】「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」に向けたアンケート調査

(令和元年 12 月 岩手県教育委員会事務局保健体育課)

また、スポーツ庁は、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」において、「地域の実情を踏まえ、特に少子化の影響が大きい過疎地域においては地方自治体の判断に基づき、市町村を越えた**他校との合同部活動を推進**するとともに、都市部においては、市内の近隣校との「拠点校方式」による合同部活動を推進する事業を実施する。」と示している。

本県においても、地域の実情を踏まえた合同部活動を推進するなどの取組が求められる。

【参考資料】「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」に向けたアンケート調査（令和元年12月 岩手県教育委員会事務局保健体育課）の回答の一部

生徒 の声	「練習時間や大会参加を増やしてほしい」「専門的な指導を受けたい」 「自分がやりたい部活動がない」
教員 の声	「生徒の選択肢は多様化している」「結果よりも、活動の楽しさを味わわせたい」 「技術指導が難しく、苦しんでいる先生をサポートしてほしい」
保護者 の声	「部活動の選択肢が少なく、本当にやりたいことができない」「文化部の活動にも学校外の育成体制がほしい」「文化部が少なすぎるため、運動が苦手な子供が困っている」

### 3 指導者の適切な指導の推進

#### (1) 指導者は対話を重視した指導を実施する必要があること

指導者は、対話を重視した指導（中学生が理解できるように伝えることや中学生の声に耳を傾けること等）を心がけ、体罰や中学生の人格を傷付ける言動等の根絶を図る必要がある。

#### (2) スポーツ医・科学に基づいた指導及び合理的でかつ効率的・効果的な指導を実施する必要があること

自らの経験に頼ることなく、スポーツ医・科学に基づいたトレーニングを積極的に導入することや過度の練習が中学生の心身に負担を与えることを正しく理解することなど、合理的でかつ効率的・効果的な指導ができる指導者を育成していく必要がある。

【参考資料】「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」に向けたアンケート調査（令和元年12月 岩手県教育委員会事務局保健体育課）の回答の一部

生徒 の声	「指摘ばかりしないで指導をしてほしい」「生徒の意見を活動に反映してほしい」 「長時間の練習で、集中することができない。練習をもっと短くしてもらいたい」
保護者 の声	「技術指導ばかりでなく、個人の気持ちに寄り添う指導者の配慮がほしい」「練習時間の長さ と技術の向上は比例しない。もっとメリハリのある練習時間にしてほしい」



#### 4. 運動部活動での指導の充実のために必要と考えられる 7 つの事項

##### 運動部活動での効果的、計画的な指導に向けて

- ①顧問の教員だけに運営、指導を任せるとは、学校組織全体で運動部活動の目標、指導の在り方を考えましょう  
＜学校組織全体での運営や指導の目標、方針の作成と共有＞  
＜保護者等への目標、計画等の説明と理解＞
- ②各学校、運動部活動ごとに適切な指導体制を整えましょう  
＜外部指導者等の協力確保、連携＞  
＜外部指導者等の協力を得る場合の校内体制の整備＞
- ③活動における指導の目標や内容を明確にした計画を策定しましょう  
＜生徒のニーズや意見の把握とそれらを反映させた目標等の設定、計画の作成＞  
＜年間を通したバランスのとれた活動への配慮＞  
＜年間の活動の振り返りと次年度への反映＞

##### 実際の活動での効果的な指導に向けて

- ④適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促しましょう  
＜科学的裏付け等及び生徒への説明と理解に基づく指導の実施＞  
＜生徒が主体的に自立して取り組む力の育成＞  
＜生徒の心理面を考慮した肯定的な指導＞  
＜生徒の状況の細かい把握、適切なフォローを加えた指導＞  
＜指導者と生徒の信頼関係づくり＞  
＜上級生と下級生、生徒の間の人間関係形成、リーダー育成等の集団づくり＞  
＜事故防止、安全確保に注意した指導＞
- ⑤肉体的、精神的な負荷や厳しい指導と体罰等の許されない指導とをしっかりと区別しましょう

##### 指導力の向上に向けて

- ⑥最新の研究成果等を踏まえた科学的な指導内容、方法を積極的に取り入れましょう  
＜科学的な指導内容、方法の積極的な取り入れ＞  
＜学校内外での指導力向上のための研修、研究＞
- ⑦多様な面で指導力を発揮できるよう、継続的に資質能力の向上を図りましょう  
＜校長等の管理職の理解＞  
＜運動部活動のマネジメント力その他多様な指導力の習得＞

## IV 県・県教育委員会の役割・取組

県及び県教育委員会は、「望ましい活動・環境の姿」の実現に向けて、各主体（市町村・市町村教育委員会、学校、関係団体、指導者）と連携しながら取り組む。

### ■適切な部活動の推進【県教委】

学校が開催する部活動連絡会に指導主事を派遣するとともに、部活動顧問の資質向上を図るための研修会を実施する。

### ■「岩手県における部活動の在り方に関する方針（改定版）」の内容検討及び再改定【県教委】

本提言の内容を踏まえた検討を進め、再改定を行う。

### ■公立高校入試における推薦入試の在り方についての検討【県教委】

推薦入試の在り方も含めた入試改善に係る検討を進める。

### ■教員の兼職兼業の整理【県教委】

『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について』（令和2年9月1日）において、「地域部活動において休日の指導を希望する公立学校の教師については、兼職兼業の許可を得た上で地域部活動の運営主体の下で従事することが考えられる」とされており、国の通知を受け、従事する場合に必要な兼職兼業の許可について検討を進める。

### ■中学生の受け入れ体制の整備促進【県】

#### 競技団体・文化芸術団体の体制整備

地域部活動への移行について競技団体・文化芸術団体に周知を図り、各団体の「地域におけるスポーツ・文化活動の場」の確保等、受け入れ体制の整備を促す。

#### 総合型地域スポーツクラブの活性化

クラブアドバイザーの配置支援、指導者資格取得支援、研修会の実施等により、総合型地域スポーツクラブの質的充実を図る。

#### サポート人材の活用

いわてアスレティックトレーナーの養成等により、スポーツ医・科学の知見を有する外部人材を活用して、スポーツ活動等に取り組む中学生のサポート体制の充実を図る。

### ■地域部活動移行への取組【県・県教委】

国が示している「休日の部活動の段階的な地域移行」及び「合理的で効率的な部活動の推進」を各主体と連携しながら進める。

# V 中学生の活動を支える各主体（市町村・市町村教育委員会、学校、関係団体、指導者）に求められる役割・取組

## 1 市町村・市町村教育委員会

短期的に取り組むこと（R3年度から取り組むこと）

### (1) 「設置者の方針」の改定

「自主的・自発的な参加」を明記し、部に「所属しない」ことも認めることについて検討するとともに、改定した内容について、所管の中学校に対して周知を図りながら、学校における適切な部活動の推進に取り組む。

#### <盛岡市教育委員会の実践例>

- ・「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（スポーツ庁）及び「岩手県における部活動の在り方に関する方針」（県教委）を受けて、平成30年12月に「盛岡市における部活動の在り方に関する方針」を策定。
- ・「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（文化庁）及び「岩手県における部活動の在り方に関する方針（改定版）」（県教委）を受けて、令和元年12月に「盛岡市における部活動の在り方に関する方針」を改定。
- ・改定した盛岡市の方針では、「部活動は、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、参加を義務付けたり、活動を強制しないよう、留意すること。」と明記するとともに、「学校が生徒や保護者に対して部活動のもつ意義等を説明したり、加入を推奨したりすることを妨げるものではない」と示した。
- ・令和2年度は、盛岡市内22校中18校が、いずれの部にも所属しないことを認めている（「校外活動部」「地域活動部」等を設置し、学校外の活動を認めている場合も含む）。

### (2) 部活動指導員の積極的任用

- ア 全校に1名の配置を目指し、専門的指導者による活動の充実を図るとともに、活動時間や休養日等の適正化を図る。
- イ 専門的な指導を困難と感じている教員の負担軽減を図る。
- ウ 地域の特性や状況を踏まえた部活動指導員の活用を検討する。

#### <部活動指導員の活用例>

ケース1 「複数部活動に割り振り活用」	
目的	複数の部活動への部活動指導員配置、専門的指導の充実、教員の時間外勤務の負担軽減
事例	部活動指導員1人あたりの勤務時間数を複数の部で割り振りを行う形態で配置 ※令和元年度の例：210時間／3部＝1部あたり70時間
効果	部活動指導員1人あたりの時間数を複数の部に割り振りを行うことで、部の選定の拡充を図ることができるとともに、複数部顧問教員の時間外勤務の負担軽減及び専門的指導の充実を図ることができる。

ケース2「外部指導者を配置」	
目的	専門的指導の充実、教員の時間外勤務の負担軽減、人材確保
事例	外部指導者を部活動指導員として配置
効果	既に外部指導者として活動している者を部活動指導員として活用することで、人材確保の課題を解消することができるとともに、顧問教員の時間外勤務の負担軽減及び専門的指導の充実を図ることができる。

ケース3「非常勤講師を配置」	
目的	人材確保、教員の時間外勤務の負担軽減、専門的指導の充実
事例	非常勤講師を部活動指導員として配置 ※活用例：音楽の教科補充等の非常勤講師を吹奏楽部の部活動指導員として活用
効果	学校勤務経験者を配置することができるとともに、顧問教員の時間外勤務の負担軽減、専門的指導の充実を図ることができ、かつ、人材確保の課題を解消することができる。

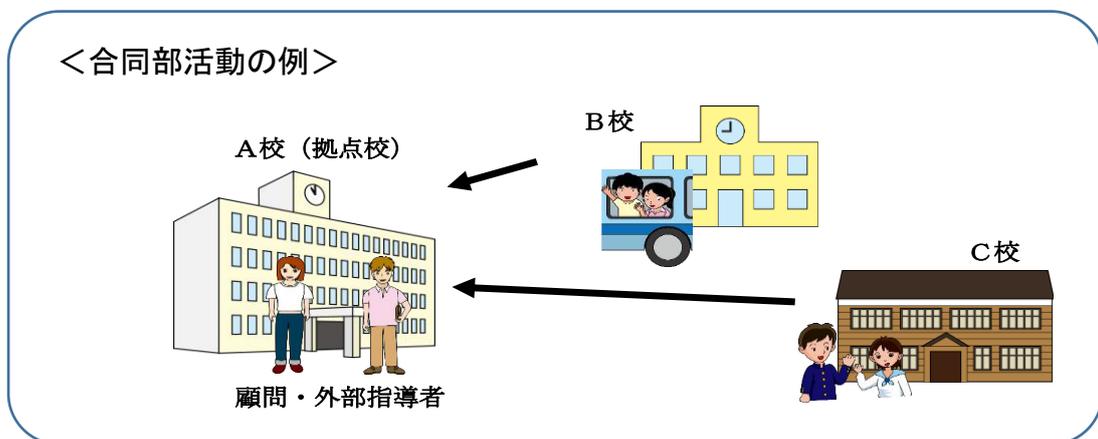
  

ケース4「スポーツ医・科学の活用」	
目的	身体的指導の充実、教員の時間外勤務の負担軽減、人材確保
事例	アスレティックトレーナーを部活動指導員として配置 ※ただし、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー有資格者、いわてアスレティックトレーナー登録者であること。
効果	アスレティックトレーナーを部活動指導員として活用することで、技術的指導以外の身体的な部分での指導が可能となり、生徒のパフォーマンスの向上を図ることができる。また、複数の部活動で活用することが可能な指導者となることから、曜日を変えて単独の部で活用する方法、複数部での合同トレーニングの日を設けたうえで活用する方法等があり、人材確保の課題を解消できるとともに、顧問教員の時間外勤務の負担軽減及び身体的指導の充実を図ることができる。

※上記例の他、各地域の特性や状況に応じて活用方法を検討。

### (3) 合同（拠点校）部活動等の検討

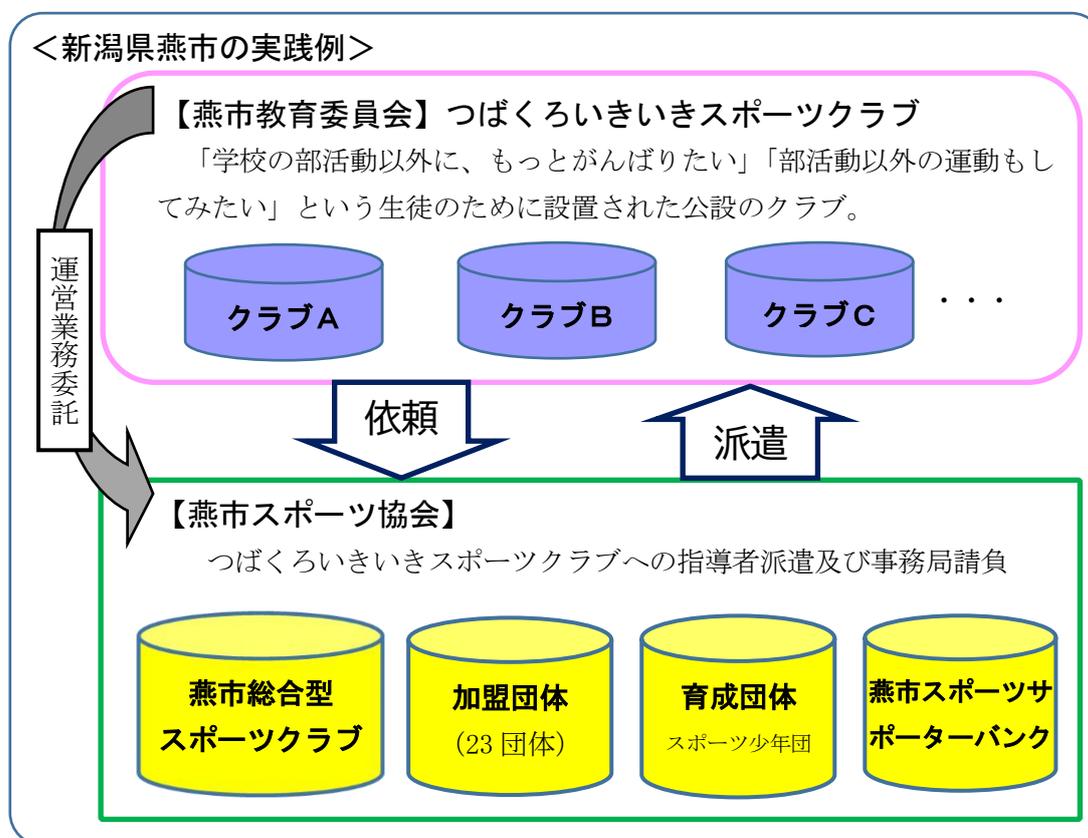
文部科学省の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」を踏まえ、域内近隣校との「拠点校方式」による合同部活動について課題等を整理し、実施に向けた検討を進める。



#### (4) 活動を希望する中学生の受け入れ体制の検討

総合型地域スポーツクラブ等を活用しながら、中学生の受け入れ体制を確保する。

また、希望する教師が休日に指導を行うことができるよう教員の兼職兼業についても検討を進める。



継続して検討しながら中長期的に取り組むこと

#### (1) 市町村（地区）単位の大会開催の検討

ア 地区の中学校体育連盟及び中学校文化連盟と連携し、域内全ての中学生に活躍の場を提供する。

##### ＜活躍の場の例＞

- ・ 出場の機会が少ない生徒による親善試合・合同発表会等の開催。
- ・ 複数の小規模校によるコンサート等の開催。

イ 主催団体の大会・コンクール等の参加基準の見直し・柔軟な運用と連動し、市町村単位（例：〇〇町チーム等）のチームが大会・コンクール等に参加する。

#### (2) 合同（拠点校）部活動等の推進

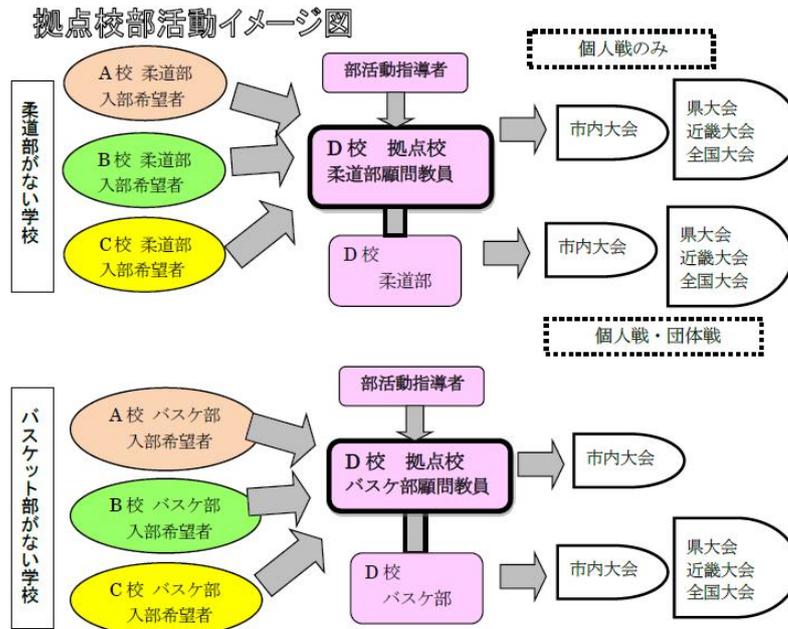
域内近隣校との「拠点校方式」による合同部活動を実施する。その際、地理的な課題に対して ICT を活用することにより、中学生が移動することなく指導を受けたり、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるよう環境整備を行う。

## <合同（拠点校）部活動等の実践例>

### □「拠点校」部活動（神戸市教育委員会） 平成14年度から実施

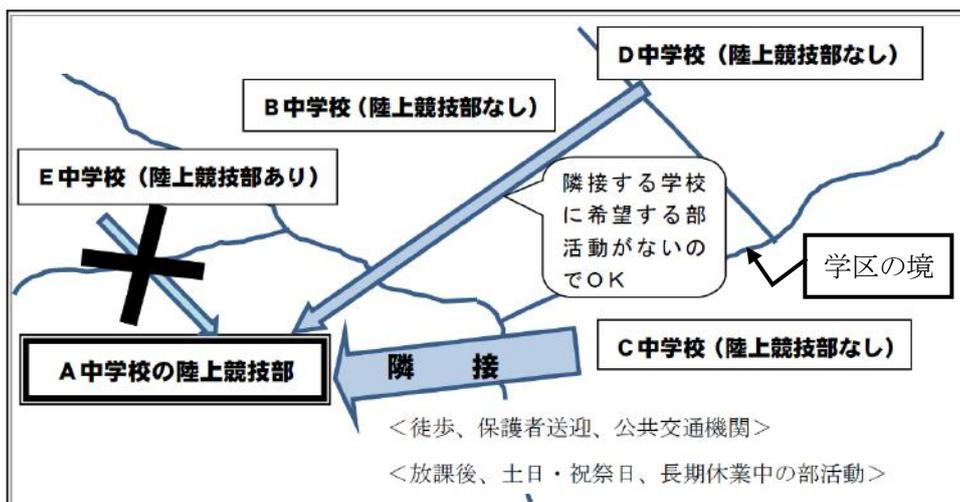
進学する中学校に希望する部活動がない場合に、市内数か所に設置された指定する学校（拠点校）の顧問教員に従い、練習に参加することができる。個人種目においては、在籍校として公式戦に出場でき、団体種目においては拠点校として市内大会のみに出場することができる。

#### 具体例



### □運動部活動「学校間連携方式」（札幌市教育委員会） 平成28年度から実施

自分の学校に希望する運動部活動がない場合に、隣接する学校の運動部活動に参加することを可能とするもの。小学校で行っていた競技を中学校の部活動においても継続したいなど、できる限り生徒が希望する種目の部活動に参加できるようにする。主に、陸上競技、卓球、柔道、剣道、体操、相撲、ソフトテニス、バドミントンなどの個人種目についての実施を考えている。



## 2 学校

### 短期的に取り組むこと（R3年度から取り組むこと）

#### (1) 自主的・自発的な部活動の推進

##### ア 学校の部活動を充実させる。

地域や学校の特性に応じた活動の方針や部活動の意義等について、生徒・教員・保護者で共通理解を図る。

##### <部活動の教育的意義>

中学校学習指導要領解説保健体育編（平成29年7月）から抜粋

第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 3 教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連

特に、学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高いことも指摘されている。

##### <充実した活動に向けた取組例>

- ・効果的・効率的な活動について、生徒間及び職員間で共有している。
- ・生徒の適性や興味・関心をより深く追求することができる活動を行っている。
- ・大会で勝つことやコンクール等の上位入賞のみを重視することなく、未経験者も安心して入部及び活動を行っている。
- ・顧問と部活動指導員や外部指導者が指導方針等を共通理解しながら活動を行っている。等

##### イ 学校の部活動に「所属しない」ことも認める。

部活動加入の推奨を否定するものではないが、「所属しない」という選択肢があることについて、生徒・教員・保護者で共通理解を図る。

##### <令和元・2年度における二戸市立金田一中学校の実践例>

- ・令和元年5月に「部活動並びに文化・スポーツ活動に係る説明会」を開催し、管理職、顧問、コーチ、保護者会代表で望ましい部活動の在り方についての考え方を共有した。この説明会では、「中学校部活動連絡会等支援事業」（県教委保健体育課）を活用し、県北教育事務所の学校体育担当指導主事が「これからの部活動並びに文化・スポーツ活動の在り方」について説明を行った。
- ・令和2年2月に改定した「二戸市立中学校の部活動運営方針」に則り、「令和2年度二戸市立金田一中学校 学校の部活動に係る活動方針」を策定し、令和2年度からいずれの部にも所属しないことを認める。
- ・部活動の加入状況

	部活動に所属	部活動に所属していない
1年生	32名	8名
2年生	42名	8名
3年生	34名	3名

- ・常時、「入部」「転部」「退部」を可能とした。  
このことにより、部活動に所属しない8名の1年生のうち、5名が年度途中で部活動へ入部した。
- ・部活動に所属しない理由として、「部活動の時は、家でピアノの練習をするので、部活動に加入しません。」や「自主学習の時間を増やしたいと思います。」等をあげている。
- ・令和2年6月にも「部活動説明会」を実施し、管理職、顧問、コーチ、保護者会代表で望ましい部活動の在り方についての考え方を共有している。

#### ウ 生徒の意見を取り入れた活動を行う。

生徒は主体的に活動に参加するとともに、指導者は生徒の声に耳を傾け、活動に反映させるなど、共に充実した活動となるよう協力する。

##### <活動例>

- ・活動計画（練習日や時間、活動内容等）の策定に生徒の意見を取り入れる。
- ・生徒が指導者の協力を得ながら活動計画を策定する。
- ・生徒自ら考えて効果的・効率的な活動計画にアップデートする。

## (2) 保護者負担の現状把握と軽減に向けた検討

各校において、「保護者による練習会場や大会等への送迎」、「部活動を補完する活動（父母会・スポーツ少年団等）における世話係等の輪番制による時間的負担」、「保護者会費やチームウェア購入に係る経済的負担」等の実態を把握し、負担を軽減できる内容について検討する。

## 継続して検討しながら中長期的に取り組むこと

### (1) 自主的・自発的な部活動の徹底

- ア 部活動数の適正化及び複数顧問の配置について検討する。
- イ 生徒主体の取組を実施する。

### (2) 地域と連携した活動の実施

- ア 域内近隣校との連携・情報共有を図る。
- イ 休日の部活動の地域移行を進める。

### 3 関係団体

関係団体とは、中学校体育連盟、中学校文化連盟、競技団体、文化芸術団体、体育・スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、音楽教室、活動する個人等を指す。

#### 短期的に取り組むこと（R3年度から取り組むこと）

##### (1) 合同チーム等の編成及び大会・コンクール等の参加基準の見直し・柔軟な運用

ア 合同チーム参加規程の見直し及び柔軟な運用について検討する。

###### <検討対象の一例>

「岩手県中学校総合体育大会・岩手県中学校新人大会における合同チーム参加規程（一部抜粋）【岩手県中学校体育連盟 令和元年5月2日改定】」

- ・参加種目は、個人種目のない以下の競技種目（9種目）に限る。  
バスケットボール（5）、サッカー（11）、ハンドボール（7）、軟式野球（9）、バレーボール（6）、ソフトボール（9）、ホッケー（6）、アイスホッケー（12）、ラグビー（12）
- ※ただし、（ ）内の人数を下回った場合のみ、合同チームを編成できる。
- ・ベンチに入る参加人員数は各種目の競技規則の通りとし、いずれかの学校の校長・教員が代表監督となる。

イ 複数校の中学生による活動実態及びコンクール等への参加状況を把握する。

##### (2) 世界や全国のトップでの活躍を目指す中学生が活動できる環境の確保

世界や全国のトップでの活躍を目指す中学生の活動に対応できるよう、裾野からトップレベルまでの一貫指導体制を検討する。

###### <取組事例①>

一般社団法人岩手県山岳・スポーツクライミング協会では、拠点の盛岡のみならず沿岸地域などにおいて、教室や体験会を実施し、裾野の拡大を図っている。

また、小学生から一般向けまでの幅広い年代において、様々な競技レベルを対象にしたスポーツクライミング教室を開催し、競技力向上を図るとともに、世界で活躍するトップアスリートを輩出している。

###### <取組事例②>

岩手県スケート連盟は、スピードスケート種目において、小学生から成年選手までの幅広い年代と、愛好者から日本代表等のトップアスリートまで様々な競技レベルの選手が、県営スケート場を拠点として活動している。

スポーツ少年団や高校部活動などの各年代における指導者の協力によって、中長期的な視点に立った一貫指導体制が構築されており、全国大会での優勝や世界大会での活躍に加え、裾野の拡大に繋がっている。

### (3) 活動を希望する中学生の受け入れ体制の検討

日常の活動や教室、イベント等に地域の中学生が参加しやすい活動環境の整備を検討する。

#### <取組事例>

- ・サッカーのクラブチームでの活動
- ・民間スイミングスクールやテニスクラブでの活動
- ・スポーツ少年団での活動
- ・総合型地域スポーツクラブでの活動
- ・地域の書道やピアノ教室等での活動
- ・地域のカルチャースクール等での活動
- ・郷土芸能の伝承活動 等

### (4) 地域における活動の情報発信

中学生及び保護者を対象に地域で行われているスポーツ・文化芸術活動に関する情報を発信する。

## 継続して検討しながら中長期的に取り組むこと

### (1) 合同チームの大会・コンクール等の参加

- ア 見直した参加規程や運用による大会等を開催する。
- イ 複数校の中学生による活動の実施及びコンクール等へ参加する。

### (2) 学校単位によらない活動の実施

主催団体の大会・コンクール等の参加基準の見直し・柔軟な運用と連動し、市町村単位（例：〇〇町チーム等）のチームが大会・コンクール等に参加する。

### (3) 世界や全国のトップでの活躍を目指す中学生が活動できる環境の拡充

トップアスリートを育成する指導者の養成、指導者の人材育成並びに練習環境の確保などにより、中学生の参加機会の充実を図る。

### (4) 活動を希望する中学生の受け入れ体制の構築

指導者の養成、活動場所の確保など、日常の活動、教室、イベント等に地域の中学生が参加しやすい活動環境を構築するとともに、中学生の心身の健全育成の観点に立った取組を推進する。

### (5) 地域における活動の情報発信

中学生及び保護者を対象に地域で行われているスポーツ・文化芸術活動に関する情報について、引き続き積極的に発信する。

## 4 指導者

指導者は、所属する団体等の活動方針を理解のうえ、それらを踏まえた指導を実践する。

- 「日本スポーツ協会及び加盟団体における倫理に関するガイドライン」
- 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（スポーツ庁）」
- 「文化庁活動の在り方に関する総合的なガイドライン（文化庁）」
- 「岩手県における部活動の在り方に関する方針（改定版）（県教委）」
- 「設置する学校に係る部活動の方針（各市町村教育委員会）」
- 「学校の部活動に係る活動方針（各学校）」 等

### 短期的に取り組むこと（R3年度から取り組むこと）

#### (1) 適切な指導の推進

ア 中学生の自主性や個性を尊重した指導を展開する。

##### <中学生の自主性、個性を尊重した指導の例>

- ・楽しさを実感させる。
- ・仲間との交流を充実させる。
- ・できる、わかる喜びを体験させる。（成就感、新しい発見）

イ 体罰・暴言等を根絶するためにコミュニケーションのスキルアップを図る。

##### <対話を重視した指導の例>

- ・自分の意見を持ちつつ、考えを押しつけない。
- ・よい姿勢、落ち着いた話し方で伝える。
- ・近言語（語調、抑揚等）、身体動作（表情、姿勢等）、空間距離（パーソナルスペース）、付属品（服装、装飾品等）などの非言語スキルも意識する。
- ・中学生との信頼関係を構築する。
- ・誤りや失敗を正すときは、「成長の材料と考え、感情的にならない」「人ではなく行動に焦点を絞る」「説明することを心がけ、明確かつ簡潔に伝える」等を意識する。
- ・マイナスのイメージを強化するネガティブ表現を避け、よりよい方向に改善を促進するポジティブ表現を心がける。

#### (2) 研修等の積極的参加

学校内、地域内、種目ごとに効果的な指導法について学び合う体制をつくり、指導者同士のスキルアップに努める。

### 継続して検討しながら中長期的に取り組むこと

#### (1) 適切な指導の実施

ア 中学生の自主性や個性を尊重した指導が定着している。

イ 指導者と中学生の信頼関係の下で活動を展開する。

#### (2) 合同（拠点校）部活動等の指導

活動に参加する中学生の意向を踏まえるとともに、学校の部活動との関連性を考慮し

ながら指導方針や活動内容を決定し、中学生のスポーツ・文化への興味関心の向上や体力・技能の向上に資する指導を行う。

また、休日の部活動における生徒の指導や大会・コンクール等の引率を地域の活動として地域人材が担うこととし、希望する教師は地域の指導者として指導を行う。

### <岩手県における部活動の在り方に関する方針（改定版）>

#### 2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

##### (1) 運動部活動における適切な指導の実施

ア 校長及び運動部顧問は、運動部活動の実施に当たっては、文部科学省が平成 25 年 5 月に作成した「運動部活動での指導のガイドライン」に則り、**生徒の心身の健康管理**（スポーツ障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む）、**事故防止**（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）及び**体罰・ハラスメントの根絶を徹底**する。

イ 運動部顧問は、スポーツ医・科学の見地から、トレーニング効果を得るために**休養を適切に取ることが必要**であること、また、**過度の練習**がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、**必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと**等を正しく理解し、競技種目の特性等を踏まえた**科学的トレーニングの積極的な導入**等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を工夫して行う。

また、運動部顧問は、生徒とコミュニケーションを十分に図りながら、生徒が体力を向上させ生涯を通じてスポーツに親しむ基礎を培うとともに、バーンアウトすることなく技能や記録の向上等それぞれの目標を達成できるよう、**スポーツ医・科学の見地を踏まえ適切な指導**を行う。

##### (2) 文化部活動における適切な指導の実施

ア 校長及び文化部顧問は、文化部活動の実施に当たっては、文化庁が平成 30 年 12 月に作成した文化部ガイドラインに則り、**生徒の心身の健康管理**（障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む）、**事故防止**（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）及び**体罰・ハラスメントの根絶を徹底**する。

イ 文化部顧問は、**生徒のバランスのとれた健全な成長の確保の観点から休養を適切に取ることが必要**であること等を正しく理解するとともに、生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会等での好成績、地域の行事や催し等への参加などそれぞれの目標を達成できるよう、**分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的な練習・活動等の積極的な導入**等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

### <自主性を尊重した指導の例・ボトムアップ理論>

【令和 2 年度岩手県中学校体育連盟・岩手県高等学校体育連盟研究大会 畑 喜美夫氏（一般社団法人ボトムアップパーソンズ協会代表理事）の特別講演から】

- ・ボトムアップ理論とは、**選手が主導してチーム運営を行う指導法**。
- ・「**主役は、あくまで選手**」であり、**指導者は、選手が迷った場合などに、必要に応じて問題提起を行い、対話を通じて選手の可能性を引き出す「ファシリテーター**」としての役割を担う。
- ・指導にあたって指導者は、**先入観を捨てて選手の可能性を信じること**。 等

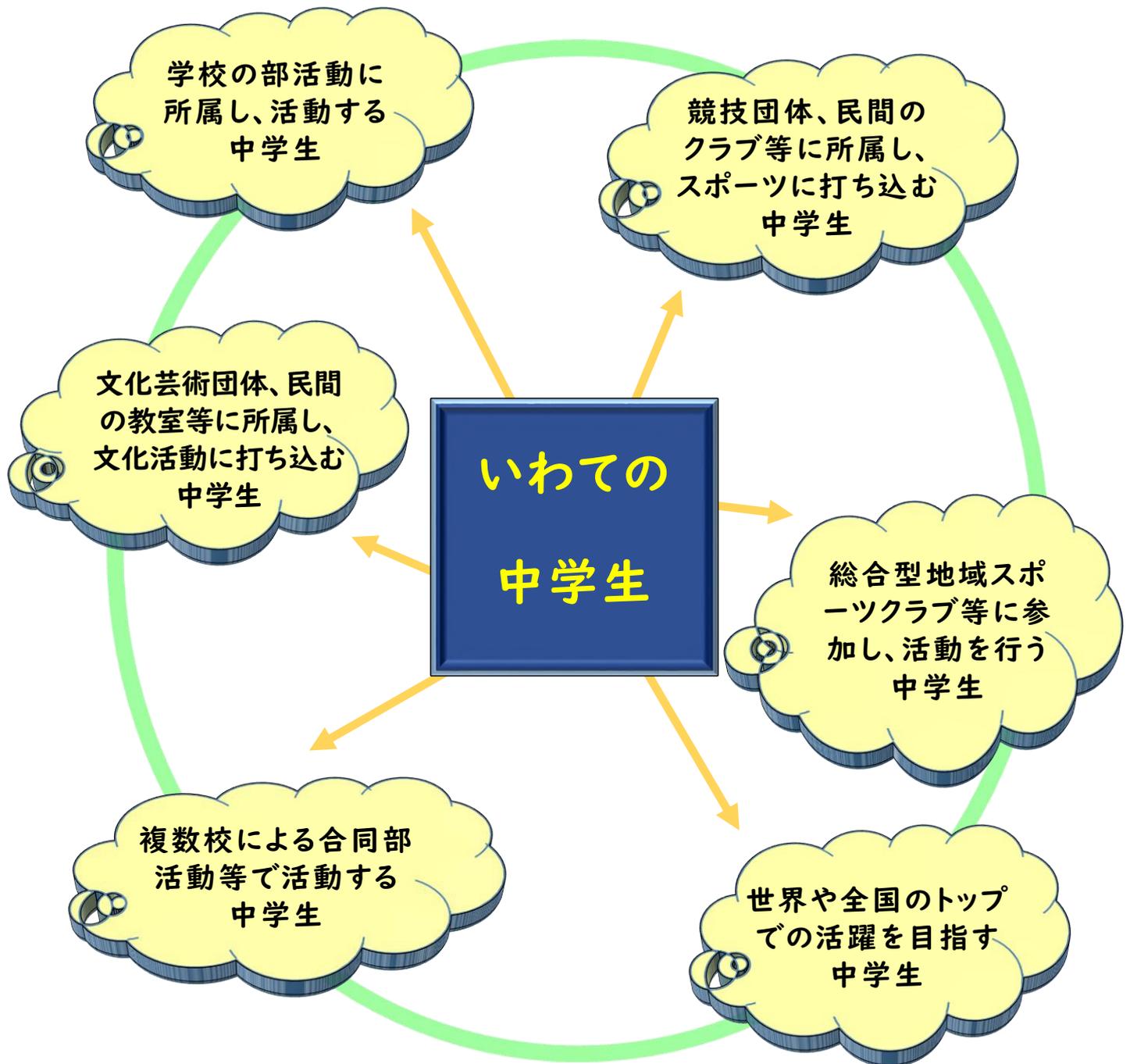
# VI 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革

## 【文部科学省】

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革における具体的な方策	関連する県、県教育委員会、各主体の役割・取組	該当ページ
<p><b>1 休日の部活動の段階的な地域移行（学校部活動から地域部活動への転換）</b></p> <p>休日の部活動における生徒の指導や大会の引率については、学校の職務として教師が担うのではなく地域の活動として地域人材が担うこととし、地域部活動を推進するための実践研究を実施する。その成果を基に、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととする。</p>		
<p>（休日の指導等を担う地域人材の確保）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休日の地域部活動については、教師ではなく地域人材が担うものであり、地方自治体は、教師に代わり生徒の指導や大会への引率を担う地域人材の確保に向けて、人材バンクを整備・活用し、関係団体と連携しながら、人材の育成からマッチングまでの民間人材の活用の仕組みを構築するなどの取組を行う。</li> </ul>	<p>【県・県教育委員会】</p> <p>地域部活動移行への取組</p> <p>【県】</p> <p>中学生の受け入れ体制の整備促進</p> <p>【市町村・市町村教育委員会】</p> <p>活動を希望する中学生の受け入れ体制の検討</p> <p>【関係団体】</p> <p>活動を希望する中学生の受け入れ体制の検討</p> <p>活動を希望する中学生の受け入れ体制の構築</p>	<p>P. 10</p> <p>P. 10</p> <p>P. 13</p> <p>P. 18</p> <p>P. 18</p>
<p>（休日の指導等を担う地域人材の確保）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域部活動の指導者は、部活動に参加する生徒の意向を踏まえ、指導方針や活動内容を決定する。その際、平日の学校部活動との関連性を考慮する必要がある。</li> </ul>	<p>【指導者】</p> <p>適切な指導の推進</p> <p>適切な指導の実施</p>	<p>P. 19</p> <p>P. 19</p>
<p>（休日の指導等を担う地域人材の確保）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、地域部活動の指導者が部活動の意義を理解した上で、生徒のスポーツ・文化への興味関心の向上や体力・技能の向上に資する指導を行うことができるよう、部活動ガイドラインを踏まえ、部活動指導員と同様の研修を行うことが望ましい。</li> </ul>	<p>【県・県教育委員会】</p> <p>地域部活動移行への取組</p>	<p>P. 10</p>

<p>(休日の指導等を担う地域人材の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域部活動において<b>休日の指導を希望する教師</b>は、教師としての立場で従事するのではなく、<b>兼職兼業の許可を得た上で</b>、地域部活動の運営主体の下で<b>従事すること</b>となる。</li> </ul>	<p>【県教育委員会】</p> <p>教員の兼職兼業の整理</p> <p>【市町村・市町村教育委員会】</p> <p>活動を希望する中学生の受け入れ体制の検討</p> <p>【指導者】</p> <p>合同（拠点校）部活動等の指導</p>	<p>P. 10</p> <p>P. 13</p> <p>P. 19</p>
<p><b>2 合理的で効率的な部活動の推進</b></p>		
<p>(合同部活動の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実情を踏まえ、特に少子化の影響が大きい過疎地域においては、地方自治体の判断に基づき、市町村を越えた<b>他校との合同部活動を推進</b>するとともに、都市部においては、市内の近隣校との「拠点校方式」による合同部活動を推進する事業を実施する。</li> </ul>	<p>【県・県教育委員会】</p> <p>地域部活動移行への取組</p> <p>【市町村・市町村教育委員会】</p> <p>合同（拠点校）部活動等の検討</p> <p>合同（拠点校）部活動等の推進</p>	<p>P. 10</p> <p>P. 12</p> <p>P. 13</p>
<p>(大会・コンクールの在り方の整理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会に参加できるのは、一部の学校であり、大多数の学校が関係するのは地方大会である。このため、<b>学校の働き方改革の観点も踏まえ、主に地方大会の在り方を整理</b>する必要がある。</li> <li>また、大会が生徒の活動の成果発表の場であることを考慮しつつも、<b>生徒の大会参加による負担が過度にならないように、参加する大会を精選</b>する。</li> </ul>	<p>【県・県教育委員会】</p> <p>適切な部活動の推進</p> <p>【市町村・市町村教育委員会】</p> <p>市町村（地区）単位の大会開催の検討</p>	<p>P. 10</p> <p>P. 13</p>

## VII 中学生の活動の選択肢を広げるイメージ



岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議 委員

	団体・所属名	職	氏名
1	岩手県中学校校長会	会長（盛岡市立厨川中学校 校長）	菊池 正樹
2	岩手県高等学校長協会	常任理事（不来方高等学校 校長）	熊谷 和浩
3	岩手県特別支援学校連絡協議会	委員（盛岡聴覚支援学校 校長）	齋藤 哲裕
4	岩手県市町村教育委員会協議会	盛岡市教育委員会 学校教育課長	紀 修
5	一般社団法人岩手県私学協会	副会長 （江南義塾盛岡高等学校 理事長・校長）	鷹觜 文昭
6	国立大学法人岩手大学	人文社会科学部 教授	◎ 浅沼 道成
7	一般社団法人岩手県PTA連合会	会長	田口 昭隆
8	岩手県教職員組合	中央執行副委員長	八重樫 千晶
9	岩手県中学校体育連盟	会長（盛岡市立下小路中学校 校長）	橋場 中士
10	岩手県中学校文化連盟	会長（盛岡市立下橋中学校 校長）	松葉 覚
11	岩手県高等学校体育連盟	会長（岩手県立盛岡第三高等学校 校長）	中島 新
12	岩手県高等学校文化連盟	参与（岩手県立盛岡第四高等学校 副校長）	川崎 広幸
13	岩手県高等学校野球連盟	会長（岩手県立盛岡工業高等学校 校長）	南館 秀昭
14	公益財団法人岩手県体育協会	副会長兼理事長	平藤 淳
15	公益財団法人岩手県体育協会 （スポーツ医・科学委員会）	委員長	菅 義行
16	岩手県スポーツ少年団	本部長（県ラグビー協会会長）	白根 敬介
17	岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	会長	高橋 三郎
18	岩手県ふるさと振興部学事振興課	総括課長	中里 武司
19	岩手県文化スポーツ部文化振興課	総括課長	岡部 春美
20	岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課	総括課長	山本 卓美
21	岩手県教育委員会事務局教職員課	参事兼総括課長	山村 勉
22	岩手県教育委員会事務局学校調整課	総括課長	木村 克則
23	岩手県教育委員会事務局学校教育課	総括課長	中川 覚敬
24	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課	総括課長	藤原 安生
25	岩手県教育委員会事務局保健体育課	総括課長	清川 義彦

◎は座長、所属は令和3年3月31日現在であること

# いわての中学生のスポーツ・文化活動のこれから(提言骨子)

令和3年3月

提言の趣旨

スポーツ庁及び文化庁は、部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを策定し、生徒にとって望ましい部活動の実施環境を構築するという観点に立ち、地域、学校、分野、活動目的等に応じた多様な形で最適に実施されることを目指している。その際、「知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む日本型学校教育の意義を踏まえ、豊かなスポーツライフの実現や豊かな心・創造性の涵養を目指した教育の充実を努めること」と「成長期にある中学生が、生涯にわたって心身の健康を保持増進できるよう、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるようにすること」を重視する点としてあげており、中学生の多様な学びの場として部活動の教育的意義は大きい。

本県における部活動は、これまで地域の実情に合わせた形で実施されており、中学生の人格形成に大きな影響を与えている。しかし、生徒数の減少等により、学校単位での部活動運営が困難な状況にあることや、学校外のスポーツ・文化活動に取り組む中学生が見られるなど活動が多様化しており、学校の部活動だけで中学生のニーズに応えることが困難な状況にある。

このような状況を踏まえ、「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議(以下、有識者会議という。)は、生徒の多様な学びの場である部活動の教育的意義を認識しつつ、中学生本位の有意義なスポーツ・文化活動の在り方の方向性を整理することを目的として検討を行ってきた。有識者会議では、文部科学省の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の動きも見据えながら、「望ましい活動・環境の姿」の実現に向け、**中学生のスポーツ・文化活動を支える各主体(市町村・市町村教育委員会、学校、関係団体、指導者)**に求められる役割・取組を提言としてまとめたものである。中学生の活動を支える各主体が、共に中学生の健全な成長のためのパートナーという考えに立ち、「望ましい活動・環境の姿」の実現に向けて取り組むことにより、いわての中学生それぞれの興味・関心に応じた多様な活動を保障することが期待できる。

課題

- 1 中学校における「自主的・自発的な参加により行われる部活動」の推進**
  - (1) 部活動における「所属」と「参加」の捉えが整理されていない
  - (2) 活動の多様化により学校の部活動だけでニーズに応えることが困難
  - (3) 生徒が主体となって活動できる体制づくりが必要であること
- 2 中学生の多様なニーズに応えるための指導者及び活動場所の確保**
  - (1) 地域の活動について周知を図る必要があること
  - (2) 地域単位で運営を支える体制を構築する必要があること
- 3 指導者の適切な指導の推進**
  - (1) 指導者是对話を重視した指導を実施する必要があること
  - (2) スポーツ医・科学に基づいた指導及び合理的でかつ効率的・効果的な指導を実施する必要があること

## 部活動をめぐる動向

これまでの動き

- ・H29.3 中学校学習指導要領告示【文部科学省】
  - 自主的・自発的な参加、教育課程との関連
- ・H30.3 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン【スポーツ庁】
  - 適切な指導の実施、休養日等の設定、生徒のスポーツ環境の整備
- ・H30.6 岩手県における部活動の在り方に関する方針【県教育委員会】
  - 方針の策定、休養日・活動時間の基準
- ・H30.12 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン【文化庁】
  - 部活動の意義及び対象範囲の明記
- ・R1.8 岩手県における部活動の在り方に関する方針(改定版)【県教育委員会】
  - 自主的・自発的な参加、体罰・暴言等の根絶

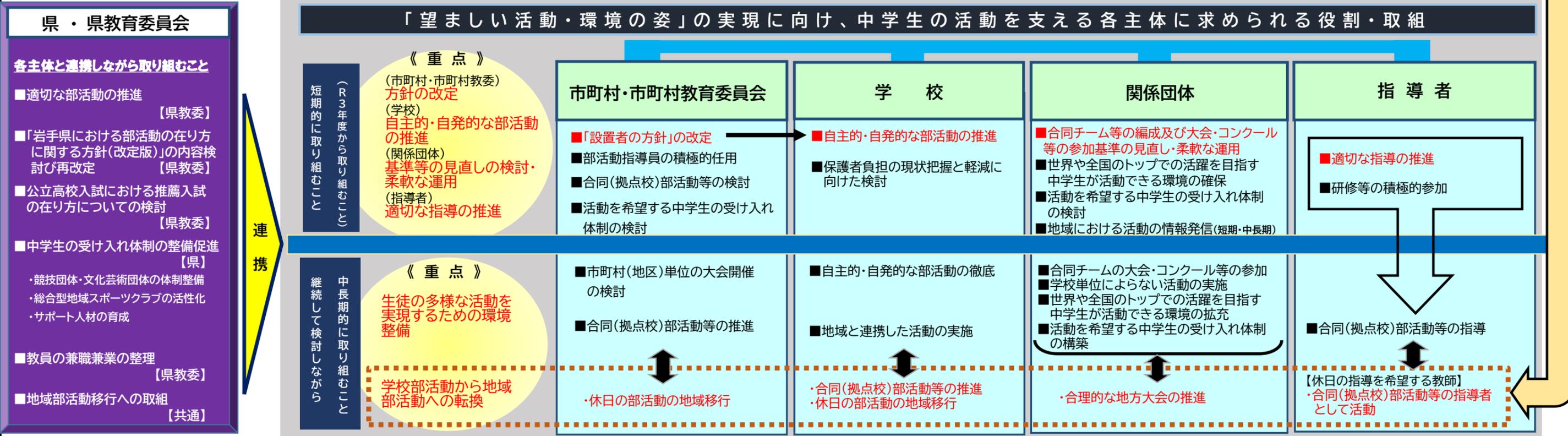
国の新たな取組み

- 『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革』 ※R5年度以降実施(準備等はR2年度～)
- 《改革の方向性》
- 部活動改革の第一歩として、「休日に教師が部活動に携わる必要がない環境」を構築する。
  - 生徒の希望に応えるため、休日において部活動を地域の活動として実施できる環境を整える。
- 《具体的な方策》
- 休日の部活動の段階的な地域移行+休日の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこと
  - 合理的で効率的な部活動の推進 → 他校との合同部活動の推進、大会・コンクールの在り方の整理

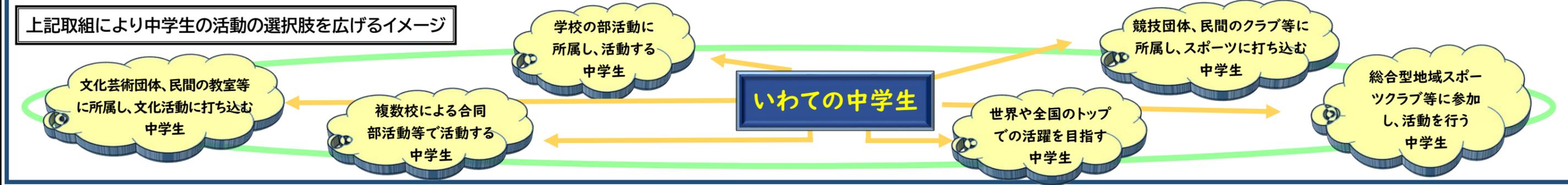
## 望ましい活動・環境の姿

- 自主的・自発的に活動し、中学生による活動の運営等、目標に向かって充実した取組を実践している。
- 学校・地域・関係団体等による環境整備や体制構築が進み、中学生が希望する活動を支えている。
- 指導者と中学生のコミュニケーションが十分に図られ、生涯を通じてスポーツ・文化活動に親しむ基礎を培うことができる。

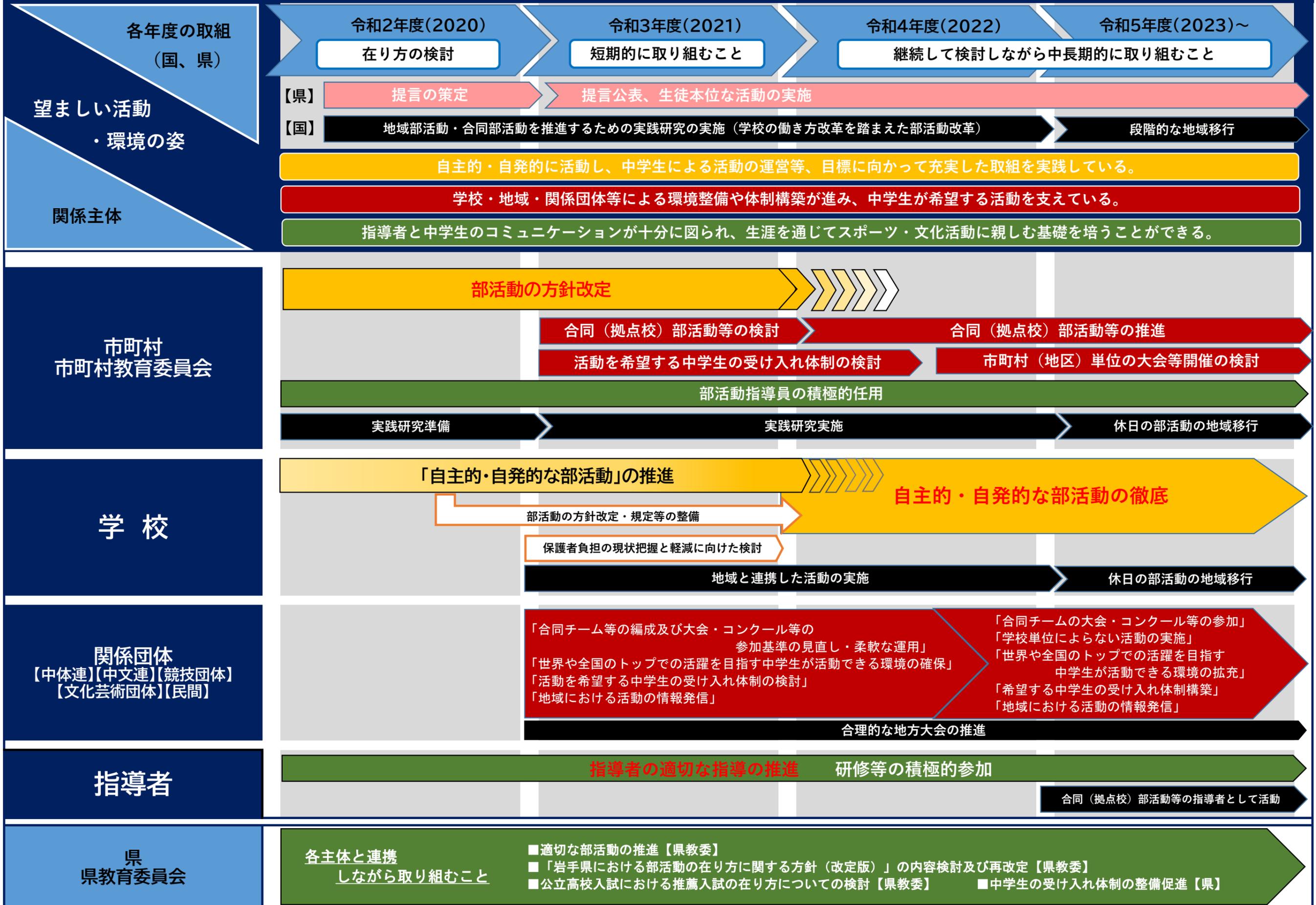
## 「望ましい活動・環境の姿」の実現に向け、中学生の活動を支える各主体に求められる役割・取組



## 上記取組により中学生の活動の選択肢を広げるイメージ



# いわての中学生のスポーツ・文化活動のこれから「各主体の取り組みスケジュール(イメージ)」



# 新しい時代の高等学校教育の実現 に向けた制度改革について (抜粋)

令和3年4月21日

文部科学省初等中等教育局参事官 (高等学校担当)

## 新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改革等について (概要)

- 『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して (答申)』 (令和3年1月26日 中央教育審議会) 及び「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ (審議まとめ)」 (令和2年11月13日 同ワーキンググループ) 等を踏まえて、学校教育法施行規則、高等学校設置基準、高等学校通信教育規程等の一部改正等を行った。

### 1 各高等学校の特色化・魅力化 【学校教育法施行規則・高等学校設置基準の一部改正、通知事項】

#### ◆ 各高等学校に期待される社会的役割等の再定義

- 高等学校の設置者は、高等学校が下記の「三つの方針」を策定する前提として、各高等学校やその立地する市区町村等と連携しつつ、**各高等学校に期待される社会的役割等 (いわゆるスクール・ミッション) を再定義**することが望まれる。

#### ◆ 高等学校における「三つの方針」の策定・公表

- 高等学校は、当該学校、全日・定時・通信制の課程又は学科ごとに**以下の方針 (いわゆるスクール・ポリシー) を定め、公表するものとする。**

(a) 高等学校学習指導要領に定めるところにより**育成を目指す資質・能力に関する方針**

(b) **教育課程の編成及び実施に関する方針**

(c) **入学者の受け入れに関する方針**

(※) 令和4年4月1日から施行 (令和6年度末まで経過措置)

#### ◆ 高等学校と関係機関等との連携協力体制の整備

- 高等学校は、当該学校における教育活動その他の学校運営を行うに当たり、**関係機関等との連携協力体制の整備に努める**こととする。

(※) 令和4年4月1日から施行

### 2 普通科改革 (高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化)

【高等学校設置基準・高等学校学習指導要領の一部改正】

- 普通教育を主とする学科として、普通科以外の学科を設置可能とする。
- 普通科以外の普通教育を主とする学科においては、**各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目**を設け、**2単位以上**を全ての生徒に履修させるなどして教育課程を編成することとする。
- 普通教育を主とする学科のうち、学際領域に関する学科及び地域社会に関する学科については以下のとおりとする。
  - 学際領域に関する学科**については**大学等との連携協力体制を整備**するものとする。
  - 地域社会に関する学科**については**地域の行政機関等との連携協力体制を整備**するものとする。
  - 上記2学科は、**関係機関等との連絡調整を行う職員の配置その他の措置を講じるよう努める**ものとする。

(※) 令和4年4月1日から施行

### 3 高等学校通信教育の質保証【高等学校通信教育規程等の一部改正、ガイドライン・通知事項】

#### ① 通信制課程における教育課程の編成・実施の適正化

##### ◆ 通信教育実施計画の作成・明示等

・通信教育の方法・内容や一年間の計画等を科目ごとに記載した計画として、通信教育実施計画を策定・明示するものとする。

##### ◆ 同時に面接指導を受ける生徒数

・同時に面接指導を受ける生徒数は、少人数とすることを基本としつつ、40人を超えないものであることを明確化。

##### ◆ 関係法令の趣旨明確化

・試験は、添削指導・面接指導との関連を図り、その内容及び時期を適切に定めなければならないこととする。

・多様なメディアを利用して行う学習により面接指導等の時間数を免除する場合には、本来行われるべき学習の量・質を低下させることがないよう、免除する時間数に応じて報告課題等の作成を求めるとともに、多面的・多角的な評価を行うなど学習評価の充実を図るものとする。

・集中スクーリングは、多くとも1日8単位時間までを目安に設定するなど、生徒・教師の健康面・指導面の効果を考慮して適切に定めることとする。

#### ② サテライト施設の教育水準の確保

##### ◆ サテライト施設の法的位置付けの明確化

・通信制高校の展開するサテライト施設について、最低限の教育水準を確保するため、「通信教育連携協力施設」として法的位置付けを明確化。

##### ◆ 高等学校教育を担うに相応しい教育水準の確保

・面接指導等の実施に連携協力するサテライト施設は、本校の基準に照らして、適切な編制・施設・設備等を備えなければならないものとする。

・所轄の都道府県の区域外に所在するサテライト施設は、その所在地の都道府県知事が定める設置認可基準を参酌して、適切性を確認する。

#### ③ 主体的な学校運営改善の徹底

##### ◆ サテライト施設を含めた学校評価の充実

・通信制高校の展開するサテライト施設について、自己評価の実施・公表を行うとともに、関係者評価の実施・公表を努めるものとする。

##### ◆ 教育活動等の情報の公表

・公的な教育機関として社会への説明責任を果たし、外部から適切な評価を受けながら教育水準の向上を図る観点から、サテライト施設ごとに、生徒数・教職員数、教育課程、施設・設備等の教育環境、卒業後の進路状況など、教育活動等の情報を公表するものとする。

(※) 令和4年4月1日から施行

### 4 多様な学習ニーズへの対応【学校教育法施行規則、高等学校単位制教育規程等の一部改正】

◆ 学校間連携制度の対象拡大 ・学校間連携制度の対象について総合的な学習の時間（総合的な探究の時間）を加える。

◆ 少年院の矯正教育の単位認定 ・少年院の矯正教育で、高等学校学習指導要領に準じて行うものについて、単位認定を可能とする。

(※) 令和3年4月1日から施行

◆ 単位制課程における教育課程の情報の公表 ・単位制高等学校の設置者は、その教育課程に関する情報を明示するものとする。

(※) 令和4年4月1日から施行

## 2. (1) 各高等学校に期待される社会的役割の再定義

### ■ 背景

✓ 各高校の在り方を検討する上で、各高校が育成を目指す資質・能力を明確化することが重要

✓ しかし、学校教育目標等が抽象的で分かりにくい、校内外への共有・浸透が不十分といった指摘

### 社会的役割（スクール・ミッション）の再定義

✓ 各高校の存在意義

✓ 期待される社会的役割

✓ 目指すべき高等学校像

高等学校の設置者が各学校や地元自治体等の関係者と連携しながら再定義（施行通知で記載）

✓ 生徒の状況・意向・期待

✓ 現在の社会・地域の実情

✓ 学校の歴史・伝統

✓ 将来の社会像・地域像

高等学校の役割・理念を  
分かりやすく提示



生徒

教職員



中学生

地域住民

地元市町村

地元産業界

✓ 中学校における進路指導の充実や中学生の学校選択、高校生の科目選択にも資するものとして期待

## 2. (1) 各高等学校に期待される社会的役割等の再定義

### 社会的役割等の再定義について

- 1 高等学校に期待される社会的役割等の再定義及び三つの方針の策定・公表について
  - (1) 各設置者においては、その設置する高等学校が三つの方針を策定する前提として、各高等学校やその立地する市区町村等と連携しつつ、各高等学校に期待される社会的役割等(いわゆる「スクール・ミッション」)を再定義することが望まれること。その際、以下の事項について留意すること。
    - ① 当該社会的役割等は、在籍する生徒及び教職員その他の学校内外の関係者に対して分かりやすく当該高等学校の役割や教育理念を示すものとなるよう再定義することが望ましいこと。その際、各高等学校間のいわゆる学力差を固定化・強化するものとならないように十分配慮すること。
    - ② 当該社会的役割等の再定義は、各地域や高等学校の実情等を踏まえ、各設置者において適切な時機を捉えて行うことが望まれること。
    - ③ 当該社会的役割等の策定単位は、高等学校全体とすることが基本であるが、当該高等学校の一体的な運営に配慮しながら学科並びに全日制の課程、定時制の課程及び通信制の課程を策定単位にすることも考えられること。

(「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について(通知)」第2 留意事項より)

13

## 2. (2) 高等学校における「三つの方針」の策定・公表

### 「三つの方針」(スクール・ポリシー)の策定・公表(学校教育法施行規則の改正)

- ✓ 高等学校教育の入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものへと再構成
- ✓ 各高等学校教育の継続性を担保
  - ▶ 特色・魅力ある教育の実現に向けた整合性のある指針として「三つの方針」を策定・公表

第百三条の二 高等学校は、当該高等学校、全日制の課程、定時制の課程若しくは通信制の課程又は学科ごとに、次に掲げる方針を定め、公表するものとする。

- 一 高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針
- 二 教育課程の編成及び実施に関する方針
- 三 入学者の受入れに関する方針

- ✓ 各高等学校における育成を目指す資質・能力を明確化・具体化
- ✓ カリキュラム・マネジメントを通じて、学校全体の教育活動の組織的・計画的な改善へと結実
- ✓ スクール・ポリシーを基準にして、高等学校の教育活動や業務内容を精選・重点化
- ✓ 学校評価において、スクール・ポリシーに照らして自らの取組を点検・評価

### 三つの方針の内容

- ✓ 生徒や入学希望者の学習意欲を喚起し、学校生活や将来に対する展望を持ちやすい表現・内容
- ✓ 日常的に参照可能なよう、総花的なものとならず真に重点的に取り組む内容を示す指針
- ✓ スクール・ポリシーについても日々の教育活動の検証等を通じた見直し

18

## 2. (2) 高等学校における「三つの方針」の策定・公表

### 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

- ✓ 各高等学校に期待される社会的役割等に基づき、生徒の卒業後の姿を見据えて、学校教育活動を通じて生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを定める基本的な方針となるもの

関係者	意義・効果
生徒	同方針に表れた資質・能力を身に付けることが <b>高等学校生活の目標の一つ</b> 〔卒業時の姿から逆算して日々の授業等への取組 大学入学者選抜や就職活動における自身に関する説明に活用可能〕
教職員	同方針に表された資質・能力を育成することを <b>日々の教育活動の最終的な目標</b> として、年間指導計画の策定や日々の授業の実施・改善
設置者	同方針に基づく各高等学校の取組状況を踏まえて、 <b>予算・人事上の措置</b> や <b>指導主事の派遣</b> などの支援
入学希望者	明確化された卒業時の姿を <b>学校選択時の参考情報</b> として活用
関係機関	明確化された各高等学校が育成を目指す資質・能力を踏まえて、 <b>相互のコミュニケーションを円滑化</b>

- ✓ 授業改善等に活用できるよう、**一定の具体性をもった内容**とすることが必要  
(その際、定量的なものというよりも、**定性的な目標**として記載されることに留意)
- ✓ 各教科・科目の単位修得と離れて**独自の卒業要件となるのではない**点に留意

19

## 2. (2) 高等学校における「三つの方針」の策定・公表

### 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

- ✓ 育成を目指す資質・能力に関する方針を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施し、学習評価を行うのかを定める基本的な方針となるもの

関係者	意義・効果
生徒	同方針の内容を踏まえて、卒業までの学習の道筋を捉える
教職員	同方針に基づいて教育課程全体の体系化や各教科・科目の意味付け一貫した方針の下で <b>年間指導計画の策定</b> や <b>日々の授業の実施・改善</b> 等
設置者	同方針に基づく各高等学校の取組状況を踏まえて、 <b>予算・人事上の措置</b> や <b>指導主事の派遣</b> などの支援
入学希望者	教育活動の基本的な方針を <b>学校選択時の参考情報</b> として活用
関係機関	各高等学校の教育内容に関する方針が共有されることで <b>相互のコミュニケーションが円滑化</b>

- ✓ 同方針は**カリキュラム・マネジメントの基盤**。教育課程の編成という計画段階の方針にとどまらず、教育課程の実施や、教育課程の評価に当たって参照されるもの
- ✓ 新学習指導要領において重要視される**「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」**を意識して策定

20

## 2. (2) 高等学校における「三つの方針」の策定・公表

### 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

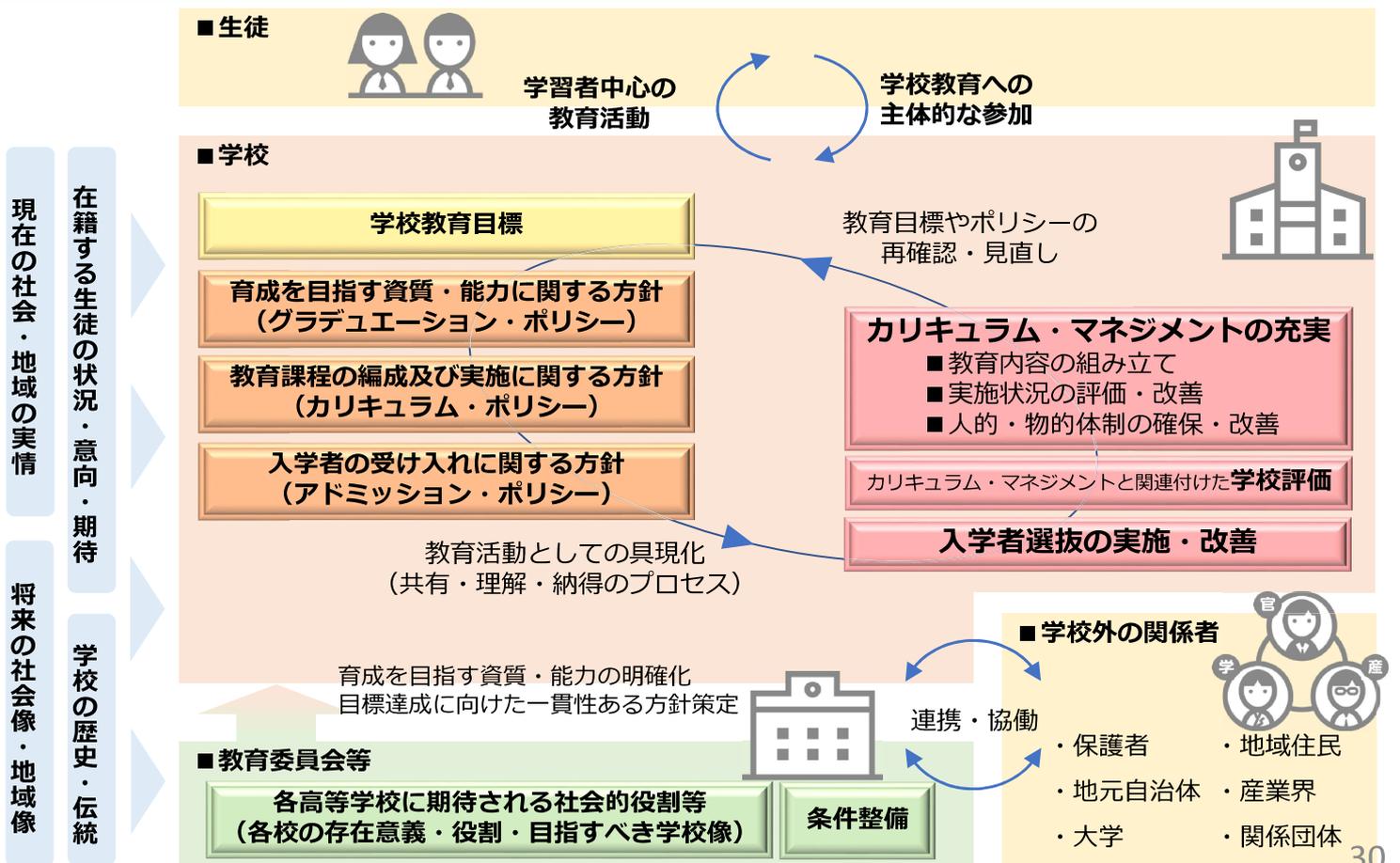
- ✓ 各高等学校に期待される社会的役割等や、育成を目指す資質・能力に関する方針と教育課程の編成及び実施に関する方針に基づく教育内容等を踏まえ、入学時に期待される生徒像を示す基本的な方針となるもの。

関係者	意義・効果
入学希望者	学校選択時の判断基準や入学に向けた目標
中学校の教職員	進路指導に当たる上での参照情報

- ✓ 一覧性を高める観点から、同方針の公表を各高等学校がそれぞれに行うだけでなく、都道府県教育委員会のホームページ等で一元的に公表するなどの工夫
- ✓ 育成を目指す資質・能力に関する方針と教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえ、これら方針に基づく教育を受ける生徒に対するメッセージとしてふさわしい内容
- ✓ 生徒の資質・能力は可塑性に富むものであることから、入学時において求められる資質・能力を余りに厳格に定めることによって、学ぶ意欲を持った生徒に対して高等学校教育の門戸を閉ざすこととなってはならない

21

### 各高等学校に期待される社会的役割等及び「三つの方針」に基づく教育活動の実施・改善（イメージ）



30

いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031  
(岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション)

令和3年10月25日

岩手県教育委員会

# 目 次

I	「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」の策定にあたって	
1	高等学校の特色化・魅力化の必要性	1
2	本県の取組	1
3	グランドデザインについて	1
4	グランドデザイン策定の背景	2
II	グランドデザインの方向性	
1	いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031 の理念	3
2	全校共通の視点	4
III	各高等学校における具体の取組	
1	各高等学校に期待される役割・魅力化協働パートナーの検討	5
2	教育課程の特色化の検討	6
3	(普通科) 学科名変更の検討	8
4	スクール・ポリシーを踏まえた選択的導入の検討	9
IV	スクール・ポリシーの策定・運営方針	10

## I 「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」の策定にあたって

### 1 高等学校の特色化・魅力化の必要性

今日、高等学校への進学率は99%に達し、高等学校には入学動機、進路希望、学習経験など様々な背景を持つ生徒が入学している現状を踏まえ、高等学校においては、大学進学や就職のみを目標とすることなく、高校生の学習意欲を喚起し、新たなことを学び、挑戦する意欲を育むための学びが求められている。また、社会が劇的に変化し続け、予測困難な時代を迎えつつあることを踏まえ、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていく持続可能な社会の創り手を育成することが必要である。

これらの実現に向けて、生徒の可能性及び能力を最大限に伸長するため、各高等学校の特色化・魅力化に向けた取組が不可欠となる。

### 2 本県の取組

本県ではこれまでも「いわて県民計画（2019～2028）」や「岩手県教育振興計画」のもと、地域や関係機関と連携し、郷土に誇りと愛着を持つ心を育み、岩手で、世界で活躍する人材の育成に取り組んでいるところであり、令和2年度からは小規模校を対象とした「高校の魅力化促進事業」を実施し、地域や関係機関とともに魅力ある学校づくりを推進してきたところである。今後、高等学校に求められる学びを実現するためには、すべての県立高等学校において特色・魅力ある教育活動を実践することが必要となる。

### 3 グランドデザインについて

令和3年1月に示された中央教育審議会答申において、設置者に各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化(スクール・ミッションの再定義)を行うことが示された。また、各学校はスクール・ミッションに基づき、高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受け入れに関する方針を策定、公表することが示された。

県教育委員会では、スクール・ミッションについては、特色・魅力ある学校づくりの推進に資するよう、今後の県立高等学校の在り方、取組の連携先の枠組み及び教育課程の特色化の例等を「いわての高校教育魅力化グランドデザイン for 2031」として定め、各学校の三つの方針(スクール・ポリシー)の策定における指針を示すこととしたものである。

## 4 グランドデザイン策定の背景

### (1) 国（文部科学省）の動向

#### 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」（2022.4実施）

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・各学校におけるカリキュラム・マネジメントの実現

#### 中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（2021.1）

（新時代に対応した高等学校教育等の在り方について）

#### (2) ①各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化

##### （スクール・ミッションの再定義）

#### ②各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針の策定

##### （スクール・ポリシーの策定）

#### ③「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化（普通科改革）

#### ④産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成

##### （専門学科改革）

#### ⑤新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進

#### ⑥高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供

### (2) 県・県教育委員会による各種計画

#### いわて県民計画(2019～2028)

##### ○地域に貢献する人材の育成

- ・ふるさとを愛し、社会に貢献する意識の醸成
- ・教育機関や地元企業などの関係機関と連携した人材の育成
- ・産学官が一体となった次代の産業を担うグローバル人材の育成

##### ○文化芸術・スポーツを担う人材の育成

- ・文化芸術活動を担う人材育成や競技力の向上

##### ○高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの推進

- ・高等教育機関等と連携した高い専門性と教養を備えた人材の育成及び地元定着に向けた取組の推進

#### 第2期岩手県ふるさと振興総合戦略

##### ○ふるさとの未来を担う人づくり戦略

#### 岩手県教育振興計画（2020.3）（取組の視点）

- 岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進
- 郷土に誇りと愛着を持つ心を育み、岩手で、世界で活躍する人材を育成
- 学びの場の復興の更なる推進

## 新たな県立高等学校再編計画後期計画（2021.5）

（基本的な考え方）

### ○生徒の希望する進路の実現

・生徒が自ら希望する進路を実現できる教育環境の整備

### ○地域や地域産業を担う人材づくり

・生徒が自己の興味・関心に基づき、地域の社会情勢や産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備

## （3）義務教育とのつながり

### 義務教育の実践

○いわての復興教育

○いわてのキャリア教育

○地域や家庭と連携・協働して進める学校づくり

○総合的な学習の時間

○多様な体験活動

○ICTの活用

## II グランドデザインの方向性

### 1 いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031 の理念

魅力化協働パートナー※<sup>1</sup>とともに 特色ある教育課程を通じて 多様な生徒の学習意欲を喚起しながら可能性及び能力を最大限に伸長する 質の高い いわての高校教育

各高等学校において育成を目指す資質・能力を具体化し、特色・魅力ある教育活動を実践するにあたって、「社会に開かれた教育課程の実現」の理念のもと、地域の実情や在籍する生徒の実態に基づいて各高等学校に期待される役割を踏まえ、地域社会、地元行政機関、大学及び企業等の魅力化協働パートナーとともに、特色ある教育課程、教育活動を検討していくこととなる。

また、「総合的な探究の時間」において、探究や各教科の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成することが目標となる。加えて、その探究のプロセスにおいて学習した内容が自己の在り方生き方につながるという実感を持つことで、学習意欲を引き出すとともに、生徒同士や地域内外の方々など多様な他者と協働的な学びを進めることで、他者を価値ある存在として認めることに加え、自分の考え

を他者と共有することによる自己有用感の醸成にもつながるものと考えられる。

## 2 全校共通の視点

各高等学校が特色・魅力ある教育活動を立案、実践する上で、以下の共通の視点を踏まえることが求められる。

- 主体的・協働的・探究的な学び
- SDGs<sup>※2</sup>・グローバル<sup>※3</sup>・教科等横断・越境（国や地域）
- いわての復興教育（いきる・かかわる・そなえる）
- 就職や進学等生徒の希望する進路の実現

### （1）主体的・協働的・探究的な学び

#### ・主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び。

#### ・協働的な学び

生徒同士や多様な他者と協働しながら自己の考えを広げ深める学び。直接対面するだけでなく、ICT機器を活用することで国や地域等の枠組みを越えた交流による、自己の考えを深める取組なども考えられる。

#### ・探究的な学び

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。

#### ※1 魅力化協働パートナー

学校運営協議会やコンソーシアムの一員として、学校と連携・協働し、特色化・魅力化を進める関係機関・団体及び個人。

#### ※2 SDGs

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。

#### ※3 グローカル

グローバル（global）とローカル（local）を掛け合わせた語で、国境を越えた地球規模の視野と、草の根の地域の視点で、様々な問題を捉えていこうとする考え方。

## (2) SDGs・グローバル・教科等横断・越境（国や地域）

現代の諸課題を考察する上でSDGsやグローバルは重要な視点であるが、これらは各教科・科目の学習に加え、各教科・科目の学習を通じて身に付けた見方・考え方を教科等横断の取組により相互に関連付けながら活用することで、SDGsやグローバルに対する理解が促進されるとともに、現代の諸課題の解決につなげることも可能となる。また、自分の身の回りの地域の課題を考察する取組においても、国や地域を越えた越境の視点をもつことで、現状にとどまらず、より広く、深い考察へとつなげ、予測困難な時代を生き抜く力を育成することにつながる。

## (3) いわたの復興教育（いきる・かかわる・そなえる）

各高等学校は従前から「いわたの復興教育」を学校経営の柱の一つに位置付けてきたところであるが、引き続き、家庭・地域と連携し、「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値を育てることに取り組むことを通じて、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成することが期待される。

## Ⅲ 各高等学校における具体の取組

### 1 各高等学校に期待される役割・魅力化協働パートナーの検討

学びが多様化する中で、教育活動を一層充実させるためには、地元自治体、企業、研究機関との連携は重要であり、連携先により、その高等学校の特色や魅力が明確になることから、グランドデザインでは連携先により「地域連携」「学術・国際連携」「産学連携」の3つの枠組みを設定したところである。

各高等学校ではスクール・ポリシーを策定・実現していくに当たって、これらの枠組みをそれぞれ意識しながら連携先と協働し、学校の特色化・魅力化を進めるものとする。

#### (1) 地域連携

##### ア 各高等学校に期待される役割

- 地域を支える人材の育成など、地方創生において重要な役割を担うことが期待される普通科等を設置する高校
- 生徒の多様な進路希望に対応できるように地域資源の活用による各系列の教育内容の充実が期待される総合学科を設置する高校

##### イ 魅力化協働パートナー

地域の行政機関、事業者、地域活性化に取り組む機関・団体及び個人

#### (2) 学術・国際連携

##### ア 各高等学校に期待される役割

- 様々な分野の専門人材やグローバル人材等の育成を含め、生徒の多様な進路希望に応じた教育内容の充実が期待される普通科や理数科等を設置する高校
- 体育、音楽、美術、外国語、国際関係等、特色ある教育内容の充実が期待される学科・学系を設置する高校
- イ 魅力化協働パートナー
  - 大学等、国の機関又は国際機関、国際的な活動に取り組む機関・団体及び個人

### (3) 産学連携

- ア 各高等学校に期待される役割
  - 本県産業の振興を担う人材の育成に向けて、多様な専門分野（農業、工業、商業、水産、家庭、福祉等）における教育内容の充実が期待される専門学科・総合学科を設置する高校
- イ 魅力化協働パートナー
  - 企業、産業技術研究機関、産業振興に取り組む機関・団体及び個人

## 2 教育課程の特色化の検討

1で示した3つの枠組みを意識しながら、連携先と協働してスクール・ポリシーを策定することとなるが、特に教育課程の特色化（カリキュラム・ポリシー等）を検討する場合には、新学習指導要領において、各教科・科目の見方・考え方を総合的に活用する教科として「総合的な探究の時間」が設定されるなど、探究的な学びが重視されることから、すべての学校において探究活動を教育課程の特色化の一つとして位置付けることが期待される。なお、以下に示すものはあくまで例であり、各学校の特色に応じてこの他の探究活動に取り組んだり、複数を組み合わせたりすることも考えられる。また、課程、学科、系列ごとに策定することも差し支えない。

### (1) 地域連携

- ア 地域課題探究
  - 現在及び将来の地域社会が抱える課題や地域の魅力に着目し、地域課題の解決に向けて、地域人材との連携・協働や地域資源の活用等により、実践的・探究的な学びを推進
- イ グローカル探究
  - 現代的な諸課題のうち、現在及び将来の地域社会が有する課題等をより広範な視点から探究的に取り組む学びを推進

### (2) 学術・国際連携

ア 学際融合探究

文理の枠を超えて、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びを推進

イ 国際融合探究

グローバルな視点で各分野の学びを深化させ、国際的な機関等と連携してローカルとグローバルを融合させた学びを推進

(3) 産学連携

ア 先進技術探究

IoT<sup>※4</sup>や AI 等、Society5.0<sup>※5</sup>の到来を視野に入れて、各分野において絶えず進化する専門知識・技能を実践的なものづくり教育を通じて習得し、持続可能な産業の発展に寄与する人材育成に向けた学びを推進

イ 地域産業探究

地域の産業機関と連携・協働しつつ、地域や地域産業の抱える課題解決に向けて、生徒や地域の実態に応じた実践的・探究的な学びを推進

※4 IoT

《Internet of Things》あらゆるモノがインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれを可能とする要素技術の総称。

※5 Society5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間社会中心の社会。

### 3 (普通科) 学科名変更の検討

令和3年3月31日に高等学校教育改革の推進に向けた省令等の公布<sup>※6</sup>が行われ、高等学校における「普通教育を主とする学科」について、「地域社会に関する学科及び学際領域に関する学科の設置を可能とする、普通科の弾力化<sup>※7</sup>」が示されたところである。地域連携を選択した高校においては「地域社会に関する学科（地域探究科等）」への移行や、学術・国際連携を選択した高校においては「学際領域に関する学科（学際探究科等）」への移行について、必要に応じて検討を行う。

#### ※6 高等学校教育改革の推進に向けた省令等の公布

以下の3つを指す。

- ・学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（令和3年文部科学省令第14号）
- ・高等学校学習指導要領の一部を改正する告示（令和3年文部科学省告示第61号）
- ・中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件及び連携型中学校及び連携型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件の一部を改正する告示（令和3年文部科学省告示第62号）

#### ※7 普通科の弾力化

「地域社会に関する学科」「学際領域に関する学科」に移行した場合に以下のようなものが求められる。

- ・学際では大学等、地域では地域の行政機関等との連携協力体制を構築する。
- ・学際及び地域に関する学科は、連絡調整を行う職員（いわゆる「コーディネーター」）の配置、その他の措置を講ずるように努める。
- ・学際及び地域に関する学科は学校設定科目2単位を設け、総合的な探究の時間と併せて6単位以上を履修する。

#### 4 スクール・ポリシーを踏まえた選択的導入の検討

前述の「1 各学校に期待される役割・魅力化協働パートナーの検討」、「2 教育課程の特色化の検討」を行いながらスクール・ポリシーを各高等学校が設定するが、その際以下の導入について併せて検討を行う。

- (1) 遠隔教育
- (2) 県外受入れ
- (3) 通級指導
- (4) 単位制
- (5) スーパーサイエンスハイスクール（SSH）※<sup>8</sup>
- (6) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業※<sup>9</sup>
- (7) デュアルシステム※<sup>10</sup>
- (8) 学科・学系協働体制
- (9) マイスター・ハイスクール※<sup>11</sup>

※<sup>8</sup> スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

文部科学省から指定を受け、科学技術系人材の育成のため、各学校で作成した計画に基づき、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関などとの連携、地域の特色を生かした課題研究など様々な取組を行う。

※<sup>9</sup> WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業

文部科学省から指定を受け、将来、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組み（ALネットワーク）の形成を目指す取組。

※<sup>10</sup> デュアルシステム

学校と企業が一緒になって生徒を育成する職業教育。インターンシップよりも長い期間で就業訓練を行う取組。

※<sup>11</sup> マイスター・ハイスクール

文部科学省から指定を受け、職業教育を主とする学科を置く高等学校等と成長産業化に向けた革新を図る産業界等が一体・同期化し、地域の持続的な成長を牽引するための、絶えず進化する最先端の職業人材育成システムを構築し、成果モデルを示すことで、全国各地で地域特性を踏まえた取組を加速化させることを目指す。この趣旨の達成のため、専門高校等と産業界、地方公共団体が一体となって最先端の職業人材育成システムを構築するとともに、上記趣旨の達成に必要な専門高校等の職業人材育成にかかる教育課程等の改善に資する実証的資料を得るための研究開発を行う取組。

#### IV スクール・ポリシーの策定・運営方針

スクール・ミッションを受け、各高等学校においてスクール・ポリシーを策定し、学校を運営していくこととなるが、その方針を以下に示す。

- 1 「地域連携」「学術・国際連携」「産学連携」の3つの枠組みをそれぞれ意識しながらスクール・ポリシーを策定すること。
- 2 探究的な学びを特色化の一つとして位置付けること。
- 3 「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」に基づいて令和4年度中に策定・公表すること（令和5年度入学者の多様な進路選択の観点から、7月頃までの策定が望ましい）。
- 4 魅力化協働パートナーを構成員に加えた協議会（学校運営協議会を含む）において検討・協議し策定すること。
- 5 2022（令和4）年度から始まる新学習指導要領を念頭に置き、2031年までを期間として策定することとし、必要に応じて見直しを行うこと。
- 6 併置校については、課程や学科ごとに策定することも構わないこと。
- 7 協議会等においてスクール・ポリシーの評価・検証を定期的に行うこと（現在実施している学校評価等と一体的に行うことにより、新たな負担が生じないよう留意すること）。
- 8 スクール・ポリシー策定後は、スクール・ポリシーを踏まえて学校経営計画等各種計画を作成することにより、一体的な学校経営・運営を図ること。
- 9 スクール・ポリシー策定の要領は別に定める。

# いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031（岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション）

## 1 グランドデザイン策定の背景

### 国（文部科学省）の動向

#### 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」（2022.4実施）

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・各学校におけるカリキュラム・マネジメントの実現

#### 中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（2021.1）

（新時代に対応した高等学校教育等の在り方について）

- (2) ①各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化（スクール・ミッションの再定義）  
 ②各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針の策定（スクール・ポリシーの策定）  
 ③「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化（普通科改革）  
 ④産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成（専門学科改革）  
 ⑤新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進  
 ⑥高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供

### 県・県教育委員会による各種計画

#### いわて県民計画(2019～2028)

- 地域に貢献する人材の育成
    - ・ふるさとを愛し、社会に貢献する意識の醸成
    - ・教育機関や地元企業などの関係機関と連携した人材の育成
    - ・産学官が一体となった次代の産業を担うグローバル人材の育成
  - 文化芸術・スポーツを担う人材の育成
    - ・文化芸術活動を担う人材育成や競技力の向上
  - 高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの推進
    - ・高等教育機関等と連携した高い専門性と教養を備えた人材の育成及び地元定着に向けた取組の推進
- 第2期岩手県ふるさと振興総合戦略**  
 ○ふるさとの未来を担う人づくり戦略

#### 岩手県教育振興計画(2020.3)

- （取組の視点）
- 岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進
  - 郷土に誇りと愛着を持つ心を育み、岩手で、世界で活躍する人材を育成
  - 学びの場の復興の更なる推進

#### 新たな県立高等学校再編計画後期計画(2021.5)

- （基本的な考え方）
- 生徒の希望する進路の実現
    - ・生徒が自ら希望する進路を実現できる教育環境の整備
  - 地域や地域産業を担う人材づくり
    - ・生徒が自己の興味・関心に基づき、地域の社会情勢や産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備

### 義務教育とのつながり

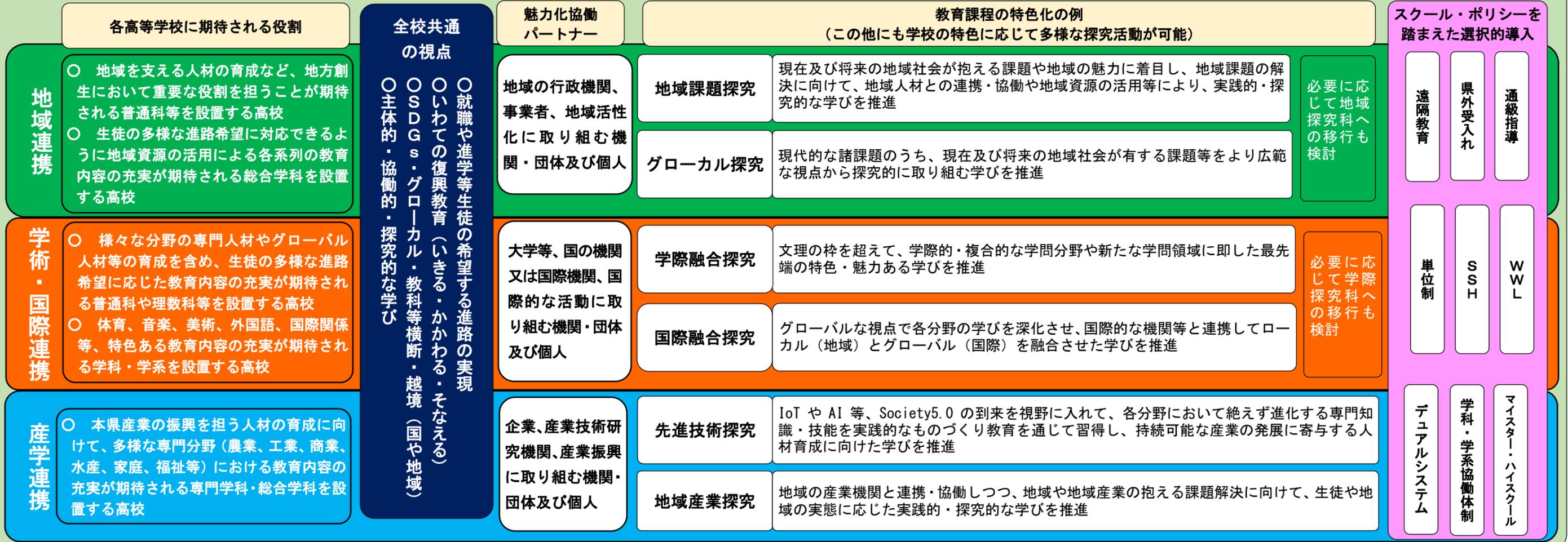
#### 特色ある高校教育の実現

#### 義務教育の実践

- いわての復興教育
- いわてのキャリア教育
- 地域や家庭と連携・協働して進める学校づくり
- 総合的な学習の時間
- 多様な体験活動
- ICTの活用

## 2 グランドデザインの方向性

魅力化協働パートナーとともに 特色ある教育課程を通じて 多様な生徒の学習意欲を喚起しながら可能性及び能力を最大限に伸長する 質の高い いわての高校教育



## 3 スクール・ポリシーの策定・運営方針

- ①上記3つの枠組みをそれぞれ意識しながらスクール・ポリシーを策定すること。
- ②探究的な学びを特色化の一つとして位置付けること。
- ③高校魅力化グランドデザイン（スクール・ミッション）に基づいて令和4年度中に策定・公表すること。
- ④魅力化協働パートナーを構成員に加えた協議会（学校運営協議会を含む）において検討・協議し策定すること。
- ⑤2031年までを期間として策定することとし、必要に応じて見直しを行うこと。
- ⑥併置校については、課程や学科ごとに策定することも構わないこと。
- ⑦協議会等においてスクール・ポリシーの評価・検証を定期的に行うこと。
- ⑧スクール・ポリシー策定後は、スクール・ポリシーを踏まえて学校経営計画等各種計画を作成すること。